

14. 2□-149



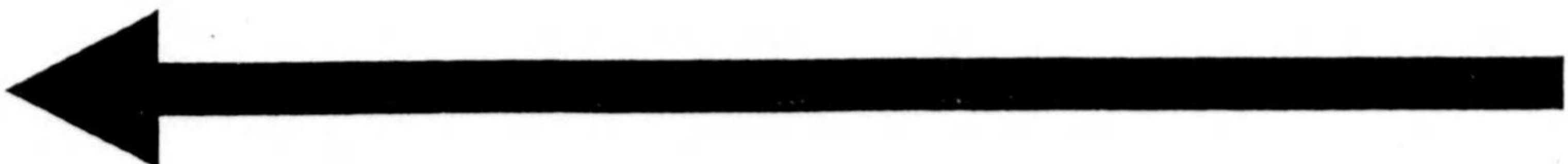
1200501167507

14.2□

149



始



昭和十
年
大阪貿易彙纂

大阪府立貿易館



昭和十年

大阪貿易彙纂



發行所寄贈本

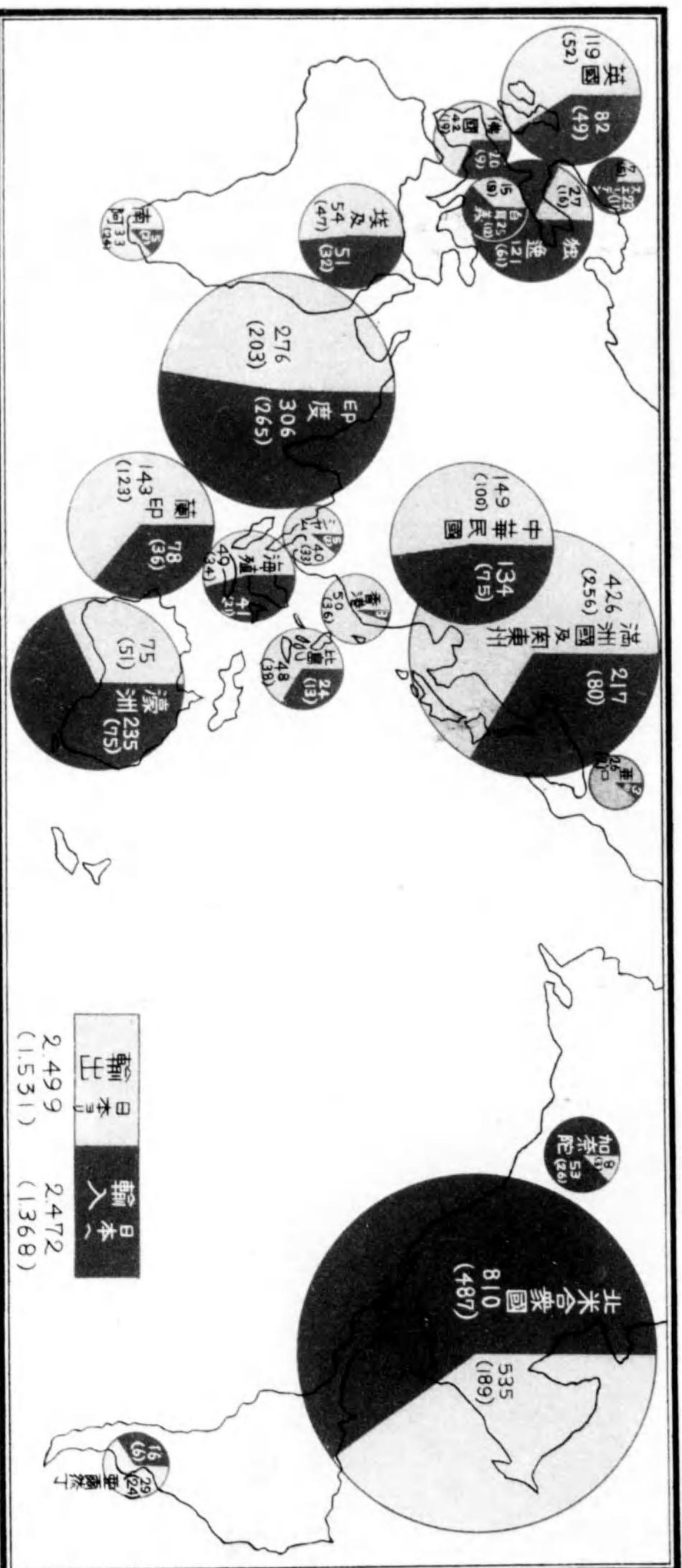
昭和十一年對外貿易總額



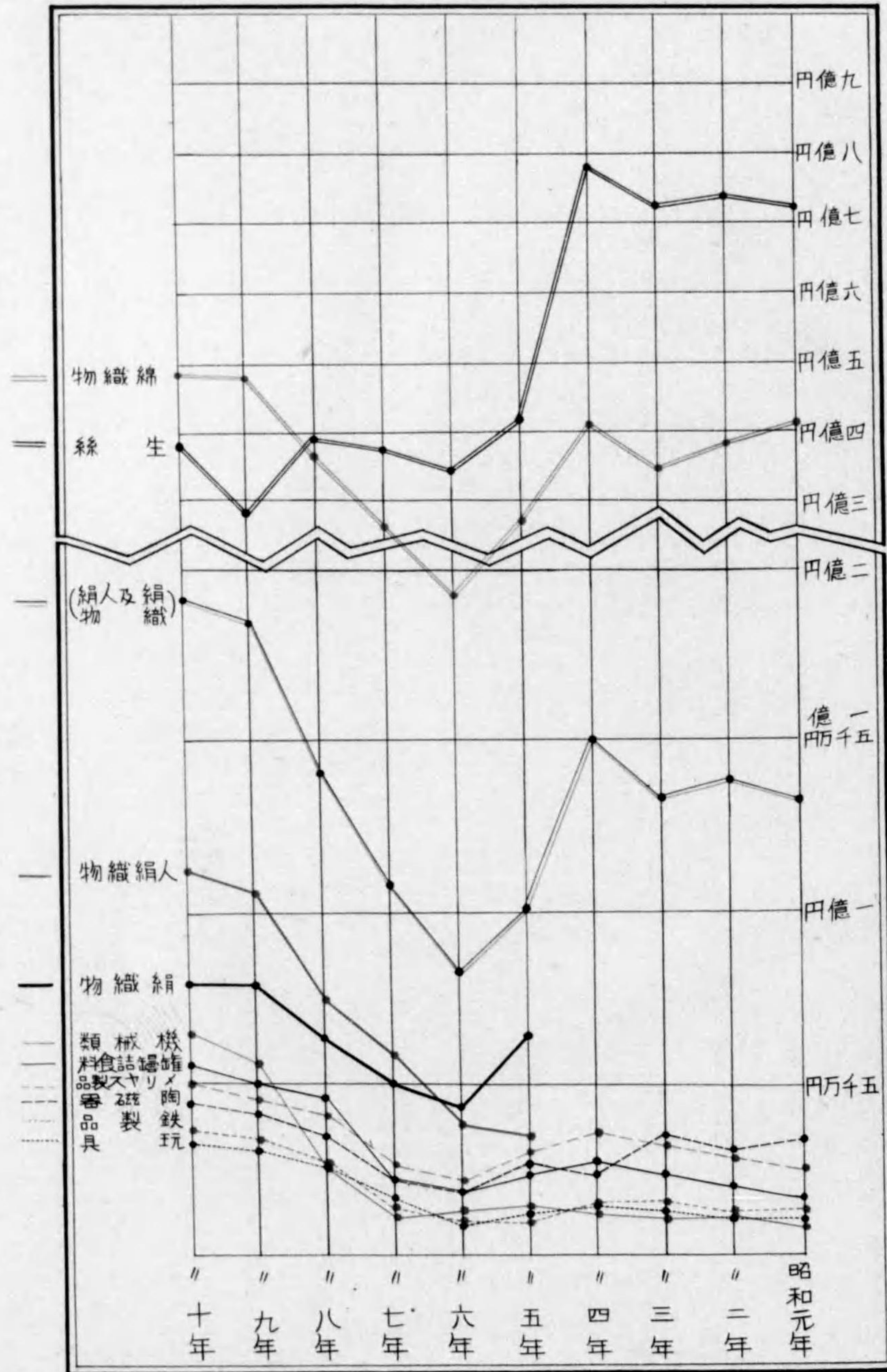
昭和十一年對外貿易總額

昭和十一年

本邦主要對入輸出國對照圖



表移推年累品出輸要主國全



148
82
1422-149

凡 例

- 一、本書第一篇は昭和十年中における阪神兩港の重要輸出入品の概況を敘述す。
- 一、敘述のために採録の商品は阪神兩港に於て輸出又は輸入年額二百萬圓以上のものを標準としたり。
- 一、第二篇及第三篇(大阪港及神戸港輸出入國別年計明細表)は本館の特別調査に係るものにして、江湖の資料として其價值大なるを信ず、第一篇敘述の品目に關しても本篇を参照せらんことを望む。
- 一、本書は第三篇に亘るも使用に便とするため合本一冊とせり。
- 一、本書は調査及記述當事者數名の執筆にかゝる結果、幾分敘述方法に多少の差違あるも其の主眼を同じうす、乞諒讀。

昭和十一年十二月

大阪府立貿易館

第二篇第三篇（大阪港及神戸港輸出入國別年計細明表）に使用せる國別名表示左の如し

略稱	國名	滿洲				關東	支那			ソ	フ	暹	英領馬來	海峽殖民地
		朝鮮	大連	浦	營		他	北	中					
	滿洲國(朝鮮經由)	ク	ク	ク	ク	關東	北支那	中支那	南支那	露領亞細亞	佛領印度支那	英領馬來	海峽殖民地	
	(大連經由)			(浦營經由)	(營口經由)									
	(其他經由)													

略稱	國名	印	セ	ベ	イ	シ	バ	アラ	ア	サ	比	ポ	蘭	英	愛
	英領印度	セイロン	イラン(舊ペルシア)	イ	シ	パレスチナ	アラビヤ	アラビヤ	ア	サイプレス	比	ポ	蘭領東印度	英領吉亞	愛蘭自由國

略稱	國名	佛	獨	伊	瑞	埃	チ	波	白	和	丁	露	芬	典	諾	葡
	佛蘭西	獨逸	伊太利	瑞	埃	チエツコ・スロバキア	波蘭及ダンチツヒ	白耳義、ルクセンブルグ、同、盟	和	丁	露	芬	典	諾	葡	

西	班	牙	希	土	馬	歐	加	北米	墨	グ	ホ	サル	ニ	コ	バ	運
西	班	牙	希臘	土耳其	馬耳他	其他歐洲諸國	カナダ	其他北米諸國	墨西哥	グアテマラ	ホンチユラス	サルヴァドル	ニカラガ	コスタリカ	バナマ	運河地帯

玖	馬	ジ	ハイ	ド	バ	ポ	セン	トリ	キ	中米	秘	智	亞	ウ	伯	佛	蘭
玖	馬	ジ	ハイ	ド	バ	ポ	セン	トリ	キ	中米	秘	智	亞	ウ	伯	佛	蘭

英	ウ	コ	エ	南	埃	アン	エリ	佛	伊	ケ	モ	南	白	カ	ナ	黄
英	ウ	コ	エ	南	埃	アン	エリ	佛	伊	ケ	モ	南	白	カ	ナ	黄

昭和十年大阪貿易彙纂

第一篇 昭和十年本邦並阪神の對外貿易概況

目次

第一章 第一節 總說	一
第二章 第二節 本邦貿易概勢	三
a、主要港別貿易	六
b、國別貿易	八
c、類別貿易	一五
d、品種別貿易	一七
第三章 第一節 主要相手國別貿易概況	三三
a、中華民國	三三
b、滿洲國	三六
c、英領印度	三九
d、蘭領東印度	四三
e、比律賓	四五

略稱	國名
リベ	リベリア
シエ	シエラレオネ
セネ	セネガール
佛モ	モロツコ
西モ	西領モロツコ
アル	アルジェリア
チュ	チュニニス
リビ	リビア
カ	カナリヤ諸島
マダ	マダガスカル 及リユニオン
モ	モリシウス
阿	其他阿非利加諸國
濠	濠洲
ニギ	ニギール、ギニア
ニカ	ニュー、カレドニア
新	新西蘭

略稱	國名
ギル	ギルバート
ファイ	ファイジー
ソサ	ソサイテイ島
布	布哇
太	其他諸國
保	保稅工場
指	指圖式

化粧石鹼	101
磷寸	101
陶磁器	101
硝子製品	104
絶縁電線	106
珐瑯鐵器	107
セルロイド及同製品	108
學術器	109
自轉車及同部分品	110
ゴムタイヤ及チューブ	111
機械類	113
ランプ及同部分品	114
刷子	115
玩具	116
花筵	117
B、輸入品概況	118
飲食料品	118
牛	119
肉	119
小麥	120
大豆	121
砂糖	121

原料品及原料用製品	124
木材	124
採油用原料	125
牛皮及水牛皮	126
革類	127
生ゴム	126
棉花	128
麻類	128
羊毛類	129
磷石	129
硫安	129
油槽	129
苛性曹達(粗製)、曹達灰及天然曹達	130
漆	130
合成染料	130
綿織糸	131
パルプ	131
礦油	131
石炭	131
貝殼	131

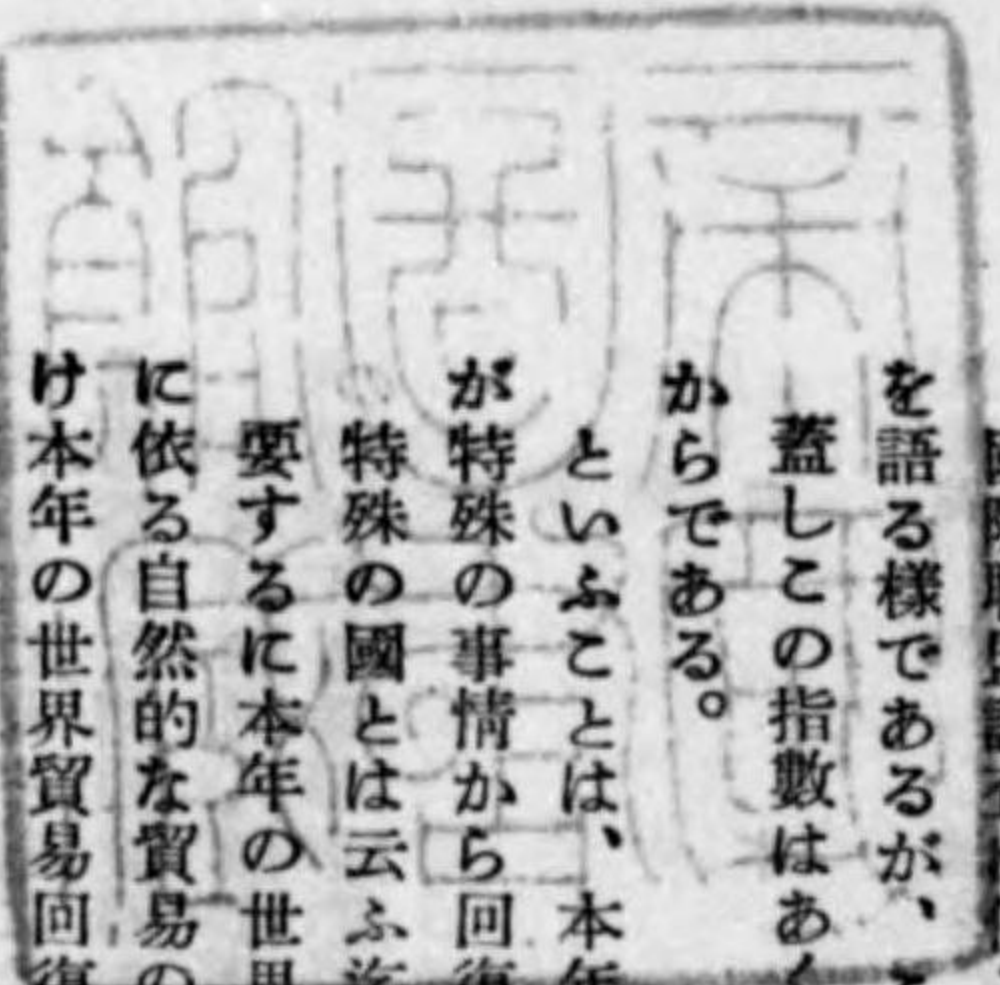
鐵	一〇
銅 (塊及錠)	一〇
アルミニウム (塊及錠)	一〇
鉛 (塊及錠)	一〇
亜鉛 (塊、錠及粒)	一〇
錫 (塊及錠)	一〇
全製 品	一〇
毛織物	一〇
紙類	一〇
寫真用フィルム	一〇
機械類	一〇
自動車及同部分品	一〇

附

昭和十年中大阪港輸出入國別年計明細表
 昭和十年中神戸港輸出入國別年計明細表

昭和十年 大阪貿易彙纂

第一章 第一節 總 說



國際聯盟調査に係る世界貿易指數に依ると、昭和十年の夫は九年に比べ、輸出入共可なり上昇して、世界貿易回復を語る様であるが、この指數だけで以て世界貿易回復を速断し難い事實が発見される。蓋しこの指數はあく迄總體的、大勢的表示に止つて居り、世界各國個々の現象はこの傾向と相當距離を持つて居るからである。

といふことは、本年の世界貿易回復が個々の國の對外貿易回復に基礎を置いたものではなく、或特殊國、或特殊品が特殊の事情から回復發展したためであると云ふことである。特殊の國とは云ふ迄もなく金本位離脱乃至低爲替の諸國であり、特殊の商品とは主として軍需關係の諸品である。要するに本年の世界貿易は總體的には、成程九年に比べ相當の好況を示したのであるが、而もこの原因も國際協調に依る自然的貿易の擴大發展ではなく、各國の自國本位的態度の強行といふ不自然行爲に求め得るもので、其だけ本年の世界貿易回復の裏面には相當の不健全性が尙依然包蔵されて居ることとなる。

世界貿易指數 [昭和四年(二五元)一〇〇] 備考—國際聯盟月報に據る (伊國を除く)
 一九三四年(昭和九年) 一三・五
 一九三五年(昭和十年) 一三・三

輸 入 三・七
 輸 出 三・三
 ベルリンの景氣研究所亦本年の世界貿易回復を以て、各國の自國本位的態度による輸出入の調整殊に國際不安を移しての軍需關係品の貿易活況に依ること多いと説破して居る。

△世界兵器貿易量（一九二九年＝100）

一九三二年 三三三 三四年 三三三 三五年 一〇七 （日本經濟年報 No. 22 に據る）

今世界の五大貿易國について昭和十年の對外貿易実績を見ても、通貨減價國に屬して居る英、米、日の發展の蔭に非通貨減價國一團である獨、佛が依然貿易不振をかこち居る有様で、本年世界貿易に見られた一般傾向に逆行した部門のあることを語つて居る。

而してこれ前にも述べた如き國際非協調主義の横行即ち換言すると各國の自國本位的な輸入割當、爲替管理其他非自然的な諸態度があまりにも強行された結果だと云へる。

日本の輸出入額は、この間に在つて、幸にも未曾有の巨額を見せ、歴史的な發展を遂げたものではあるが、而も各國のこの非協調的態度に惱まされたことは、本年の貿易増加率が前年の夫に比べ著しく低下した點から云へる。

世界五大國貿易額

國名	十年		九年	
	輸出	輸入	輸出	輸入
日本	二、四九七	二、四三三	二、二八二	二、一七一
英國	四、八三三	四、八三三	四、四七七	四、四七七
米國	二、二八三	二、〇四八	一、八五五	一、八五五
獨逸	四、三六六	四、一四八	四、一六七	四、一六七
佛蘭西	二、五三八	二、五三八	一、七八三	一、七八三
合計	二〇、九四五	二〇、九四五	一九、〇六〇	一九、〇六〇

第二節 本邦貿易概勢

昭和十年の我國（樺太及内地）對外貿易は、前年の飛躍發展を尻目に、更に一段の飛躍を遂げ、我が貿易史上空前の劃期的好成績を収めた。

昭和七年の我が對外貿易實數を一〇〇とした指數で見ると、十年は輸出一七七七、輸入一七二一となつて、前年の九年に比べ、夫々二十四ポイント、十三ポイントの上昇であつた。

我國對外貿易指數（七年基準＝100）

年	輸出	輸入
十年	一七七	一七二
九年	一五三	一五九
八年	一三三	一三四

只こゝで注目せられる事實は、常に我貿易の指導的地位に在つた輸入の上昇力が輸出の旺盛に反し可なり衰へを見せた點で、これには種々原因もあらうが、其の要因は何と云つても輸出の前途案じからの警戒にあつたと見られる。かくて十年の我が對外貿易實績は輸出二十四億九千九百萬圓、輸入二十四億七千二百萬圓合計四十九億七千百萬圓と明治初年來の巨額に上り、且又連年の入超を吹き飛ばし出超二千七百萬圓弱を見せるなど、實に大正七年世界大戰來の好貿易尻を示したのであつた。

本邦對外貿易額（内地及樺太） 單位千圓

年	輸出	輸入
十年	二、四九七、〇三五	二、四三三、〇三三
九年	二、二八二、〇三三	二、一七一、〇三三
八年	一、八五五、〇三三	一、八五五、〇三三

昭和十年初頭において我が對外貿易観は大體に於いて悲觀説が有力であつたのである。其の根據は(一)輸出が漸く飽和點に達して居ること、(二)輸出増は必然的に輸入増をもたらし、而も圓安は其だけ輸入の増大を意味するの點にあつたのであるが、結果は美事これを裏切ることゝなつたのである。輸出面における生糸の價格昂騰並需要増による伸展並雜品輸出の旺盛、輸入面における棉花の輸入遅延こそこれが決定的重因であつた。

我國對外貿易額表 (單位千圓)

輸出入	十年		九年	
	對前年増率	對前年増率	對前年増率	對前年増率
輸出	二、四九〇・〇	一五・一%	二、一七一・九	一六・七%
輸入	二、四七三・三	八・三%	二、二八二・六	一九・一%
計	四、九七二・三		四、四五四・五	
出入差引	出超 三、六八七		入超 一、一〇六	

而して十年の我が輸出入額を九年の夫に比べると輸出十五・一%、輸入八・三%の増加であつたが、之を九年の對前年増加率である輸出一六・七%、輸入一九・一%に比べると、十年の我が貿易増加率は辛うじて輸出が前年並を見たに止り、輸入では反つて著しき低下を來たすに至つて居る。

これ海外諸國の外國品防遏工作の尙熾烈だつたことを語ると共に、他面わが輸出伸張力が或程度行詰りを來せることを表現せるものに外ならない。

月別貿易 十年の月別貿易は次の如く、輸出は一年を運じ各月共前年同期に比べ増加するといふ好調であつたが、而も各月の増加率は著しい凹凸を示して居た。

輸出大宗品の一つである綿布の輸出が海外諸國の通商障壁工作から絶えず動搖を續けたからである。

即ち輸出二大宗品の一つである生糸の輸出は、米國の好況から前年に比べ二月の微減を除いては終始好調を續け、殊に下半期に入つてからは其の増加著しかつたのに反して、綿布の輸出は年初から四月迄相當順調な發展を遂げたにも拘らず、五月に入ると前年同期に比べ約六百萬圓の激減を見るといふ有様で、爾後七月、九月の輸出が前年同期に

比べ微増した外は終始減少を續け、年末月である十二月の如きは實に一千萬圓の減少を見るなど全く吾が綿布輸出は多事多難を経験したのであつた。

他方輸入は六、八、九、十、十二の各月を除くと、他の各月は何れも前年同期に比べ増加を來たし、殊に年初一二兩月の對前年同期増加は極めて巨額を見たのであつたが、これ全く輸入の大宗品である棉花、羊毛の輸入關係からであつた。

而して一年を通じて見るときは前年より相當の増加發展を示し乍らも、尙且其の伸展力が輸出の夫より見劣りを見せねばならなかつたのは、全く棉花の輸入が年初の好勢を續け得ず、三月以降七、十一の兩月を除いては終始軟調を示したことに歸因するものである。

棉花の輸入著減の因は、米棉の相場動搖からの採算關係による買控へも相當働いたが、亦其の反面綿製品輸出行詰りが反映したのでもある。

我が四大輸出入品月別對前年増減高 (單位百萬圓)

月	輸出				輸入			
	綿布	生糸	棉花	羊毛	棉花	生糸	羊毛	其他
一	增 一〇・〇	增 四・〇	增 三・〇	減 〇・一	增 四・〇	減 一・〇	減 一・〇	減 一・〇
二	增 六・〇	減 二・五	增 四・五	減 二・〇	減 四・五	減 二・〇	減 二・〇	減 二・〇
三	增 二・〇	增 三・〇	減 一・〇	減 二・〇	減 一・〇	減 二・〇	減 二・〇	減 二・〇
四	減 六・〇	增 四・八	減 二・〇	減 三・〇	減 二・〇	減 三・〇	減 三・〇	減 三・〇
五	減 五・〇	增 四・〇	減 三・〇	減 二・〇	減 三・〇	減 三・〇	減 三・〇	減 三・〇
六	增 一・〇	增 八・〇	增 三・〇	增 九・〇	減 二・〇	增 九・〇	增 九・〇	增 九・〇
七	減 六・〇	增 九・〇	減 二・〇	增 一三・〇	減 二・〇	增 一三・〇	增 一三・〇	增 一三・〇
八	增 五・〇	增 二・〇	減 三・〇	增 〇・五	減 三・〇	增 〇・五	增 〇・五	增 〇・五
九	增 一〇・〇	增 二・五	減 四・〇	減 〇・五	減 三・〇	增 〇・五	增 〇・五	增 〇・五

月	十年	九年	十年	九年
十月	減 二・〇	増 一九・〇	減 一三・〇	増 二・〇
十一月	減 八・〇	増 一四・〇	増 一四・〇	増 六・〇
十二月	減 一〇・〇	増 一七・〇	減 一四・〇	増 一三・〇

月別貿易額表 (單位千圓)

輸出	對前年増率		輸入	
	十年	九年	十年	九年
一月	一九、〇八〇	二八、二六八	三六、九九九	(十) 三・七%
二月	二七、四四五	一六、五九八	二五、八三四	(十) 四・八
三月	三三、七九八	一五、七六八	三〇、一九五	(十) 六・六
四月	三〇、四二七	一六、九七七	二六、九四四	(十) 四・〇
五月	三五、一六四	一九、一〇五	三二、一三八	(十) 〇・六
六月	一九、四四五	一八、九〇四	一九、〇六〇	(一) 三・三
七月	三〇、七〇三	一九、二六〇	一八、九六〇	(十) 七・〇
八月	三三、七五〇	二〇、九〇八	一六、二九四	(一) 六・五
九月	三三、三三四	一七、一〇三	一四、三三一	(一) 三・〇
十月	二六、三三六	二〇、一七二	一七、四六六	(一) 一・一
十一月	二八、三三七	一九、三三三	二二、三三六	(十) 二・五
十二月	三三、七九六	二〇、二一九	二四、三六八	(一) 二・四

a 主要港別貿易

本邦内地及樺太における開港場は現在四十四港の多數に上るが、而も其の貿易額の八〇%内外は神戸、横濱、大阪の三大貿易港の占むる所であつて、其他諸港は僅少云ふに足らない額である。蓋し本邦の商工業が東西の二大都市を中心として其の附近に集約され居る事情並にこれら三大諸港の設備が他港に比し各種の點で恵まれ居る關係からであらう。

今年の本邦貿易上における三大港の地位を見るに、先づ輸出貿易に在つては別表の如く、本邦本年の總輸出を一〇〇・〇として神戸三六・五、横濱二五・一、大阪二四・九、其他一三・五となり、神戸依然第一位を占めたが、大阪は横濱の躍進から前年の第二位を横濱に譲り第三位となつた。而してこの原因と見るべきものは神戸、横濱が生糸の輸出港として、其の市價値上りに負ふ所多大であつたことに在ること勿論なるも、其以外に大阪自體の輸出が綿織物の海外伸び悩み並風水害關係により多少對前年増率において低下したことも考へねばならず、且亦大阪港の設備不十分に歸すべき點もあるやうである。今この三大港の對前年増率を見るに其の最も大きかつたのは横濱の一億三千五百八十一萬一千圓(二七・七%)で、神戸之に次いで大きく一億二千二十九萬八千圓(一五・一%)であつたに對し大阪は僅かに三千三百九十六萬三千圓(五・八%)の増加で、其他諸港の三千七百七萬圓(一・二%)増にすら劣る有様であつたが、これ一面神戸港を繁榮に導いた原因でもあつたと見らる。

主要港別輸出貿易 (千圓)

全 國	十 年		九 年	
	二四九、〇三三	一〇〇・〇%	二一七、九四五	一〇〇・〇%
大 阪	六三〇、一四三	二四・九	五六六、一八〇	二七・〇
神 戸	九二〇、八九九	三六・五	七九〇、六〇一	三六・四
横 濱	六三六、〇二七	二五・一	四九〇、〇〇一	二二・六
其 他	三三三、〇三四	一三・五	三〇四、九四三	一四・〇

次いで輸入に在つても別表が示す如く、本邦總輸入を一〇〇・〇として神戸三三・三%、横濱二四・九%、大阪二二・一%其他一九・七%で其の順位は前年通りであつた。而して對前年増率を見るに横濱七千九百二十七萬二千圓(一四・七%)で第一位を占め、其他五千六百八十七萬三千圓(一三・二%)で之に次ぎ、大阪二千三百三十八萬九千圓(四・三%)、神戸三千九萬七千圓(三・九%)で其の増率極めて貧弱を極めたが、これ背景をなす大阪の産業特に綿業が輸出不振から原料購入に當り相當消極的態度に出たものな

ることを語るものであらう。

主要港別輸入貿易		十年		九年	
港名	輸入額	輸入額	%	輸入額	%
全 國	二,四三三,三三三	一,〇〇〇,〇〇〇	100.0%	二,二二二,二二二	100.0%
大 阪	五〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	30.0%	五〇〇,〇〇〇	30.0%
神 戸	八〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	30.0%	七〇〇,〇〇〇	30.0%
横 濱	六〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	20.0%	五〇〇,〇〇〇	20.0%
其 他	四〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	20.0%	四〇〇,〇〇〇	20.0%

尙其他諸港中にも陶磁器の名古屋港、茶の清水港、石炭の若松港、北海道物資の集散港たる函館、小樽、其他徳山、武豊、敦賀の諸港は最近漸次頭角を現はさんとし来たりつゝある。

b 國別貿易

洲別貿易状況 國別貿易を見るに先だち、十年の我が大陸別貿易を尋ねると、先づ輸出は中米を除くと、其の絶對額で何れも九年より増加し、殊に北米の一億三千六百萬圓(三三・三%増)、アジア一億三千五百萬圓(一一・五%増)、歐洲三千五百萬圓(一五・三%増)の増加が著しかつたが、近年迄急増を續けて居たアフリカは英殖民地の對日輸入制限が厳しかつたため、僅かに百萬圓(〇・六%増)増加を見たに過ぎなかつた。

北アメリカがかく著増したのは、米國の好景氣による生糸輸出増加からで、又アジアへの増加は、日支關係好轉並北鐵渡關係からの對支、對露貿易好況を見たためである。

輸入ではアフリカが一千萬圓(一三・〇%)減じた外、其の絶對額で何れも前年より増加し、特にアジアの五千八百萬圓(七・一%増)、ヨーロッパ五千七百萬圓(一九・一%増)、北アメリカ三千九百萬圓(四・七%増)増加が其の大なるものであつたが、増加率では中米の八倍強、南米の約八割増加が異彩を放つて居る。中米の激増は互惠的買入に應じた結果である。

各大陸の我が輸出入貿易上における地位は、大體前年通りの順位を示したが、其の持分には多少の變更が來たされたこと別表の通りである。

洲別貿易額(單位千圓)	輸出		輸入	
	十年	九年	十年	九年
ア ジ ア	一,〇〇〇,〇〇〇 (五三・二)	一,一〇〇,〇〇〇 (五三・九)	八〇〇,〇〇〇 (三三・三)	八三〇,〇〇〇 (三三・五)
ヨ ー ロ ッ プ	三〇〇,〇〇〇 (一〇・六)	三〇〇,〇〇〇 (一〇・五)	三〇〇,〇〇〇 (一〇・二)	三〇〇,〇〇〇 (一〇・二)
北 中 央 ア メ リ カ	五〇〇,〇〇〇 (一七・九)	四〇〇,〇〇〇 (一六・八)	八〇〇,〇〇〇 (三二・八)	八三〇,〇〇〇 (三三・〇)
中 南 米 ア メ リ カ	五〇〇,〇〇〇 (一七・九)	四〇〇,〇〇〇 (一六・八)	八〇〇,〇〇〇 (三二・八)	八三〇,〇〇〇 (三三・〇)
南 中 南 米 ア メ リ カ	三〇〇,〇〇〇 (一〇・六)	三〇〇,〇〇〇 (一〇・五)	三〇〇,〇〇〇 (一〇・二)	三〇〇,〇〇〇 (一〇・二)
ア フ リ カ 洲	一〇〇,〇〇〇 (三・五)	一〇〇,〇〇〇 (三・五)	一〇〇,〇〇〇 (三・五)	一〇〇,〇〇〇 (三・五)
太 平 洋 洲	五〇〇,〇〇〇 (一七・九)	四〇〇,〇〇〇 (一六・八)	八〇〇,〇〇〇 (三二・八)	八三〇,〇〇〇 (三三・〇)
合 計	二,四三三,三三三 (100.0)	二,二二二,二二二 (100.0)	二,二二二,二二二 (100.0)	二,二二二,二二二 (100.0)

國別貿易状況 十年の輸出は九年に引續いて好調を呈し、本邦貿易始つて來の發展を遂げた年だけに、新舊市場への邦品進出は目覺しく、九年に比べ本年の輸出減少を告げたのは主要輸出市場五十九ヶ國中、僅かに海峽殖民地、セイロン、蘭領東印度、伊太利、グアテマラ、サルバドル、政馬、ジャマイカ、其他中米、智利、ウルガイ、コロンビヤ、埃及、佛領モロッコの十六地域に止り、其の減少額も埃及の一千九百萬圓、蘭領東印度の一千五百萬圓、海峽殖民地の一千四百萬圓、セイロン、カナダの各八百萬圓減を除くと、其他は何れも少額で、殊に其の多くが尙貿易額僅少である中南米地方であつたため、大局的には問題とする程度ではなかつた。

即ち大陸別に十年の輸出を見ると、第一輸出市場であるアジアは日支好轉からの對支貿易活況、北鐵渡代金物資拂に依る對露貿易伸張其他關係から何れも良好を示し、相手國十七ヶ國中前年より減少したのは高度關稅障壁によつて邦品の阻止を續けた前述の海峽殖民地、蘭印、セイロンの三地域に過ぎず、歐洲亦時局關係から對伊貿易が不振

サルバルド	七	(一)	二、三六	二、二八九
パナマ	六、一五〇	(十)	一、九〇〇	四、二五〇
秋馬	五、〇四八	(一)	四、九八八	九、九六六
ジャマイカ	一、〇五七	(一)	一、七一一	二、七六八
其他中米	一四、九三三	(一)	一、五七九	一六、五五〇
ペル	六、九六一	(十)	八三	六、八七九
智利	六、六四七	(一)	七九五	七、四〇〇
アルゼンチン	二八、六三三	(十)	八、五九〇	二〇、〇三三
ウルガイ	五、六六六	(一)	一、二八九	六、九六五
ブラジル	五、九三六	(十)	二、八六三	三、〇六四
ヴェネツェラ	三、五八四	(十)	一、五九四	一、九七〇
コロンビヤ	七、八三三	(一)	一、一七三	九、〇〇五
其他南米	八、一五〇	(十)	二、〇三七	六、一三三
埃及	五、八〇〇	(一)	一、九一八	七、七一八
アンダロ・エジプ	一三、〇〇四	(十)	三、六〇五	九、四九九
シアン・スーダン	二五、〇八三	(十)	三、七五五	三三、三三八
ケニヤ・ウガンダ	一〇、七五三	(十)	一、九三三	一八、八三三
及タンガニカ	三、七六九	(十)	三、三三九	二九、五四〇
モザンビック	一八、八三三	(一)	二、六三三	一九、〇六六
南阿	二九、二七七	(十)	九、〇三三	二〇、二四四
佛領モロッコ	七四、七三三	(十)	一〇、三三三	六四、四六三
其他アフリカ	二一、三三三	(十)	二、七二七	八、八八八
新西	七、四三三	(十)	一、七二六	五、五五五
布哇	七、四三三	(十)	一、七二六	五、五五五

其他オセアニア 二、一五五 (十) 一、八四四 (十) 一、三九九

次に輸入を見るも、輸出面発展の影響を受け十年の國別輸入は九年に比べ何れも増加を見せ、減少したのは主要輸入市場四十六ヶ國中僅かに關東州、ア露、海峽殖民地、シリヤ、カナダ、ケニヤ、ウガンダ、南阿、新西蘭の九ヶ國に止り、其の減少額もア露の二千九百萬圓、海峽殖民地の二千三百萬圓、ケニヤの一千二百萬圓減を除くと大したも

ではなかつた。ア露からの石油、海峽殖民地からの生ゴム、ケニヤからの棉花輸入は特殊事情から激減を來たしたことが前述三方よりの輸入著減の因であつた。

即ち大陸別に本年の輸入を見ると第一輸入市場であるアジアでは、ア露、海峽殖民地、シリヤを除いて相手國十五ヶ國何れも増加、殊に滿洲國、支那、英領印度、蘭領印度よりの輸入は著増を來たした。

歐洲亦英、獨兩國の著増をはじめ、其他八ヶ國何れも増加、北米亦カナダが我が通商擁護法の發動から減じた外、米國の棉花の激減にも拘らず、其他工業原料品の輸入増加から著増、中米、南米亦此等地方の求償或は互惠的要求に應じた結果八ヶ國何れも増加、アフリカではケニヤ、南阿の減の外、埃及其他は微増、太平洋亦新西蘭の微減を除いて濠洲、其他共増加で、殊に濠洲よりの輸入は小麦、羊毛の著増から激増を見るに至つた。

國別輸入額表 (單位千圓) 對前年增加額

國別	十年	對前年增加額	九年
滿洲國	一九、〇〇五	(十) 三、九四四	一六、〇六一
關東州	三、五二七	(一) 一、七六三	一七、二九〇
支那	一三、八八八	(十) 一、四四四	一二、四四四
ア露	三、四〇一	(一) 三、三三三	三、七三三
香港	二、八三六	(十) 一、三五五	一、四八一
佛領印度	一五、〇一一	(十) 四、九三〇	一〇、〇八一一
シヤム	五、四八八	(十) 三、九二八	一、五五〇

海峽殖民地	四〇、六四八	(一)	三、六七三	六三、三〇〇
英領印度	三〇五、六四六	(十)	一五、九四四	二八、九六七
セイロン	二、七九七	(十)	四九一	二、二八八
イタリヤ	一、二五八	(十)	一、三三三	一、六
シリア	三三	(一)	三三	六六
パレスティン	三	(十)	一	二
アラビヤ	三六四	(十)	三三	三三
比律賓	三、九四九	(十)	五、〇五八	一八、八九一
英領ボルネオ	九、八三三	(十)	二、五二八	七、三〇四
蘭領印度	七六、一八七	(十)	一四、七三三	三三、四六四
其他アジア	三〇、二二九	(十)	三〇、五六一	九、五六八
佛國	八、一六〇	(十)	三、一三三	七、〇三七
獨逸	一九、八〇九	(十)	一、五〇九	一八、三〇〇
伊國	二〇、八八八	(十)	一一、三三四	一〇、五八四
瑞西	五、八三三	(十)	二、三七〇	三、四六三
白蘆經濟同盟	三三、四五六	(十)	二、五五一	一〇、五五五
ノルウェー	二四、五〇二	(十)	七、三三六	一七、一六九
瑞典	一四、五〇三	(十)	六、四四七	八、〇六六
其他歐洲	三三、〇七四	(十)	一、九三三	一一、一四〇
米國	一九、九四一	(十)	五、五六二	一四、三七〇
其他	二六、三三二	(十)	五、五〇八	三三、六三三
カナダ	八〇、九六五	(十)	四、二六五	七九、六六〇
其他	五、二五三	(一)	一、五六三	五四、〇六四

其他北美	七	(一)	一六	一三
メキシコ	六、四四四	(十)	六、二五四	一、九〇
其他中米	一、五八九	(十)	九三	一、六七
ベネズエラ	一一、四二五	(十)	九、五九二	一、八三三
チリ	四、四七三	(十)	一、〇三三	三、四四〇
アルゼンチン	一六、三七一	(十)	四、三三三	一一、〇三六
ウルグアイ	四、四九五	(十)	一、八六四	二、五九一
ブラジル	四、〇〇六	(十)	七二四	三、二九二
其他南米	二、一四八	(十)	一、四九七	六五一
エジプト	五、一三〇	(十)	五、〇四六	四六、二五九
ケニアウガンダ	二、九五五	(一)	二、三三三	一五、一八八
及タンガニカ	四、六六二	(一)	三、四七三	八、三三四
南アフリカ	一〇、一六四	(十)	二七二	九、八九三
其他アフリカ	三三、一三六	(十)	三、七三三	一七、七五五
新西洲	六、三六四	(一)	五、三三〇	一一、〇三四
其他	七、四二五	(十)	二、二七九	四、九四六

C 類別貿易

十年の本邦對外貿易を類別に見ると、輸出では、産業發展の大勢を反映、依然全製品の地位據頭を見せて居る。然し乍ら之を九年の成績に比べると本年は全製品總輸出の五八%を占め、首位だつたと云ひ條、九年の六二%に比べて稍々低下を來たした。現下海外情勢が輸出全製品主義遂行に漸次困難を加へ來りつゝあることを語つて居る。原料用製品が増加したのはこの海外情勢から却つて生糸、油脂類、綿糸の進

出に好機となつたがためであると見られる。輸入では原料品依然絶對額を占め、首位を保持して居るが、而も其の地位は前年の夫に比べ稍々低下せざるを得なかつた。

原料用製品の輸入増加を見たのと他面綿布輸出困難化に伴ふ棉花輸入の著減のためであつた。とまれ原料品、原料用製品が、かやうに前年の盛況にもまして輸入旺盛を見たのは、輸出産業發展に依る輕重工業用品の輸入の旺盛を極めたがためでもあるが、其以上に國際不安を映じての軍需關係品の輸入激増を見たことに因ることを忘れてはならない。

本邦類別貿易額並比率 (内地及樺太)

輸 入	十 年		九 年	
	額	比率	額	比率
食料品	一九七、一〇千圓	七・九%	一七二、九三千圓	七・九%
原料品	一一〇、四六三	四・四	九五、七五元	四・四
原料用製品	六七、四三三	二・六%	四九、八三九	三・九
全製成品	一、四五一、三三〇	五八・〇	一、三四五、五二二	六三・〇
其他共計	二、四九、〇七三	一〇〇・〇	二、一七一、九三三	一〇〇・〇
食料品	一九七、六〇五千圓	七・八%	一七二、四八千圓	七・六%
原料品	一、五〇七、六三〇	六・〇	一、四三三、八六六	六・四
原料用製品	四八、六二六	一・八%	四五、八四三	一・八%
全製成品	二、六六、三九三	一一・六	二、三二、六四四	一一・五
其他共計	二、四七三、三三三	一〇〇・〇	二、一六三、三〇三	一〇〇・〇

d 品 種 別 貿 易

重要品輸出状況 我が重要輸出品五十品十年の輸出状況を見ると、九年に比べ數量の減じたものは米及粳、豆類、薄荷油、屑糸、眞綿及玉糸、其他綿布、綿タオル、絹手巾、石炭、ゴムタイヤ、製帽用眞田の十品、價額の減じたのは、米及粳、豆類、除虫菊、晒綿布、其他綿布、絹織物、綿タオル、絹手巾、帽子、石炭、ゴムタイヤ、木材、製帽用眞田、ブラツシュの十四品で、他は何れも増加して九年以上の好成績であつたこと既述の通りである。

只本年の輸出に於いて一部少數ながら、不幸前年より減少するの己むなきに至つたのは、主として海外諸國の不當なる壓迫が邦品に加へられたからである。

本年の輸出減最大を見た「其他綿布」の一千四百萬圓減も、かうした理由から其の主要市場である埃及、蘭印、海峽殖民地への輸出著減したが爲であつた。

又前年に比べ本年の増加特に著しかつたのは生糸の一億圓、生地綿布の二千二百萬圓、植物性脂肪油の二千百萬圓入絹織物の一千四百萬圓、鐵の一千三百萬圓、綿糸の一千二百萬圓増等であるが、この内生糸、植物性脂肪油は米國の好況に伴ふ對米輸出増からであり、生地綿布、綿糸の増は印度最近の紡績發達による加工原料品としての買進みに因るもので、鐵亦重工業原料品として東南洋諸國特に日支好轉關係による對支輸出が増加したためであつた。又入絹織物の増加したのは濠洲への高級品賣行が良好だつたのと比律賓、關東州向が増加したためである。

重要品輸出國別表 (價額單位千圓)

品 名	十 年		九 年		増 減 額
	數量	價 額	數量	價 額	
米 及 粳	(擔)	一、五三三、三〇元	一、一〇一、〇八五	五、二五五	(-) 三、〇六五
豆 類	(ク)	一、六七五、二四	六八、〇〇	六、七三	(-) 二、三三九
小 麥	(ク)	一、四、八九、六元	四、四七、三三	三、七〇〇	(-) 五、一八八
精 糖	(ク)	一、三、六九、三三	二、〇九、八八	一七、五七七	(+) 五、〇四四

茶	(十)	二八、三九	二四〇、一七	二、四九	(十)	一、八三
水産物	(十)	二、六八七	一、四七、七四	二〇、七三	(十)	四、三三
寒天	(十)	二五、三三	二〇、九一	四、三三	(十)	一、〇四七
罐詰食品	(十)	一、四六、三〇	一、四四、六七	五〇、三〇	(十)	六、八六
麥酒	(石)	一五、一〇七	一八、〇〇九	五、五五	(十)	三、三
植物性脂肪油	(擔)	(十) 一、三三、五九	五三、六五	三、二九一	(十)	二〇、七〇
薄荷油	(擔)	(一) 五、六五	五、四三	一、八八	(十)	四、四
魚油及鯨油	(擔)	(十) 六〇、二七	三、八三一	三、三〇六	(十)	三、五七
石鹼	(擔)	(十) 二七、七五〇	九、八四八	六、四〇〇	(一)	一、〇四七
除虫菊	(擔)	(十) 二七、七五〇	二七、九六四	五、〇三九	(十)	四、三
樟腦	(擔)	(十) 三六、三五	五、〇九七	四、五七	(十)	八、四
薄荷腦	(擔)	(十) 五、一五七	一七、〇九二	三、二〇九	(十)	二、九
綿糸	(擔)	(十) 二〇、三三	一九四、五三	三、八七三	(十)	三、四八
絹糸	(擔)	(十) 三、九七九	一三、八四	二、五六九	(十)	一、八三
生糸	(擔)	(十) 五、五、一五六	五〇五、九九	三、八七〇三	(十)	二〇〇、三
人造絹糸	(擔)	(十) 三、〇〇、三	一六七、九	一、三、八五	(十)	三、四〇〇
綿織物(生地)	(方碼)	(十) 九、五、二四、三七	七、三、三、三九	一、三、五、八〇	(十)	三、七
綿織物(晒)	(方碼)	(十) 五、二、二、八〇、二	五〇九、七、七、六〇	八、五、三、〇四	(一)	三、六二
絹織物(其他)	(方碼)	(十) 一、六、八、五〇、一、三	一、二、九、四、六、四、〇、五	二、六、五、四、六	(一)	二、九、八、五
毛織物	(方碼)	(十) 一、二、九、四、六、四、〇、五	一、二、九、四、六、四、〇、五	三、三、四〇一	(一)	二、五、五
絹織物	(方碼)	(十) 一、二、九、四、六、四、〇、五	一、二、九、四、六、四、〇、五	七、七、四、四	(一)	七、四、八
人造絹織物	(方碼)	(十) 一、二、九、四、六、四、〇、五	一、二、九、四、六、四、〇、五	二、八、二、六〇	(十)	二、四、七

綿ブランケット	(擔)	(十) 一〇四、六〇四	七、一、四	五、三、八〇	(十)	二、〇、七
綿タオル	(打)	(一) 三、四〇一、六七	三、五〇、二、七五	六、四、七	(一)	七、二
絹製手巾	(打)	(一) 一、八七、五〇六	二、〇、七、七、八	三、九、五	(一)	四、三〇八
メリヤス製品	(打)	(十) 九、六三、二、五	一、八〇、七、二、九	五〇、二、六	(十)	二、六、四
帽子	(打)	(十) 三、九、九、〇、一、八	三、七、五、〇、一	一、七、八、六〇	(一)	一、五、六
鈕釦	(打)	(十) 三、九、九、〇、一、八	三、七、五、〇、一	一〇、一、四、二	(十)	九、六、四
身邊裝飾用品	(打)	(十) 三、九、九、〇、一、八	三、七、五、〇、一	一、九、三、二、九	(十)	二、〇、八
紙類	(擔)	(十) 一、四、九、八、二	一、二、九、三、二、九	二、三、〇、八	(十)	三、三、七
石炭	(英噸)	(一) 一、〇〇、三、七、五	一、〇、七、〇、五	九、七、三	(一)	一〇、三、七
セメント	(擔)	(十) 一〇、九、八、〇、六	八、九、八、四、三	八、〇、八	(十)	八、〇、八
陶磁器	(擔)	(十) 一〇、九、八、〇、六	八、九、八、四、三	四、三、七、五	(十)	四、一、七、七
硝子及同製品	(擔)	(十) 一〇、九、八、〇、六	八、九、八、四、三	三、三、七	(十)	一、九、四、五
鐵製品	(擔)	(十) 一〇、九、八、〇、六	八、九、八、四、三	六、五、八、六	(十)	五、〇、三
眞鍮	(擔)	(十) 一〇、九、八、〇、六	八、九、八、四、三	八、五、〇、三	(十)	七、八、七
鐵製品	(擔)	(十) 一〇、九、八、〇、六	八、九、八、四、三	三、七、五、〇、四	(十)	三、三、七
ゴムタイヤ	(擔)	(一) 一、六、三、八〇	一、四、八、四、三	九、九、九	(一)	九、九、九
機械及同部分品	(擔)	(一) 一、六、三、八〇	一、四、八、四、三	六、三、八、五	(十)	五、七、七
木製帽用眞田	(千束)	(一) 一、五、〇、四〇	三、三、三	三、一、八	(一)	三、九、二
洋傘	(千束)	(一) 一、五、〇、四〇	三、三、三	四、六、五	(一)	八、二、五
ブラッシュ	(千束)	(一) 一、五、〇、四〇	三、三、三	二、〇、七	(一)	一、六、五
ランプ及同部分品	(千束)	(一) 一、五、〇、四〇	三、三、三	一、六、七、四	(一)	一、五、九
玩具	(千束)	(一) 一、五、〇、四〇	三、三、三	三、八、五	(十)	三、三、六

重要品輸入状況 我が重要輸入品四十二品十年の輸入状況を見ると、九年に比べ数量の減じたのは小麦、牛肉、牛脂、生ゴム、棉花、石炭、鉛、燧、油粕の九品、價額の減じたのは牛肉、牛脂、生ゴム、棉花、燧、油粕の六品で、他は何れも多少とも増加を來たした。

輸出が兎角の噂を生みつゝも依然旺盛を續け居たこと並に國際不安關係からの重工業旺盛を見た、め工業材料、並軍需工業關係品の輸入増加が續いたがためである。

而して本年減少特に著しかつたのは、棉花一千七百萬圓、生ゴム五百七十萬圓減位で、この内棉花の著減は米棉が年を通じて相場不安定を續けた、め輸入警戒が續けられたこと及ケニヤからの棉花輸入が值轉關係から激減したがためで、生ゴムは本邦ゴム製品工業の不振を反映、輸入減となつたものである。

又本年の輸入が前年に比べ特に増加著しかつたのは豆類一千九百萬圓、採油用原料一千七百萬圓、原油及重油二千四百萬圓、硫安七百萬圓、製紙用パルプ一千百萬圓、鐵一千六百萬圓、鉄鐵、一千四百萬圓、其他鐵二千萬圓、銅一千萬圓、木材九百萬圓、機械及同部分品六百萬圓増等であるが、この内増加額大であつた鐵類、原油及重油、銅、採油用原料、機械類は主として軍需工業關係からであり、製紙用パルプの増加は本邦人絹界發達からであつた。

豆類の増加は主産地たる滿洲の不作其他からの價格騰貴が重因をなしたのであつた。

重要品輸入額表 (金額單位千圓)

品名	數量		價額		増減額
	十年	九年	十年	九年	
米	(十) 六五、一〇五	二五、五九九	三、三九九	六六	(十) 二六八
小麦	(一) 七、四七、三〇〇	八、五五、〇六一	四、九九九	四、七九九	(十) 二〇〇
豆類	(十) 二、四四、三五六	二、三二、六八八	七、四九九	五、六八八	(十) 一、九六一
採油用原料	(十) 五、七四、六五三	三、六五、九九九	四、〇八八	三、五五七	(十) 一、七六一
砂糖	(十) 三、三三、八四一	一、七三、一八八	三、七七一	九、六九九	(十) 三、〇三三
牛肉(生)	(一) 一九、三三一	三二、三三七	六、二五	六、八七	(一) 七三

皮革類	(十) 五〇、七〇三	四四、三三六	三、三五六	一六、三〇〇	(十) 五、〇六六
革類	(十) 一、四八、三三四	一、四四、九三二	四、九四四	四、八三〇	(十) 一四
原油及重油	(百ガロン) (十) 九、一八七、七七一	七、四九、八五一	一〇六、八八	八二、四八	(十) 二四、三〇〇
其他石油	(十) 一、八四〇、二九〇	一、六六、二三四	三、七三三	三、六八四	(十) 三、五六八
牛油	(十) 九五、九三六	一八七、三四七	二、三四〇	三、三六〇	(一) 一、〇二〇
生ゴム	(一) 九四、六九二	一、九七、〇五一	五、二六六	五、三三八	(一) 五、〇七三
苛性曹達	(十) 九七、七五七	七四、四四四	五、四四二	四、五八六	(十) 一、一三六
及天然曹達	(十) 一、〇四三、〇九三	六三、四〇〇	五、四三三	三、四四四	(十) 一、九九九
粗製硫酸	(十) 三、九七、六三六	三、六八、六六八	三、〇六九	一三、八七	(十) 七、三三二
粗製硝酸	(十) 三、〇九四、八九九	一、八三、九四七	九、三三九	九、一四七	(十) 一、九二
合成染料	(十) 三、三三、七三九	一三、五五、八五二	七四、三三二	七二、四四五	(一) 一、七三三
棉花	(十) 一、九九五、二二三	一、八四七、六五五	二七、七五	三七、四三	(十) 三三
麻類其他植物纖維	(十) 一、八四〇、九八〇	一、三三、六八〇	一九、七六一	一八、四四五	(十) 五、〇〇六
羊毛	(十) 八三、四九九	六九、六五九	一、九三	一、〇七八	(十) 三三
毛糸	(十) 五八、九八一	一、四四、三九九	一、五九	九三三	(十) 二〇七
毛織物	(十) 一、四四、三九九	一、四四、三九九	六、七五三	五、一九九	(十) 一、五五四
製紙用パルプ	(十) 四、五九、七九七	三、八四、六六六	五、一〇一	四、一五六	(十) 一、〇四五
印刷料紙	(十) 一、〇一〇、〇一五	七三、六八	八、三三	五、六五七	(十) 二、五五五
燧	(十) 三、六八、〇〇六	二、三三、七〇	一〇、〇〇〇	一六、六七	(十) 三、三八三
石炭	(十) 三、九八四、八四四	三、九六、五〇六	四八、九七〇	四七、一九九	(十) 一、七七七
鐵	(十) 三、〇三、九〇〇	三、五八、四九九	四、五四二	三、七八六	(十) 一、七五六
鉄レール及ファイ	(十) 三、三三、四三三	二、一六、三三四	一、一七	三、三三	(十) 三、五三三

其他ノ鐵	(十) 三、六〇、八五五	一、六四、八〇三	一、四〇、六二五	(十) 二〇、一九〇
アルミニウム	(十) 一、三三、六三三	八九、〇三六	一四、三三三	(十) 六、八九三
(塊及錠)	(十) 一、五三、四四三	一、五七、六一九	二〇、九九三	(十) 二、三九九
鉛	(十) 一、〇七、七九	六三、一六六	二六、四四四	(十) 一〇、三三三
(塊及錠)	(十) 七〇、八六八	一五、五八一	一五、三三七	(十) 三、六四
錫	(十) 五、〇〇六	四四、九六五	八、五三三	(十) 一、三三五
亞鉛 (塊及錠)	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	四、〇三三	(十) 一、三三八
懷中時計及同部分品	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	三、五九九	(十) 一、三三八
自動車及同部分品	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	三、五九九	(十) 一、三三八
發電機類及變壓機	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	三、五九九	(十) 一、三三八
其他機械及部分品	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	三、五九九	(十) 一、三三八
木	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	三、五九九	(十) 一、三三八
其他	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	三、五九九	(十) 一、三三八
穀	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	三、五九九	(十) 一、三三八
油	(十) 一、二七、二七、二九九	五九、三三〇	三、五九九	(十) 一、三三八

第二章 第一節 主要相手國別貿易概況

a 中華民國

海關稅務署發表に依ると本年の全支對外貿易は純輸入九億一千九百二十一萬一千元、純輸出五億七千五百八十萬九千元計十四億九千五百二萬元で、之を前年に比べると輸入一億一千四十五萬三千元(一〇・七%)減、輸出四千五百九萬四千元(七・六%)増で、輸出の好轉から貿易尻はかなり改善せられ、入超減少額一億五千五百五十二千元(三〇・七%)を示すに至つた。

輸出好轉は海外市況の好調と新貨幣制による低爲替策が効いたからである。

然し乍ら貿易總額に於いては尙前年より六千九百八十五萬九千元を減じて居り、依然たる貿易不振を語つて居る。蓋し銀高、對外借款の不成立から國內産業界は深刻な不況に見舞はれ、加ふるに農村の疲弊と天災人變による購買力の萎縮が甚しかつたところから、輸入貿易が著しく不振を極めたがためである。

尙主要國別貿易を見ると對日貿易の激増と獨乙の進出に反し、對英、對米は著しく減退をして居る。次に本邦との貿易關係を見るに輸出一億四千八百七十八萬八千圓(我が總輸出額の六・〇%)、輸入一億三千三百八十一萬八千圓(我が輸入總額の五・四%)を占め、前年に比べ輸出三千七百七十二萬五千圓、輸入一千四百二十四萬四千圓の増を來たし、日支貿易は相當の好轉を來たしたが、之排日貨運動がかなり抑制されたため安價なる邦品が奔出したこと並我が國內産業の隆昌から原料關係品其他の輸入が促進されたがためであらう。

本邦對支主要輸出入品は左の通りである。

輸 出	昭和十年		昭和九年	
	数量	價值	數量	價值
小麥粉	(擔)	三九、一三三	一七、一三三	一〇九、四八圓
精糖	(噸)	一、四八、八八八	一、〇四、五七七	六、九九、九四三
水産物	(噸)	六三、六九〇	五、九八、二五	四、四三、五七七
寒天	(噸)	八三四	一一、四四四	八三、七〇
罐詰類(容器共)	(噸)	一八、七三八	六三、二六七	四六、一七五
麥酒	(石)	一一、七九三	五四、九七七	五八、八〇
薄荷油	(擔)	五	一、九三四	四三、一〇〇
魚油及鯨油	(噸)	七、七五	一〇八、〇〇五	一、六五八
石鹼	(噸)	一	五八、四〇〇	三、〇七九
燐寸	(擔)	一八	四、九八〇	三、〇〇四

綿糸	(ク)	一、二七五	一九、七五一	九七一	一七五、三〇〇
人絹糸	(ク)	三、九七六	二、九三、五九五	七、二六	九〇五、〇三二
綿布(生地)	(方碼)	八、八四、七二六	二、四四、四三三	七、四七、九八二	一、六四、二六八
ク(晒)	(ク)	三〇、八九、九七	五、二九八、六三三	三六、七三、二〇八	四、六五八、九四
ク(其他)	(ク)	一六、三二、三三	四、四九、二〇七	三五、二九三、四七四	六、七三、七三二
毛織物			三、〇四三、四七五		二、九五、三五〇
絹織物			五、六六一		七、一六八
人絹織物			五、八七〇		七、八五三
綿ブランクット	(擔)	七元	五八、七〇五	六五一	五九、六四四
メリヤス製品	(打)	五、二五〇	一五四、六七三	六一、〇九一	一六五、七九九
鈕釦	(ク)	一三六、六九七	七三、四六四	一五、二二	九六七、八一九
身邊裝飾用品			三九三、二五三		四三三、〇六六
紙類	(擔)	四〇六、六八九	六、五七、六二九	三九、八八八	一五九、〇八四
石炭	(英噸)	一四七、〇五	一、一九八、六三四	二五、二二四	六、一五、八九七
セメント	(擔)	三七、三二七	二、三、六二九	三七、五四六	二、〇一四、七三二
陶磁器			一、三〇八、九四四		一、三八七、六五五
硝子及同製品			一、三六九、二九九		一、二九、三三六
鐵	(擔)	一、〇〇三、七一九	七、四九八、四五一	六九、〇三〇	四、九五七、四〇八
眞鍮	(ク)	三、四、〇四	一、二九、八六六	二元、八五五	一、一六、八六六
鐵製品			一、二八二、二六		二、〇三二、二六
ゴムタイヤ	(擔)	三三、〇五〇	一、七五九、一七七	三七、八五四	一、八七五、八四四
機械及同部分品			一五、三三〇、三三二		九、六九、四八五

木材			二、九七、三五五		二、七〇、四七七
洋傘			一五、六六八		八、六九五
刷子			一四、一七一		一三八、一五四
ラムプ及同部品			五五、一六八		四五六、四九七
玩具			六四七、〇七六		四六四、七二〇
其他共全國計			一四、六八、四八		一七、〇六二、五三六
内阪神兩港			九、七三、八三四		九、四六六、六三三
小麥	(擔)	三、〇〇〇	一六、五〇〇圓	一七、八三〇	五二、八六八圓
豆類	(ク)	五九、四〇四	四、四九、〇三三	四〇八、二二五	二、六四三、七二八
探油用原料	(ク)	二、五四、六一	一七、六三一、四九三	一、八八九、五三三	二、二五、五九九
牛肉(生)	(ク)	一〇六、二八四	四、〇三六、四〇六	一五〇、八三〇	五、〇〇九、九五九
皮類	(ク)	一四〇、九七一	五、二六、三三九	一四四、五四七	五、四七、四六六
苛性曹達、曹達	(ク)	一八、九三〇	一一〇、四四九	五〇、九七一	二七六、三九九
灰及天然曹達	(ク)	二七七、八〇五	七、三六五、六八四	三七、六三三	一〇、一六九、九二
麻類及其他植物纖維	(ク)	一、七三九	九四、八八	四、九元	三四一、〇三七
羊毛	(ク)	五五、〇四七	七、六〇、三〇〇	五四、三六五	六、八七、七九八
石炭	(英噸)	一五、四三四	三、一九四、三六	三、八七九	二、七二、二八二
錫(塊及錠)	(擔)		九、八八		六、三三三
木材	(擔)		七、〇八、九七		八、七二、四八二
油類	(ク)	一、六七五、〇六	六、〇九、一五	一九五、〇一四	六、三三六、七六五
其他共全國計			三三、八七、八九八		二九、五七三、五〇一
内阪神兩港			七、八三、三三		六、六三〇、七三

b 滿洲國

滿洲國の對外貿易は依然輸出減、輸入増の大勢を改めず、全體的には萎縮の途を辿つて居る。蓋し滿洲國經濟の根幹をなす農業界が打續く水災其他に累せられ尙疲弊の域を脱しないことが直間接に滿洲經濟界の繁榮をチエツクせるからである。

十年の貿易實績は輸出四億二千百萬圓、輸入六億四百萬圓國幣圓計十億二千五百萬圓幣圓で、前年に比べ輸出二千七百萬圓幣圓(六・五%)の減、輸入一千百萬圓幣圓(一・八%)の増加となり、入超一億八千三百萬圓幣圓を示し、前年より三千八百萬圓幣圓(二六・二%)の増加を見るに至つたが、これ特産物の輸出が作柄不良と主仕向先の門戸閉鎖から不振を極めたに反し、建設景氣持續から機械類、車輛、船舶類の輸入が活潑を呈したがために外ならない。又其の國別貿易を見ると對日輸出は總輸出の五一・六%、對日輸入は總輸入の七五・五%で、日本が絶對的地位にあり、其他の比重は至つて輕い。

輸出では支那一五・五%、獨乙七・八%、英國五・七%、米國三・七%、輸入では支那五・三%位が其の人の主要なものに過ぎない。

輸出は日本を除くと主として支那、歐米が其の主要相手國であるが、支那向は事變來不振、本年は對獨輸出亦大豆の激減から收縮、英米向は豆粕、豆油、蘇子等の輸出増からかなり活況を呈した様であるが滿洲國の對外貿易は殆ど日本關係であることが知られる。

日滿ブロック形成の結果たると共に、日本の巨額對滿投資の反映でもある。滿洲國貿易尻の依然たる悪化はこの巨額なる投資を以てしても滿洲國經濟を膨脹發展に導き得ないことを語るものではなからうか。

滿洲國國幣圓の日本圓にリンクせる今日、貿易尻悪化を辿る滿洲國貿易は本邦にとり對岸の火災視得ない所である。

次に本邦より見たる十年の對滿洲貿易(關東州を含む)を見ると輸出滿洲國一億二千六百萬圓、關東州三億圓計四億二千六百萬圓で本邦總輸出の一七・一%、輸入滿洲國一億九千百萬圓、關東州二千六百萬圓計二億一千七百萬圓で總輸入の八・七%を占め、前年より夫々、二千三百萬圓、一千五百萬圓の増加を來たしたが其の主要輸出入品は左の通りである。

輸 出	十 年		九 年	
	單位	金額	單位	金額
米 及 穀	(擔)	一九,七九三		五〇,三二一
小 麥	(噸)	四,四〇一,三九六		二七,六四〇,九六六
精 糖	(噸)	一〇,一九九,六七七		八七,七三〇,八
茶	(噸)	六,〇七九		五,六二二
水 産 物	(噸)	一八六,八八八		一七二,七七八
雜 貨	(噸)	八〇,二二〇		六三,八六六
酒	(石)	七九,九四〇		七〇,八二二
植物性脂肪油	(擔)	一〇,六三七		九,八二二
魚油及鯨油	(噸)	三,七九四		三,四九二
石 鹼		—		—
構 寸	(擔)	九,〇三六		一,四六一,八四七
綿 糸	(噸)	五,九三七		六,三四六
人 絹 糸	(噸)	五,四三〇		四,一四四,六五五
綿 布 (生地)	(方碼)	九,九〇〇,六五三		八〇,九五二,三〇一
綿 布 (晒)	(噸)	三,五〇四,〇一〇		二,三三四,〇三七
其他	(噸)	一〇四,〇二二,九一一		二五,七三三,七四八
				三九,四六〇,〇二二

毛織物	10,155,975	9,830,973
絹織物	4,500,479	3,081,437
人絹織物	2,983,216	8,268,207
綿ブランクット	8,833	6,843
綿タオル	177,599	177,465
メリヤス製品	777,077	1,933,699
帽子	264,456	1,388,489
鈕釦	406,862	336,334
身邊裝飾用品	118,533	80,660
紙類	608,355	530,545
セメント	187,533	3,835,076
陶磁器	1,875,533	4,655,075
硝子及同製品	4,532,738	4,655,075
鐵	1,235	1,067,990
鐵製品	18,551	17,768
ゴムタイヤ	1,455	1,990,480
機械及同部分品	5,841,130	1,330,877
木材	33,904	4,765,983
洋傘	99,303	6,496,886
刷	2,010,675	2,358
ラムプ及部分品	37,638	1,499,684
玩具	37,638	37,638

其他共全國計	466,314,635	403,019,516
内阪神兩港	35,758,833	39,333,086
豆類	10,440,333	10,488,034
採油用原料	2,284,881	1,332,473
牛肉(生)	33,100	35,733
皮類	3,332	16,666
原油及重油	14,336	1,007,177
牛油	955	404
硫安	1,099,999	56,999
麻類其他ノ植物纖維(ク)	35,999	50,805
羊毛	188	4,999
石炭	2,650,446	2,732,199
鐵	2,217	3,555,770
鐵材	6,332,888	6,833,777
木	133,779	56,733
油粕	7,507,339	10,833,075
其他共全國計	33,533,008	33,533,008
内阪神兩港	80,888,555	80,888,555

本年英領印度對外貿易は輸出十六億八百萬ルーピー、輸入十三億五千九百萬ルーピーで、共に前年より九千萬ルー

C 英領印度

ビー以上の膨脹となり、貿易躍進の跡を見せて居るが、只其の貿易尻は、輸入の活潑あまりに著しかった關係から依然恐慌來の萎縮を續けて居た。

本年の輸出が其の割に振はなかつたのは黄麻、米等の重要品の輸出が激増したにも拘らず、棉花、茶、採油用種子の如きが前年に比べ少々減少を來たすに至つたこと、並に輸入において綿製品、機械類、鐵鋼及同製品、自動車、非鐵金屬及同製品其他が國內産業の隆昌から一段の増加を見たがためである。

英領印度商品貿易 (單位百萬ルービー)

輸 出	一九三四年	一九三五年
輸 入	一、五三三・二	一、六七六・六
輸 入 超	一、一六四・三	一、三九九・一
出 超	二四八・九	三〇六・五

次に國別貿易を観ると、主要相手國は英、日、米、獨等の諸國であるが、この内輸出入共依然首位を占める英國最近の勢力はオツタワ協定に依る努力も効なく、漸衰氣運で、ともすると第二位にある日本に其の地位を奪はれさうである。

本邦との貿易關係を見るに輸出二億七千五百六十三萬七千圓(本邦總輸出の一・二%)、輸入三億五百六十四萬六千圓(本邦總輸入の一・二・四%)で、前年に比べ夫々三千七百萬圓、一千六百萬圓の増加を示したが、其の主なる輸出入品は次の通りである。

輸 出	十 年		九 年	
	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年
精 糖	六三、六三三	四三、九三三	三〇、一五七	一九、五三三
茶	八、八四八	四四、三九九	八、七七〇	四九、五三三
麥 酒	一四、一六七	六三、九二四	二、一六六	五八、四四六

植物性脂肪油	(擔)	二、四三五	六、七五二
薄 荷 油	(噸)	二〇九	四、九八二
魚油及鯨油	(噸)	三、三〇〇	四、六三〇
石 鹼	(擔)	一〇、三六四	四、九一八
樟 腦	(擔)	六四七	二六
薄 荷 腦	(擔)	四、六六一	四、三三三
燐 寸	(噸)	一三、六四一	七、九五五
綿 糸	(噸)	一三、六三三	四、〇六七
生 糸	(噸)	六、六〇三	六三、八六五
人 絹	(噸)	三三、五九、六八六	二八、九八六、〇九二
綿織物(生)	(方碼)	六九、六八七、二〇四	五九、一九二、三三九
ク(晒)	(噸)	一七三、九九、二三五	一三三、三三五、五九五
ク(其他)	(噸)	—	—
毛 織 物	(噸)	—	—
絹 織 物	(噸)	—	—
人絹織物	(噸)	—	—
綿ブランケット	(擔)	一五、六四六	一一、〇六七
綿タオル	(打)	三〇五、〇六三	四〇七、六〇〇
絹製手巾	(噸)	三、四、七三七	五七、五七一
メリヤス製品	(噸)	三、一九三、六九二	三、三九七、五二三
帽子	(噸)	一、三三八、四七七	一、五八六、九三三
鈕釦	(噸)	—	—
身邊裝飾用品	(噸)	—	—

紙類	(擔)	一七九、八四一	一、一〇九、〇七五	二、五〇、〇七五
セメント	(噸)	二六、四三三	三、五九、四四三	五〇、七二六
陶磁器	(噸)	—	—	—
硝子及同製品	(擔)	—	—	—
鐵	(噸)	二七、〇五九	三、二六、〇七五	—
眞鍮	(噸)	一四、〇九二	三、一六、〇六六	—
鐵製品	(擔)	—	—	—
ゴムタイヤ	(擔)	—	—	—
機械及同部分品	(擔)	—	—	—
木材	(擔)	—	—	—
洋傘	(擔)	—	—	—
扇	(擔)	—	—	—
ラムプ及同部分品	(擔)	—	—	—
玩具	(擔)	—	—	—
其他共全國計	(擔)	—	—	—
内阪神兩港	(擔)	—	—	—
米	(擔)	—	—	—
米及類	(擔)	四、七六六	二、〇〇、四七四	五〇、三三三
豆類	(噸)	三、三三〇	二、三九、八〇〇	二八、〇五〇
探油用原料	(噸)	—	—	—
皮類	(噸)	—	—	—
革類	(斤)	—	—	—
生ゴム	(擔)	—	—	—

棉花	五、三二、〇九二	三、五九、〇六六	五、九三、三三三	二、五三、四四一
麻類	三〇、三三三	四、六四、八七五	三、九、三三三	四、八三、九三六
鐵	二、四七、八三三	三、六六、九三三	一、四八、九三三	二、三三、六三三
鉄鐵	五、六八、八三三	二、七六、八三三	三、六九、三三三	七、三三、三三三
鉛	三、三三、三三三	四、六六、六六六	二、六六、三三三	三、〇〇、八〇八
油	三、三三、三三三	八、三三、三三三	一、〇三、三三三	二、九六、七三三
其他共全國計	—	三、五九、〇六六	—	三、九六、七三三
内阪神兩港	—	三、五九、〇六六	—	三、九六、七三三

d 蘭領東印度

當領の對外貿易は一般にして言ふと昭和八年(一九三三年)を近年の底として漸次回復過程に在るものゝ如く、殊に本年の輸出は價格指數の上向、重要商品の荷動活潑から相當回復を示したが、輸入は依然農村の疲弊による購買力減から制限乃至特許下にある商品も自然相當の減少を來たした。

輸出	四、六四、三三三	五、六六、六六六	四、九三、三三三
輸入	二、七四、二二二	二、九四、一一一	三、三三、三三三
差引	一、九〇、一一一	二、七二、五五五	一、六〇、〇〇〇

國別貿易、當領の對日輸入貿易は昭和六年(三一年)來引續き國別で第一位を占めたが、而も金額的には本年は前年より一・七%の減を來たした。
又對日輸出貿易は昭和八年第五位、九年は第六位であつたが、本年は再び和蘭、シンガポール、米國、英國に次ぎ第五位となり、前年より二四%の増加を來たした。
而して本年の當領對日貿易割合は輸出一・〇に對し輸入三・四の比となり、前年の輸出一・〇に對し、輸入四・八に比

べると輸入著しく収縮を來たしたが、これ對日輸入が當領の引續ける不況と輸入制限處置のため、減少したがためである。

本邦より本年の蘭印貿易を観ると輸出一億四千三百萬圓(本邦總輸出の五・七%)、輸入七千八百萬圓(總輸入の三・二%)で前年に比し輸出は一千五百萬圓減少したが、輸入は却つて一千五百萬圓の増加を來たした。

主要輸出入品は次の通りである。

品名	十 年		九 年	
	輸出	輸入	輸出	輸入
小 麥 粉	10,333	75,633	8,968	55,966
寒 天	2,187	35,330	3,823	64,745
麥 酒	3,669	18,945	4,109	33,743
石 鹼	—	155,844	—	32,695
燐 寸	2,933	6,268	5,525	110,483
綿 糸	39,544	4,032,668	13,556	1,695,132
綿 布 (生)	5,766,622	9,977,634	6,055,663	11,258,944
綿 布 (晒)	5,722,466	10,032,873	9,921,799	18,265,392
綿 布 (其他)	235,973,455	1,977,637	264,033,239	55,504,239
毛 織 物	—	1,322,666	—	1,566,143
絹 織 物	—	1,322,666	—	1,042,261
人 絹 織 物	—	2,685,966	—	3,067,966
綿 ブランケット	8,579	53,034	13,877	892,966
綿 タオル	2,070,622	50,219	3,637	84,966
メリヤス製品	1,858,877	4,218,266	1,766,477	4,366,966

品名	十 年		九 年	
	輸出	輸入	輸出	輸入
帽 子	3,333	866,544	9,333	666
鈕 釦	—	33,588	—	33,588
紙 類	5,333	7,666	3,333	5,088
セメント	7,222	49,455	8,666	7,777
陶 磁 器	—	2,100,333	—	3,666,666
硝子及同製品	—	1,933,444	—	1,933,444
鐵 製 品	358,000	3,666,333	362,197	1,666,199
ゴムタイヤ	4,967	3,783,555	5,055,888	5,055,888
機械及同部分品	—	2,900,555	—	3,333,555
木 材	—	833,777	—	466,544
洋 傘	—	897,155	—	1,071,599
刷 子	—	1,746,666	—	95,666
ラムプ及同部分品	—	27,888	—	181,666
玩 具	—	1,909,966	—	1,336,999
其他共全國計	—	850,666	—	1,045,666
内 阪 神 兩 港	—	140,444	—	15,455
豆 類	89,333	59,038	—	—
採油用原料	58,338	3,666,001	—	—
砂 糖	2,333,277	3,755,488	1,777,666	—
原油及重油	1,008,755	2,666,666	705,555	—
其他礦油(0.7%以下)	1,197	73,670	11,666	—

品名	十一年	九年
ク (0.6以下)	1,136,955	875,450
生	230,455	18,599,899
棉	2,606,866	14,005
麻類其他植物纖維	2,677,677	14,005
鐵	4,599	109,299
其他ノ鐵	2,203,388	1,171
錫 (塊及錠)	79,037	1,550,554
木	340	27,633
油	2,100,033	2,153,136
其他共全國計	46,166,557	17,051
内阪神兩港	35,866,000	33,464,068

比 律 賓

米國商務省發行機關紙の報ずる所によると本年當國對外貿易は輸出一億八千八百四十九萬一千ベツ、輸入一億七千七百四十九萬九千ベツ、出超一千七百四十四萬二千ベツで前年に比べ輸出一四・六%の減少、輸入二・三%の増加であつた。かくて輸出は同紙の言を藉りると實に一九二一年來の少額であつたが、これは對米砂糖の輸出が半減を見るに至つたがためである。

然しながら當國の對米依存は依然濃厚なる所があるもので、本年の如き對米貿易關係は依然四千三百三十四萬ベツの出超を見せ、其他外國に對する貿易尻の悪化を相殺せるのみならず、相當の受取勘定さへ見るに至つた。本邦との貿易關係を見ると輸出四千八百萬圓(本邦總輸出の一・九%)、輸入二千四百萬圓(本邦總輸入の〇・九七%)で前年に比べ夫々一千二百萬圓、五百萬圓の増加を來たしたが、これ輸出にあつては綿布をはじめ各種雜貨の進出、輸入においては麻類の輸入が激増せるためである。主なる輸出入品は次の通りである。

品名	十一年	九年
小麥粉	1,572,791	577,297
水産物	26,231	29,042
魚油及鯨油	4,313	4,005
織物	40,099	3,995
綿糸	7,577	3,255
綿織物(生)	90,618	39,984
綿織物(晒)	1,566,005	67,763
綿織物(其他)	2,774,466	1,919,550
絹織物	1,255,591	2,556
人絹織物	4,950,701	1,956,055
綿ブランケット	2,466	1,015
メリヤス製品	1,985,568	1,502,771
身邊裝飾用品	3,358	3,433,891
紙類	2,353	3,377
セメント	26,932	2,300
陶磁器	16,932	3,755
硝子及同製品	98,995	5,500
鐵製品	1,097,733	82,276
機械及同部分品	1,581,733	97,667
ラムプ及同部分品	388,521	268,996
	457,950	37

品名	十一年	九年
玩具	三三、七二	二六、三六
其他共全國計	四、〇五、四七	三、四〇、九一
内阪神兩港	三、三〇、六三	三、七三、七〇
砂糖	一、三三、五八	一、三三、二〇
麻類	三、五三、四五	一、〇九、八四
木材	五、〇五、二九	四、三〇、八三
其他共全國計	三、九四、五五	二、八〇、七〇
内阪神兩港	三、二四、三三	二、三六、三三

f 英領馬來

本年馬來の對外貿易總額は十億六千二百九十萬弗、内輸入四億七千八百九十萬弗、輸出五億八千三百九十萬弗、出超一億五百萬弗で前年に比べ輸入七百四十萬弗(一・三%)、輸出千五百五十萬弗(二・七%)、出超額八百萬弗(八・七%)の増加を見た。

輸出増の原因としてはゴムを除く錫其他主要物産の輸出數量の増並市價値上りを見たがため、又輸入増を見たのは錫礦、綿布其他主要品の輸入減に拘らず其他雜品が増加せるがためであつた。

品名	十一年	九年
輸入	四七、九四	四七、四三
輸出	五三、九六	五八、四七
計	一、〇三一、九〇	一、〇三九、九三
出超	一〇五、〇三一	九七、〇三三

馬來貿易額(千弗)

輸入綿布の大半は本邦品であるが、當地の割當制限と蘭印方面への再輸出減が本年の激減をもたらしたものである。國別貿易を見ると輸出は依然米國が第一相手國で、馬來總輸出額の三六・五を占め、其他英國の一六・六%、日本の九%が主要相手國であり、輸入では蘭印の三一・三%、英國一五・六%、日本六・三%の順序であつたが、前年に比べると其の地位こそ變化はなかつたが、輸出では對米貿易、輸入では對英帝國貿易が本年は旺んであつた。

次いで本邦との貿易額を見るに、輸出五千九十四萬九千圓(海峽殖民地及英領馬來合算以下準之)で本年本邦總輸出の二%、輸入六千九百十四萬三千圓で本邦總輸入の二・八%で前年に比し輸出一千二百三十七萬一千圓の減、輸入五百八十二萬三千圓の増であつたが、これ輸出に在つては綿布、人絹等主要輸出品が割當制限、聯邦州の關稅引上、蘭印の輸入制限、シヤム向直取引の増加から減少したがためであり、輸入は内地不振のため減少したゴムを除き其他諸品が内地産業の發展から増加せるがためである。

主要輸出入品は次の通りである。

品名	十一年	九年
小麥粉(擔)	七、三五	三、〇九
水産物(噸)	四、三七	六、七〇
塞天(噸)	四、八	二、六四、〇六
麥酒(石)	二、四四	四、三
薄荷油(擔)	一、八	二、〇三
石鹼(擔)	一	二、七
薄荷腦(擔)	一、九	三、二、六四
佛寸(噸)	二、三〇	一、七、五三
佛寸(噸)	五、八九、六六	五〇、〇五
綿織物(方碼)	五、八九、六六	八〇、〇五

ク(生)(馬)	(方碼)	三、九三	七四	三〇、三九、三六	三、三九、三六
ク(晒)(海)	(噸)	九、九〇、二九七	一、五七、五九	三〇、三九、三六	三、三九、三六
ク(晒)(馬)	(噸)	一、五三、八八	二四八、九九	一、	一、
ク(其他)(海)	(噸)	二八、九〇、九二	六、〇五、五二	六〇、二七、七三	三、三三、九六
ク(其他)(馬)	(噸)	一、〇九、七九	三、六、六五	一、	一、
絹織物(海)	(噸)	一、	三、〇五、二四	一、	三、三九、九二
人絹織物(海)	(噸)	一、	一、八四、二五	一、	三、三九、九二
綿ブランクット(海)	(打)	四、五八一	三、四〇、九五	四、〇九二	三、三九、九二
綿タオル(海)	(打)	三、四、七四	三、六、六八	二、五、九二	三、三九、九二
メリヤス製品(海)	(打)	五三、二九四	一、四一、元二	四三、四八	一、三〇、八二四
帽子(海)	(打)	六、七四八	二、七、二八	七、五〇四	三、八四、一九一
紙類(海)	(擔)	三、〇三三	三、四、四九	一九、八四四	二、九三、九三二
石炭(海)	(英噸)	二、三三、〇二	二、三九、五〇	三、三三、五〇	二、五三、一四〇
セメント(海)	(擔)	一、四九、九三	九、九、九五	一、〇七、三六	七、六四、九四七
陶磁器(海)	(擔)	一、	七、三、七三	一、	一、二六、九六六
硝子及同製品(海)	(擔)	一、	九、九、四八	一、	一、〇四、五〇六
鐵製品(海)	(擔)	二、五、三六	一、二四、五六	五、九、二六五	一、〇四、五〇六
鐵製品(馬)	(擔)	一、	一、七四、二五	二、四、五八	二、四、五八
ゴムタイヤ(海)	(擔)	一、四、八三	九、五、六四	三〇、一九	一、〇三、八三〇
木材(海)	(擔)	一、	五、八、八三	一、	一、〇三、八三〇
洋傘(海)	(擔)	一、	七〇、五三	一、	四、四、二七
ランプ及同部分品(海)	(擔)	一、	五、九、〇〇	一、	四、九、七四八
玩具(海)	(擔)	一、	五、〇、〇〇	一、	六、一、七四

四〇

其他共全国計(海)	(噸)	四、五、六、〇五	一、八、五、三、〇	六、三、〇、一、六
其他共全国計(馬)	(噸)	二、四、三、七四	二、四、三、七四	一、
内阪神兩港	(噸)	三、七、七、〇〇	三、七、七、〇〇	三、七、七、〇〇
探油用原料(海)	(擔)	一〇、三、〇〇	一、八、五、三、〇	三、三、七
皮類(海)	(噸)	一〇、四、四	二、六、一、二七	一、一、〇、六六
生ゴム(海)	(噸)	四、一、九	三、四、二、四	八〇、七、九三
棉花(海)	(噸)	六、八	一〇、七、七	七、八、八、四
燐礦石(海)	(噸)	七、九、〇三	一、四、七、〇一	九、〇、三九
銅(海)	(噸)	一、五、二三	一、五、八、七三	二、〇、九、八、九四
錫(塊及錠)(海)	(擔)	四、六、六	九、八、四、八六	八、七、四、三、〇〇
其他共全国計(海)	(噸)	一、	四、〇、四、七、六七	一、〇、六、二、七五
其他共全国計(馬)	(噸)	一、	三、八、四、四、七三	三、三、〇、二、六一
内阪神兩港	(噸)	三、七、七、〇〇	三、七、七、〇〇	三、七、七、〇〇

8 英 國

本年の對外貿易は輸出四億八千二百萬磅、輸入も七億六千百萬磅、入超二億七千百萬磅で、過去の夫に比べ改善見
るべきものがあり、殊に輸出に於て其の著しきを見た。
即ち本年の實績を前年に比べると輸入四%、輸出八%夫々増加となつて居り、輸出は實に一九三〇年來の多額であ
つた。
これ諸機械類、製鋼鐵品類、車輛類等重工業品を筆頭に羊毛、毛糸、毛製品の輸出が著増したがため、當國の看
板たる綿布類の輸出はプロック内に於いてすら不振を見た結果、却つて減少を來たす有様であつた。

四一

其の結果は當國纖維工業の構式内容に一大修正を見なければならぬかも知れぬと云ふ危機に面せるものである。輸入では飲食料品、煙草が相當増加したが、主として價格の騰貴からで、完成品亦増加著しかつたが主として雜品であり、鐵鋼品、毛織物、絹製品其他織物の如きは却つて減少を來たした。

相手國別貿易では輸出入共依然帝國内貿易が大部分を占めて居り、殊に輸出に於いてこの現象が著しかつた。蓋しスターリングブロック諸國就中英帝國内諸國こそ英國品唯一最大の好仕向地であるからで、歐洲金ブロック諸國への輸出は概して減少、其他諸國に於いては全く振はなかつた様であつたが、これ東洋市場における日本、アメリカ市場における米國の存在せるために外ならなかつた。

次に本邦との貿易關係を見ると輸出一億一千九百四十五萬八千圓(本邦總輸出の四・八%)、輸入八千二百十六萬圓本邦總輸入の三・三%)で、前年に比べ夫々一千十八萬八千圓、一千百七十九萬圓の増加を見たが、其の主なる輸出入品は左の通りである。

輸 出

品名	十 年		九 年	
	数量	金額	数量	金額
豆 類 (擔)	三九七、八〇五	四、三二一、二六圓	五五〇、二四七	六、三三三、六九九圓
寒 天 (ク)	三、一三三	五七、六九	二、二八〇	三、四八、五四〇
罐詰詰食料品(容器共)(ク)	四〇九、九六	二〇、四八、五五	四三三、三五	二四、七、七三〇
植物性脂肪油 (ク)	六四、三三三	一、六六、三三〇	六四、五二八	八九〇、八七〇
薄 荷 油 (ク)	一、四九七	五、六四、五七	一、六二四	五、五〇、〇三六
魚油及鯨油 (ク)	九八、六五	八五、一六八	五八、一七五	四三、六六〇
除 虫 菊 (ク)	九六五	三七、五九	三、二二五	一、九、六六四
樟 腦 (ク)	九六六	一、八四、六七	九六六	一、八一、三七
薄 荷 腦 (ク)	四三	三九、六九	一八五	一、五、八四九

品名	十 年		九 年	
	数量	金額	数量	金額
厨糸眞綿玉糸等 (ク)	二六	七四、五三	八〇七	九七、八九五
生 糸 (ク)	二八、四四	三、四〇、六六	三、八八八	一四、三三七、〇五六
綿 布 (生) (方碼)	一〇、三五、〇六	一、六七、四〇	一、二七六、三三	三三、三六七
ク (晒) (ク)	一〇七、五七	一、五八、七三	九九四、七九	一八三、八六三
ク (其他) (ク)	二、一〇、七五	四四、九六	一、六四、六三	三三、八八三
絹 織 物 (ク)	—	三、〇三、六四	—	一〇、五七、九七〇
人絹織物 (ク)	—	七、七、四九	—	九六、二四〇
絹製手巾 (打)	三、四、四六	六四、七五八	二、九、九六六	五、四、一〇一
メリヤス製品 (ク)	二、六五、一四	七、三、四、八六	三、四七〇、九三	七、六三、三六三
帽子 (ク)	三、〇〇、九九	九七、四、六五	二、六、四三二	九二、九、〇四七
鈕 釦 (ク)	—	一、六三、七三	—	一、七九、一五
身邊裝飾用品 (擔)	—	一、三、五、七三	—	一、〇三、五二八
紙 類 (擔)	三、七三	四〇九、二四三	—	三、三、六四一
硝子及同製品 (擔)	—	五、一〇、五九	—	三、五七、〇三〇
木 材 (千束)	—	五、六九、一〇〇	—	五、〇八九、二九九
製帽用眞田 (千束)	三、一四	九五、八三	二、八五四	一、〇六三、七〇五
刷 子 (千束)	—	七、二、七九	—	一、〇八、一〇九
ラムプ及同部分品 (千束)	—	一、四、一、三二	—	二、一、三、五八七
其他共全國計 (千束)	—	二、九、四、八、四八	—	一、〇九、六、六四二
内阪神兩港 (千束)	—	五、八、六、三、七	—	四、四、六、三、五
皮 類 (擔)	三、六三	三、三、八、三圓	二、七四〇	三、四、九、八圓
革 類 (斤)	八、一、一〇、一〇	一、九、一、五八	一、二、三、四、九七	三、三、一、一七

品名	十一年	十一年	十一年
生性曹達曹達灰	144	37,018	1,570
苛性曹達曹達灰	59,957	3,470,036	39,377
及天然曹達	59,264	300,289	1,833,110
硫安(粗)	201	19,559	1,333
麻類及其他ノ植物纖維	5,713	75,101	6,356
羊毛	809,239	1,921,688	683,695
毛糸	1,288,556	909,051	1,286,186
綿織物	6,536,337	70,170	1,653
毛織物	6,176	70,170	1,653
製紙用パルプ	27,949	557,309	33,433
印刷料紙	240,523	2,775,534	105,420
鉄	1,760	19,410	3,014
鉄鋼	1,760	19,410	3,014
レール及フィッシュプレート	1,366,057	11,555,071	2,107,834
其他ノ鐵	5,109	44,110	1,395
アルミニウム(塊、錠及粒)	550	9,049	1,355
鉛(塊及錠)	4,733	81,559	3,693
自動車及同部分品	3,768,855	4,268,811	7,056,955
發電機類及變壓機(斤)	4,733	81,559	3,693
其他機械及同部分品	4,733	81,559	3,693
其他共全國計	4,733	81,559	3,693
内阪神兩港	4,733	81,559	3,693

獨 乙

本年度(三五年)獨乙對外貿易總額は八十四億二千九百萬馬克で、前年度に比べ約二億萬馬克の萎縮であつたが、其の貿易尻は却つて前年九月來實施の輸入制限政策による輸入減並にバルカン諸國並中南米諸國への輸出増進から著しく改善せられ、前年度の入超二億八千五百萬馬克から一躍一億千百萬圓の出超に轉ずるに至つた。

即ち本年は、輸出四十二億七千萬馬克、輸入四十一億五千九百萬馬克を示し、前年度に比し輸出一億三百萬馬克増に對し、輸入は却つて二億九千三百萬馬克の激減を見たのであつた。

尙本年の獨乙貿易に見られた特異點は其の出入地域的分布に一大相違を來せる事實である。

由來獨乙は歐洲に對する出超を以て歐洲外の諸國から原料品を求め來つたのであるが、求償互惠主義旺んる今日この主義の貫徹に困難を生じ、其の結果は歐洲よりの輸入比率増、輸出比率減、並に其他市場への輸出比率増、輸入比率減の傾向が顯著となつた。

本邦との貿易關係を見ると本邦よりの輸出二千六百七十六萬六千圓(我が總輸出の一・一%)、輸入一億二千八十一萬八千圓(我が總輸入四・九%)で、我が貿易上における地位は輸出入何れも前年より多少向上を示した。

尙本年の輸出入は前年に比べ夫々七百八萬九千圓、一千二百二十三萬四千圓の増加を來たしたが、其の主要輸出入品は次の通りである。

品名	十一年	十一年	十一年
豆類(擔)	26,566	1,146,184	66,629
寒天	4,336	83,875	3,336
罐詰食品(容器共)	6,338	47,879	2,605
植物性脂肪油	17,577	46,356	28,296
薄荷	1,456	703,333	1,614
魚油及鯨油	33,433	2,588,586	14,408
樟腦	3,990	73,723	5,310

輸 入		輸 出	
品名	十 年	品名	十 年
人造絹糸 (擔)	九四五	人造絹糸 (擔)	六五八
綿布 (生) (方碼)	五、三六五、六四四	綿布 (生) (方碼)	一、〇三、八七六
綿布 (晒) (方碼)	二、三八八、〇八四	綿布 (晒) (方碼)	三三、六六六
絹織物 (其他) (方碼)	九四〇、一六六	絹織物 (其他) (方碼)	二〇、八一一
人絹織物 (擔)	—	人絹織物 (擔)	七〇六、三一一
鈕釦類 (擔)	—	鈕釦類 (擔)	三、一〇〇
紙類 (擔)	三、五五九	紙類 (擔)	三、七〇、九三三
陶磁器 (擔)	—	陶磁器 (擔)	三、〇、九三三
木器 (擔)	—	木器 (擔)	三、一、一〇五
製帽用眞田材 (千束)	一、五九九	製帽用眞田材 (千束)	四、八三三〇
玩具 (千束)	—	玩具 (千束)	四、八三三〇
其他共全國計	—	其他共全國計	二八〇、四三九
内阪神兩港	—	内阪神兩港	一六〇、三三三
革類 (斤)	二二、五二	革類 (斤)	一、九、七七一
礦油(比重〇・八六以下)(百ガロン)	二、二一九	礦油(比重〇・八六以下)(百ガロン)	八七、五五八
粗製硫安 (擔)	二、五五五、六七〇	粗製硫安 (擔)	三、一、二一六
合成染料 (斤)	一、四九、〇三二	合成染料 (斤)	二、六、六六九
毛糸 (方碼)	—	毛糸 (方碼)	一、〇、四七一
綿布 (方碼)	三、九一九	綿布 (方碼)	五、八八五
毛織物 (方碼)	—	毛織物 (方碼)	一、八、八七〇
製紙用パルプ (擔)	二六、三三	製紙用パルプ (擔)	三、一、一三三

輸 入		輸 出	
品名	十 年	品名	十 年
印刷料紙 (方碼)	一、五〇四	印刷料紙 (方碼)	一、八、六九
銑鐵 (方碼)	六、七三三	銑鐵 (方碼)	二、五五〇
其他鐵 (方碼)	二、三九六、六四四	其他鐵 (方碼)	二、八、三三九
アルミニウム(塊錠及粒)(方碼)	三、八三三	アルミニウム(塊錠及粒)(方碼)	四、八、八〇
自動車及同部分品	—	自動車及同部分品	一〇五、〇九三
發電機及變壓機 (斤)	一、〇三、五二五	發電機及變壓機 (斤)	一、六、七、二六三
其他機械及同部分品	—	其他機械及同部分品	二、四、三、三三
其他共全國計	—	其他共全國計	二〇、八、七、五八六
内阪神兩港	—	内阪神兩港	六、六、四、三三

i 佛 蘭 西

本年佛國の對殖民地及外國貿易總額は三百六十四億千八百萬法で、前年に比べ四十五億二千九百萬法の減少であつたが、之を輸出入に分けて見ると、輸出は二十三億七千七百萬法即ち一三%、輸入は二十一億五千二百萬法即ち九% 夫々前年より減少を來たし、殊に輸出の減少が著しかつたが、これよりもなほさす金本位維持の結果である。輸出減が製造品輸出不振から輸入減に比し相當大であつたため、貿易尻は前年より更に悪化、入超五十四億七千二百萬法となり、前年より二億二千五百萬法の増加を來たした。

本年佛國貿易を地域別に見ると、依然殖民地向との貿易が相當重要地位を占め居ることが窺はれる。即ち本年の對殖民地貿易は輸入五十三億八千二百萬法で前年より四億六千百萬法の増加を來たし、前年同様其の輸入總額に於ける地位は二五%を占め、又輸出は四十八億八千九百萬法で前年より六億二千五百萬法の増加、輸出總額における地位は

前年同様三一%を占めた。
 外國貿易において第一地位を占めた相手國は輸出先では白耳義及ルクサンブルグ經濟同盟の十八億一千四百萬法、輸入先では米國の十七億七千四百萬法で、本邦との通商關係は輸出で第十八位(九千三百萬法)、輸入で第二十一位(一億九千百萬法)で大したものでない。

因に佛國の對外貿易は近時其の金本位死守主義が益々困難を加へつゝあるものゝ如く、其の結果は自然プロツクイズムに走り、殖民地間との交易に努力しつゝあるが如きも、其の成績もさして香しからぬものゝ如く、却つて入超關係にあること既述の通りで、この處佛國品は外國のみならず、殖民地自體にすら輸出難に逢著せることを語る。

次いで本邦より觀た對佛貿易關係は輸出二千四百萬圓(輸出總額の一・七%)、輸入二千萬圓(輸入總額の〇・八%)で前年に比べ輸出は一千四百萬圓の減少を來たしたが、輸入は却つて百三十萬圓の増加を來した。

佛國の通商障壁工作が嚴を極めたる結果本邦品の進出が阻止されたがためである。
 主要輸出入品は左記の通りである。

輸 出	十 年		九 年	
	金額	單位	金額	單位
寒 天 (擔)	三、六四四		一、六九九	擔
罐頭詰食料品(容器共)(ク)	五九、八六六		二、五、三三三	
植物性脂肪油 (ク)	七、三五五		一、八〇六、三五三	
薄 荷 (ク)	一、六五五		一〇、四三三	
樟 腦 (ク)	二、〇九三		一、五五八	
生 糸 (ク)	三、四七五		二、二二五	
綿 布 (生) (方碼)	三、〇七九		三、三三三、八九〇	
綿 布 (晒) (ク)	七〇、七五七		三三、八七一	
			一四、〇九〇	
			七二、七五七	

輸 入	十 年		九 年	
	金額	單位	金額	單位
絹 織 物 (其他) (ク)	一、三九九、三三三		一、二八三、八二〇	
人絹織物			三三、六四二	
メリヤス製品 (打)	一九、三五五		二、三三三、四七二	
鈕 釦			三、七、三五五	
陶 磁 器			四、四、五八一	
製帽用眞田 (千束)	一、三〇五		二八八、三〇一	
刷 子			三三三、〇八八	
玩 具			四三、三三九	
其他共全國計			四九、六三四	
内阪神兩港			一八、五五〇	
			三、三八、五九九	
			一七、九六、〇七	
皮 類 (擔)	五、九五六		五、三三九	
合 成 染 料 (ク)	六、八六三		八五、六七七	
毛 糸 (斤)	二、三五		五七四、一三八	
綿 織 物 (方碼)	六、三〇一		一、七五二	
毛 織 物			七、九三三	
其他ノ織 (擔)	三、〇、八〇一		七、二六	
アルミニウム(塊錠及粒)	四、七〇三		三、二、一〇〇	
自動車及同部分品			八、四四九	
發電機及變壓機 (斤)	七〇		一、四四六	
其他ノ機械及同部分品			六、六六八	
其他共全國計			三、二、〇四六	
			一八、三九、五四三	

内阪神兩港

j 米

國

九、三六、六九

五〇

一〇、四九、三九〇

本年米國の對外貿易總額は四十三億二千九百萬弗に上り前年に比し五億四千萬弗の増加で、相當改善されたと云ひ得る。

たゞし輸入の對前年増加額が三億九千二百萬弗(二四%)に對し輸出増加は僅かに一億四千九百萬弗(七%)に止つたため當國の特色とする出超額は二億三千四百萬弗と一九二六年來の少額であつた。

十年		九年	
輸 入	二、八二、〇三三弗	三、一三、八〇〇弗	
輸 出	二、〇四七、七九七	一、六五、〇五五	
計	四、三九、八一〇	三、七九、八五五	
出 超	一、五六六、七六七	一、一四一、七五五	

本年の輸出が輸入に比し前年比較増率において稍見劣りの觀を與へるに至つたのは主要市場たる歐洲諸國が依然鎖國的經濟主義を遵奉しつゝあつたこと並に主要輸出品たる農産物が不作のため市價高となり輸出能力を削減せられたため、重工業用品と軍需工業用品の如きは國際不安のお蔭で相當活潑を見つたものであつた。

輸入が激増したのは一に國內景氣の好轉に依る需要擡頭と農産不作による補充的物資の輸入促進せられたためであつた。

本年の貿易主要相手國亦英國、カナダ、日本、佛國の四ヶ國であつて、輸出に於いては實に米國總輸出の約五〇%が英國、加奈陀、日本、佛國の順位で仕向けられ、輸入では加奈陀、英國、日本の順位で約三割が輸入せられた。日本との貿易關係は輸出二億三百萬弗、輸入一億五千三百萬弗で出超五千萬弗に上つたが、前年に比べると輸出は棉花、小麦の減から三・四%減、輸入は生糸、雜品の増から二・八%増を來たしたが、其原因は既述の通りである。因に本邦より見た對米貿易は輸出五億三千五百萬圓(總輸出の二一・五%)、輸入八億九百萬圓(總輸入の三一・六%)

で前年より夫々一億三千七百萬圓、四千萬圓の増加となつて居る。主要輸出入品は次の通りである。

輸 出	十 年		九 年	
	豆 類 (擔)	一三、〇三六	一六、九八〇	
茶 (噸)	一〇〇、四四九	一〇九、〇〇六		
水 産 物 (噸)	一〇二、七五五	八〇、一五一		
寒 天 (噸)	三、三九九	三、一八九		
罐詰詰食料品(容器共)(噸)	二四、九〇〇	一六、〇七六		
植物性脂肪油 (噸)	一、〇七、〇〇〇	二七、四七五、八七五		
魚油及鯨油 (噸)	一五、八五五	二八、四六三		
除 虫 菊 (噸)	二七、〇一一	一、五五、六〇三		
樟 腦 (噸)	八、一八九	九、八八一		
薄 荷 腦 (噸)	二、九九九	三、三九九、二二		
樟 腦 寸 (噸)	一五、〇〇五	三、〇〇、七七八		
屑糸眞綿及玉糸等 (噸)	一、一三三	三九、三三五		
生 糸 (噸)	四六、五五五	三九、九〇、七五三		
綿 布 (生) (方碼)	七、六〇、四六六	二九、〇七五		
夕 (晒) (噸)	三、七、三三〇	五、四三、四九九		
夕 (其他) (噸)	一〇、三六五、五〇〇	二、六三三、五八八		
絹 織 物 (噸)	—	六、七七、八三〇		
入 絹 織 物 (噸)	—	二、六三、九〇三		

絹製手巾 (打)	四七、五三	八六四、八二圓	四二四、七五	六三、〇三圓
メリヤス製品 (ク)	一、七四、六一	三八七、二六	八三〇、七〇	一、五二四、二一
帽子 (ク)	七五、九三	三、五〇六、七〇七	八六、三三	四、五三一、四九二
鈕釦 (哥)	四六、二六六	三九、八四一	二四、六九三	三、四、六九三
身廻裝飾用品 (擔)	一〇、六二〇	一、六六六、七三	一、六六四、一九一	一、六六四、一九一
紙 類	一〇、六二〇	八四、四四九	七、五三七	六五、四〇四
陶 磁 器	一〇、六二〇	一五、七六六、三〇	一四、三三三、七九〇	一、八二五、九四九
硝子及同製品	一〇、六二〇	二、〇八八、八二四	一、八二五、九四九	三六六、五七七
木 材	一〇、六二〇	八二、八四四	一、八二五、九四九	三六六、五七七
製帽用眞田 (千束)	五、九五〇	一、八三二、六五〇	一、三六三	四、九四六、八五〇
刷 子	一〇、六二〇	一、六三二、八五七	一、八〇七、三三一	一、八〇七、三三一
ラムプ及同部分品	一〇、六二〇	二、六三〇、五五一	三、一五九、七七	三、一五九、七七
版 具	一〇、六二〇	一、四九四、〇五二	九、六〇三、九〇六	九、六〇三、九〇六
其他共全國計	一〇、六二〇	五五五、六九、四四〇	三九、九八、三三九	三九、九八、三三九
内阪神兩港	一〇、六二〇	一八九、三三、三四	一四、三三、四〇三	一四、三三、四〇三
小 麥 (擔)	四、九四四	二、三三、七五圓	二、三三、八〇三	九、八六九、五三圓
皮 類 (ク)	一、三三、七五	六、九五、五七七	一、五八、四七九	六、三六〇、二六
革 類 (斤)	二、三三、七五	九、八八、一七九	一、七三、八五	七、五〇、五九八
原油及重油 (百ガロン)	六、八六六、七三	八、三三六、三七七	四、九〇三、四三三	五、四、四七四、七九
礦油其他(比重〇、八七三以下)(ク)	二、九一、三三九	六、一六六、七三〇	五、六五、一五	一〇、〇九九、〇三四
牛 脂 (擔)	一、四〇〇	七、一六八	三、四九三	五、六〇、八三二
生 ゴ ム (ク)	二、九一	二、六六八	七、四六	五、九、四三

苛性曹達、曹達灰及天然曹達粗製硝酸曹達 (ク)	六八、五五三	七〇三、六五四	五、三三四	四七、五七五
合成染料 (斤)	四九四、七七一	二、三三六、八四四	二、五八、四四	一、一六六、八八一
棉花 (擔)	三、四三、二八	一、三九〇、五七七	三、〇三、五七八	一、二六、二二六
綿織物 (方碼)	五、五八、四三〇	三、七、九三三、〇五一	六、四六、七三一	四〇〇、九二八、九四
毛織物	三、四、七三	四、七、三六六	六、〇三	五、六五
製紙用パルプ (擔)	一、八四六、〇七七	三、八二二、〇四〇	一、四、五、〇六	二、六、三三三
印刷料紙 (ク)	三、三三三	三、四、六〇〇	一、五、一三	二、五、七七
鑄 石	三、三三六、五九三	四、五、九、三四八	三、二、一、九	三、九、九、三三
鐵 類 (ク)	一、二五、三六五	六、七、四、六	六、八、八	一、〇、七、三、六
鉄 類 (ク)	一、四、二、〇五	九、八、七、五二	三、三、八六	八、三、八三
レール及フィッシュプレート(ク)	二、七、七、九三	九、九、六、四	一、〇、三、二六	五、三、九、五
其他の鐵 (ク)	二、七、七、九三	八、七、九、〇、三七	一、七、六、四、八二	六、七、四、六、八三
鉛 (塊及錠) (ク)	三、九〇、〇九	四、八、五、四三	五、九、〇、四	六、八、三、三六
銅 (塊及錠) (ク)	一、〇七、七、六五	三、八、四、八、三四	七、六、一、六	六、二、七、〇、九
亜鉛 (塊及錠) (ク)	一、二、八、四、九	一、八、四、八、二一	八、九、八、五	一、五、三、三、四
懷中時計及同部分品	一	三、四、七、七	一	一、八、四、七、〇三
自動車及同部分品	一	三、三、五、五、〇五	一	三、三、五、五、〇五
發電機類及變壓機 (斤)	一、七、四、六〇〇	五、三、三、〇、〇七	一、四、四、五、〇	三、九、八、一、四七
其他の機械及同部分品	一	三、六、三、六、二八	一	三、五、三、三、四四
木 材	一	二、六、三、六、八六	一	二、〇、九、六、六、二
其他共全國計	一	八〇九、六、四、五、三	一	六、九、五、九、〇、九
内阪神兩港	一	四、六、六、五、三〇	一	五、〇、七、五、〇、四

農産品並原料品價格の低落停止及反騰さへ見るに至つた本年は世界有数の農業園であり且原料供給園であるカナダの經濟力充實に極めて役だつたもので、且其の對外爲替の實質的下向はこの國の輸出貿易を刺戟せし處尠くなく、其の結果は貿易量の増大と共に貿易尻の改善に著しき効果を見せた。

即ち本年の貿易は輸出七億二千九百萬弗、輸入五億五千萬弗、出超一億七千九百萬弗となり、前年に比べ輸出七千六百萬弗(一一%)、輸入三千七百萬弗(七%)、出超三千九百萬弗(二七%)夫々増加となつた。

尙當國の貿易は其の輸出の五一%、輸入の三一%が英帝國關係であり、對外國貿易は殘餘の部分であるが、其も大部分對米貿易に集中され居るものであつて、換言すると輸出の九〇%、輸入の約八〇%が英米關係となつて居るものである。

英帝國との貿易は輸出三億七千八百萬弗、輸入一億七千四百萬弗で前年に比べ夫々四千三百萬圓、(一一%)、一千七百萬圓(一〇%)の増加、英帝國外との貿易は輸出三億五千百萬弗、輸入三億七千六百萬弗で對前年比較夫々三千四百萬弗(一〇%)二千萬弗(五%)増であつた。

之に依り見ると英帝國間との貿易が相當の出超關係にあるに對し、外國貿易は本年は餘程改善されたとは云へ尙多少の支拂關係に立つに至つたが、これ對外通商の依然として困難なることを語るもので其の結果は益々英帝國間との關係を深めゆくものと推察せらる。

日本との關係を本邦側より見ると輸出七百九十七萬七千圓(本邦總輸出の〇・三二%)、輸入五千二百五十三萬一千圓(本邦總輸入の二・一%)で、前年に比べ夫々六十八萬九千圓、百五十六萬三千圓の減少を來たしたが、これカナダの禁止的輸入關稅に對抗して本邦が其の傳家の寶刀たる通商擁護法を五月に發動したのために出入共減を見たのである。

カナダ貿易(千弗)

輸出		輸入	
	十年		九年
英 國	3,035,503	1,133,436	1,133,436
其他共英帝國	3,770,645	1,570,677	1,570,677
其他外國計	3,510,649	3,564,033	3,564,033
内 米 國	2,655,975	2,937,760	2,937,760
日 本	1,042,262	4,426	4,426
總 計	7,979,434	6,553,332	6,553,332
英 國	2,160,670	1,133,436	1,133,436
其他共英帝國計	1,570,677	1,570,677	1,570,677
其他外國計	3,249,087	3,564,033	3,564,033
内 米 國	2,322,427	2,937,760	2,937,760
日 本	3,256,552	4,426	4,426
總 計	5,055,355	5,133,462	5,133,462

輸出		輸入	
	十年		九年
米 及 類	3,704,400	4,937,790	1,155,260
豆 類	2,088	33,232	2,133
茶 類	13,641	58,499	23,293
薄 荷 類	55	40,897	64
其他			55

次に本邦より當國への主要輸出入品は次の通りである。

輸		入		内 外	
生糸	130	70,840	757	42,270	56
絹織物	1	6,770	1	5,560	1
人絹織物	1	13,750	1	12,760	1
絹製手巾	(打)	5,560	2,860	3,700	1
鈕釦	1	6,250	1	5,660	1
陶磁器	1	1,450	1	1,300	1
刷子	1	5,250	1	4,760	1
ランプ及同部分品	1	6,580	1	5,990	1
器具	1	7,580	1	6,990	1
其他共全國計	1	7,970	1	7,380	1
内阪神兩港	1	3,250	1	3,000	1
小麥	(擔)	8,760	6,350	1,310	1
牛肉(生)	(噸)	7,680	1,710	5,970	1
製紙用パルプ	(噸)	1,840	1,450	390	1
其他の鐵	(噸)	3,360	860	2,500	1
アルミニウム(塊錠及粒)	(噸)	7,440	6,080	1,360	1
鉛(塊及錠)	(噸)	5,560	6,980	1,420	1
亜鉛(塊錠粒)	(噸)	1,780	2,830	1,050	1
自動車及同部分品	1	3,800	1,910	1,890	1
其他機械及同部分品	1	1,350	820	530	1
木材	1	8,580	8,290	290	1
其他共全國計	1	5,510	5,390	120	1

内阪神兩港

1 アフリカ

36,810, 250

20,350, 330

本邦の對アフリカ貿易は著しき出超關係に立つもので、こゝがまた新興市場として期待深かりし所でもあつた。本年の對阿大陸貿易に就て見るも、輸出一億八千三百五十二萬八千圓、輸入六千九百十八萬六千圓で實に出超額は一億一千四百三十四萬二千圓の多きを見るに至つて居る。

尙之を前年に比べると輸入が約一千三十八萬八千圓(一一%)減に對し、輸出は尙百十三萬一千圓(〇・六%)の増加を見たため、出超額亦本年は前年より一千五百一十一萬九千圓(一一%)の増加で、全阿貿易面に現はれた上述の數字から判斷する限り、依然吾が輸出品の好市場たるを失はない様だが、個々地域別に檢討するときは相當の變化を來たしつゝあることが知られる。

蓋し片貿易調整は今や世界の聲として、この偏傾した事實を其の儘放置しては措かない現状である本邦對アフリカ貿易の樞軸をなすのは埃及、ケニヤ・ウガンダ・タンガニカ並南阿聯邦の三地域で、對阿大陸輸出の過半、輸入の殆どが實にこの三地方にて占められ居るのであるが、本年これら地方との貿易量は輸出入共著しく低下を來たし、殊に輸出に於いて其が特に著しかつたが、これは此等地方が英帝國ブロック關係に立つといふこと以外に前述の片貿易調整意識の熾烈であることを語るものであらう。

即ち此等三地方の我が對阿貿易上における地位は前年の輸出六八%、輸入八七・五%が本年は輸出五六%、輸入八五・五%に其の貿易量減から低下を見るに至れる事實である。

上述の點から推して見る限り本年の對阿輸出が多前年より増加せりとて、決して將來への光明を約束するものとは斷定し難く、否却つて、あまりに片寄つた貿易關係から調整の試みは各方面からあらゆる機會を捉へて行はるゝに至るべき危険を包蔵するもので、今後は益々多事多難を加へゆくものではあるまいか。

次に主なる對阿輸出入品を見ると次表の通りである。

内阪神兩港		六〇	
荷性曹達曹達灰及天然曹達(K)(擔)	三三、三三	一、三七一、九五四	一、三七一、九五四
棉	(埃)(ク)	五三、九七	四九、五二
花	(埃)(ク)	四、〇九、四〇	三九、七七、三三
羊	(南)(ク)	九、六五	一三、三三、〇三
毛	(南)(ク)	一、八七、三三	五、六〇、六九
磷	(埃)(ク)	四、四〇、六五四	四、六七、〇九
石	(埃)(ク)	六、一五、九〇	九、五三、六二
其他共全國計	—	六、八五、七七	—
内阪神兩港	—	三、六三、八九	—
其他共全國計	—	三、二一、七二	—

m 濠洲

本年濠洲の貿易總額は一億八千五百九十九萬六千英貨磅で前年に比べ一五%の増加であつたが、其の内譯は輸出一億百五十二萬二千英貨磅、輸入七千九百五十四萬四千英貨磅で、夫々前年より一千三百二十三萬四千英貨磅、(二三%)、一千六十六萬八千英貨磅(一五・三%)の増加を來たし、出超額はこの結果對前年一三%増の二百五十萬八千英貨磅となつた。

而して主要相手國は輸出では英本國、日本、白耳義、米國、新西蘭、輸入では英本國、米國、日本、蘭印、カナダ獨乙の諸國で、本年輸出の七六%、輸入の七七%は實に上述諸國の占むる所であつた。

本年の貿易が稍々前年より増加を見るに至つたのは輸出に於いては羊毛の値上り並輸出量の増加、輸入においては諸機械類の買付増加を見たがためであつた。

濠洲貿易統計 (單位千英貨磅)

輸出	十年	九年
濠洲	101,051	87,888

輸入

次に本邦との貿易關係を見るに、本年の輸出七千四百七十九萬三千圓(本邦總輸出の三%)、輸入二億三千五百十二萬八千圓(本邦總輸入の九・五%)で、前年に比し夫々一千三十三萬一千圓(一五%)、三千七百三十七萬圓(一八%)の増加を見つゝも、入超依然一億六千萬圓臺に達し著しき片貿易狀態を呈して居る。

而してこの原因としては本邦毛織界の發展から消費羊毛の九〇%以上を當地に求め居ること、本邦品の輸出が英帝國プロツクの一員たる當國だけにかの困難あるがためなること勿論であらうが、亦他面本邦貿易商の取引方法拙劣の結果、輸入品の高値買、輸出品の安値賣が相當影響あるものゝ如く傳へられる。

本年の羊毛市價値上りが本邦對濠貿易入超増大の重因をなしたのであるが、然もこの値上りは本邦業者の無定見なる競り買ひに其の一因があつた様である。

對濠洲重要輸出入品は次表の通りである。

輸 入	十年		九年	
	單位	金額	單位	金額
寒 天	(擔)	六〇	(擔)	五三
罐詰食料品 (容器共)(ク)	(ク)	三三、五七	(ク)	三三、四五
植物性脂肪油	(ク)	六、七八	(ク)	六、四九
薄 荷	(ク)	三	(ク)	六
魚油及鯨油	(ク)	一三、七四	(ク)	一四、〇二
除 虫 菊	(ク)	一、〇三	(ク)	八四
樟 腦	(ク)	六、七四	(ク)	五九
綿 糸	(ク)	四、三九	(ク)	一〇、〇五
生 糸	(ク)	五、〇一	(ク)	五、五三
人 絹 糸	(ク)	一、六四	(ク)	三、五〇

綿織物 (生) (方碼)	三六,三二,一五八	六,八七三,六七四	三,四,五三,一四九	六,一四四,五七四
(晒) (ク)	二〇,九四三,三三三	二,〇七五,四〇四	八,七四七,七五三	一,六四五,八三三
(其他) (ク)	三〇,四八八,七五五	八,三三七,七三三	三,一八八,一八六	六,九三三,四三三
綿織物	—	六,六九〇,八〇〇	—	八,八四〇,三三〇
人絹織物	—	三,八八〇,〇九八	—	一六,九三六,九三〇
綿タオル	三六,三二七	五五,七四四	—	七〇,〇三九
絹製ハンカチ	二五,五六四	四四,八五五	—	二四,一七一
メリヤス製品	一五,三四〇	三六,四九八	—	二〇,〇三二
帽子	五,一三三	三六,五六一	—	三三,三三三
鈕釦	—	五三,二八九	—	三六,六五二
身邊裝飾用品	—	四三,八八二	—	三三,八〇六
紙類	(擔)	—	—	—
陶磁器	九,五五五	二〇四,七三三	—	六六,八五〇
硝子及同製品	—	二,八〇四,七九四	—	二,三三二,〇八三
鐵製品	—	一,〇四八,四三九	—	八三三,二二二
機械及同部分品	—	四四,四〇七	—	三三,八三六
製帽用眞田	(千束)	—	—	—
刷子	一,〇九〇	二四,〇九四	—	五〇,一七三
ラムプ及同部分品	—	三六,六五五	—	三九,九三六
靴	—	七八,五〇三	—	六三,七三三
其他共全國計	—	六五,一九二	—	五五,九四〇
内阪神兩港	—	二,〇一〇,一五一	—	一,七五五,九三三
内阪神兩港	—	七四,七九三,一五一	—	六四,四六一,八五五
内阪神兩港	—	五,一四九,三三七	—	四,三三六,三三三

第二節 重要品輸出入概況

a 輸出品概況

小麦 (擔)	五,五六一,〇八四	三〇,九五五,五三三	四,四五五,〇五五	三三,〇三三,七三三
牛肉 (生) (ク)	三三,八四四	五,一五〇,七一九	二,一三六	三六,五〇三
牛皮類	五,三三〇	二,二九四,九〇〇	一四,三三七	九〇七,四四五
牛脂	八九,九九三	二,二〇〇,九九五	一四三,四九九	二,五八八,四九九
羊毛	一,七三〇,三一一	一,八二〇,〇七〇	一,一六五,三〇〇	一,九三三,四〇八
鐵	五,九四四,五四五	五,三三六,八四五	一,三六〇,〇九六	一,一三三,四一七
其他ノ鐵	八二〇,八三三	二,八四四,四七五	八〇六,九六一	二,二四三,五三四
鉛 (塊及錠)	三,三三〇	四六〇,五六一	五三,三三四	五七九,六六六
亞鉛 (塊錠粒)	一六,六六一	二,七三九,一八六	一六,八七三	二,二五三,三三八
其他共全國計	—	三三,一八八,〇三一	—	一,九七,七五七,八四四
内阪神兩港	—	七,七四三,六〇〇	—	七,七二二,七三〇

飲食料品

清酒

全國輸出高	三,〇四七石	三,三六,四二四	三,八四八石	三,五八五,二〇四
十年	—	—	—	—
九年	—	—	—	—

内阪神兩港

六、五〇三 三、九三三、七五五

二七、七九 三、八七、四四五

阪神兩港本年の輸出を前年に比べると數量一千二百九十六石、價額二十五萬三千圓強の減少であつたが、これ關東州、米國向輸出が著減を見たることに因るもので、支那、滿洲國向は却つて多少の増加を見るに至つた。

本品は主として在外邦人の需要する處であつて、従つて仕向先も自然在外邦人の多き地を主とするもので、米國、支那、滿洲國等を其の主要仕向先とするものであるが、最近これら仕向先における醸造の開始並に高率關稅の關係から商品としての輸出は漸次困難に逢着せるものである。

これがため、滿洲においては資本輸出として本邦の醸造業が彼地に植付けられ、近時優秀品を生産するに至りたる結果、本邦よりの輸出を抑制すると共に彼地在來の粗悪品をよく壓倒、好評を受くるに至れる由である。尙又本品の消費筋が主として邦人一本に限定さるゝことも發展難の一因と思はる。

精糖

十一年

九一年

全國輸出高

二、六九九、三三三 一七、五七、七三〇

三、〇九、八六六 一三、五三、七〇〇

内阪神兩港

一、三五、七四〇 八、三〇〇、三三三

七五、八六〇 四、八八、七四〇

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量五十一萬四千擔、價額三百四十四萬八千圓強の著増であつた。蓋し本品最大の輸出市場たる支那向輸出が、支那側の排日貨の積極的取締り、關稅の引上見越し(事實は引上を見なかつたが)、銀高等の關係から極めて旺盛を見たこと並に北支自治政權成立による大連經由北支向仲繼貿易の増加から、この間増産に依る本邦側の積極的輸出政策の採用も亦輸出増加の一因をなした。

需給狀況 日本糖業聯合會加盟會社本年の生産高は六百六十四萬八千八百八十七擔で前年に比し七十四萬七千四百十五擔の増加であつたが、此の外にアウトサイダーの生産約二十萬擔を見たので、本年國內消費は輸出の二百六十六萬九千擔餘を此等から除いた約四百萬擔となり、大體前年並の數字であつた。

本邦精糖需給高(擔)

生産

輸出

國內消費

十一年

六、六四八、八七〇

二、六九九、三三三

三、九九九、六〇四

九一年

五、九〇、七三三

二、〇九、八六六

三、八八一、八五七

生産は日本糖業聯合會加盟會社のみにかゝる生産高なり。(日本砂糖協會調) 市價推移 年初は前年末の端境人氣を受け手堅かつたが、新糖増産、インフレ反動人氣で伸縮みを見せつゝ他面質的消費増の關係から市況は概して強調に終始した。

市中相場(大阪)

日本砂糖聯合會調

一月	三・四	二月	三・〇	三月	二・九	四月	二・九	五月	三・〇	六月	三・〇	七月	三・二
八月	三・七	九月	三・六	十月	三・六	十一月	三・三	十二月	三・二				

小麥粉

十一年

九一年

全國輸出高

四、八九、六二九 三、六九、六二九

四、四七、三三三 二、六、四三三

内阪神兩港

三、八四、〇〇八 二、八四、〇〇八

六三、四六六 三、八三、四六六

阪神兩港本年の輸出は全國の夫に反し、前年に比し數量二十四萬八千九百擔強、價額九十九萬一千圓餘の激減を見るに至つた。

これ主要輸出市場の一たる關東州向輸出が、同地を經由北支向の減少のため、不振を極めたがため、國民政府の

禁止的高關稅が累せるものと観るべきであらう。
 滿洲向輸出は同國の國產獎勵見地から發した外麥粉に對する高率關稅政策（九年十一月二十二日の第二次關稅改正に當り國內製粉業保護助長策として、外麥粉一擔一圓の輸入稅を課した）の採用を見たにも拘らず、本年の農作物不作に因る雜穀高から本品の需要擡頭のため、相當量の輸出増を見るに至つた。

これら重要市場を除く其他市場向輸出は大體に順調を見るに至り、殊にフィリッピン、蘭領印度、シヤム等への輸出は價格の比較的安價なものと、品質の向上から、高級製パン用としてアメリカ物、カナダ物を驅逐相當其の發展見るべきものがあつた。

この結果本年本邦の製粉需給は頗る好調を示し、生産高五千萬袋に垂んとし（四九百八十萬袋）、國內推定消費高三萬六千九百九袋と共に最高記録を呈するに至つた。

内地における需要増加は人口の増加に由る自然的原因外に米價高による需要の擡頭が考へらる。

原料小麥と製粉のバランス好轉す

本邦輸入小麥は主として輸出製粉用であるが、而も從來は輸出小麥粉代金に比し、輸入小麥代金が常に相當オーバーし、昭和元年においては實に約六千三百萬圓からの支拂勘定であつたが、年々の製粉輸出増と原料小麥の輸入減のため、バランスは好轉、本年の製粉輸出は遂に四九百萬圓強に達し、小麥輸入代金四千三百萬圓を遙かに超過するに至つた。

我國製粉界にはカルテルとして關東製粉共販組合があり、日清、日本、日東、木徳の諸會社が之に加盟、國內供給力の九割を占め、業界に君臨し來たつたが、政府の小麥増産計畫の成功によるアウトサイダーの擡頭から、其の存在の意義を失ひ、七月中旬遂に共販組合は解消自由競争時代に這入つた。

市價推移 内外の本品に對する需要擡頭から本年の製粉市況は大體に好況を呈し、加之米高、内外小麥高の支援もあり、相場強調を辿つた。

鶴印現物一袋相場

一月	三・七圓	二月	三・七圓	三月	三・五圓	四月	三・四圓
五月	三・四圓	六月	三・七圓	七月	三・六圓	八月	三・四圓
九月	三・三圓	十月	三・三圓	十一月	三・六圓	十二月	三・八圓

寒天

十年

九年

全國輸出高

三、五、三擔 四、六、一、九七圓

三、五、三擔 三、三、五、二八圓

内阪神兩港

三、〇〇九 三、八、八、六三

三、〇、三、三三 二、九、三、四四

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量三千六百擔餘、價額九十萬六千圓強の増加であつたが、これ本品主要仕向先たる歐米諸國を始め、其他市場への輸出が、前年不振の反動もあり、殊に本年は生産日數制限にも拘らず増産となり年初安値を見た關係から需要の擡頭にあふられ輸出旺盛だつたことに歸因す。

而してこの安値の結果は從來間接的に本品の輸入を見て居た南米、印度、シンガポール、北歐方面よりの直接照會を盛ならしめ、直取引開始の因をなすに至つたとのことである。

以上細寒天は本年破天荒の活況を呈し、自然相場亦著しく強調を唱へるに至つたが、この間にあつて南洋を輸出唯一の市場となす角寒天は蘭印の日貨に對する彈壓政策から兎角取引圓滑を缺き、特にジャバ糖暴落に因る土人購買力の減退と前年の行過ぎ關係から輸出不振を極め、これがため安値を誇る信州物に押された關西物は殆ど荷止りの苦境に陥つたと謂はれた。

即ち關西物は前年に比べると約半數にも満たぬ不成績であつた。

この結果關西角天は其のストツクの一掃策として從來細天を需要して居た内地製業者者に角天を代用せしむることとなり、ベストのあげく、細天の暴騰を防ぐと共に、過剩ストツクの一掃に相當効果を見たものゝ如くである。
市價推移 十年中大阪市價の推移を見るに、細天一等品の相場は百斤に付二月より四月迄は大體百五十圓乃至百五

十五圓、五月より十月迄は百六十圓乃至二百七、八十圓迄暴騰を續けたが、これ角天年初の安値から海外の需要が膨
併として到り、七月の原料手當時期には風水害のため原料天草の採取減による原料高に拘らず、製品ストックは殆ど
出盡しの状況にあつたがためである。

罐詰及罐詰食料品

全國輸出高	一、四六、三〇擔	五、三九、八五圓
内 阪神兩港	三九、二四一	八、五二、一四七
内 神戸罐詰食料品の輸出を含まず		
九 年	一、〇四、六七擔	五〇、〇〇四、三六圓
	二七、六三三	七、〇二、一六

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量八萬一千五百擔強、價額五十四萬九千圓餘の増加であつた。本年わが罐詰類
輸出がかく盛況を見るに至つたのは、本品輸出大市場の一つである米國の好景氣だつた事情に負ふこと多きものがあ
る。

爾來本品は高級食料品として其の重要仕向市場は自ら限定せられ居るものゝ如く、本邦輸出の過半を占めて居る英
米の兩市場を除いては、僅かに暹羅、英領ボルネオ、蘭領東印度、馬來、海峽殖民地、滿洲國等東南洋の一部を重要
市場とするに過ぎない。
而も其の内容から見ると本品輸出の實に七四%は鮭、鮭類油漬、蟹、鰯トマト漬となつて居り、其の内鰯トマト漬
の南洋向を除くと何れも他は殆ど英國或は米國向である關係上、英米への是等の賣行如何がたちまち本邦罐詰類輸出
の消長に影響することゝなるわけである。
處で本邦本年の對米輸出は前述の通り、同國の景氣回復が好結果をもたらし、前年にも増す發展を見せるに至つた
のであるが、其の内容は蟹、鮭、蜆水煮、筍、ピース、鳳梨類が増加せるがためであつた。
只米國と相並んで本邦品の大輸出市場であり、本品輸出盛衰のキ一を握る英國向本年の輸出は、前年に比べ遺憾な

から相當の減少を見ざるを得なかつたが、これ同國向主要輸出品たる鮭罐詰が前年の行き過ぎから、本年は其だけ減
じたことが重因をなした様であつた。

次に日本罐詰協會調査に係る本年度本邦罐詰類の生産並に輸出高を掲げると次の通りである。

昭和十年度本邦罐詰類生産統計 (單位噸)

品 別	數 量	金 額
牛 肉	八〇,〇〇〇	一,四四,〇〇〇
牛 肉 野 菜	二五,〇〇〇	二七,〇〇〇
豚 肉	五七,〇〇〇	七九,〇〇〇
煉 乳 (加糖)	五五,〇〇〇	八二七,〇〇〇
同 (五〇封度入)	二七,〇〇〇	二,九八,九四一
同 (無糖)	二二,〇〇〇	一,三三,三六〇
其他鳥獸肉	二,〇〇〇	四三,〇〇〇
鮭	二,三九一,五〇〇	四〇,〇三二,九三九
蟹 (タラバ)	四三,八八二	一,九〇七,四九〇
其他 蟹	四八,三八〇	一,三五四,六四〇
鮭 (油漬)	三六,五五五	四,七六九,八三三
同 (味付)	七五,〇〇〇	四,五〇〇,〇〇〇
同 (油漬)	一四,三三三	一,四三三,〇〇〇
同 (水煮)	四〇,〇〇〇	四,三三三,〇〇〇
同 (味付)	一〇,〇〇〇	一,三〇〇,〇〇〇
同 (味付)	四〇,〇〇〇	四九〇,〇〇〇
トマト・サーディン	八六九,四六六	五,六〇三,五六四

オイル・サーディン (味付)	一八、七二四	三九、四四四
鱈	一三〇、〇〇〇	五四、〇〇〇
鮫	四八、〇〇〇	四四、四〇〇
帆立	三六、〇〇〇	五三、〇〇〇
北寄	三三、〇〇〇	五五、〇〇〇
蛸 (水煮)	三〇、〇〇〇	二六、〇〇〇
蛸 (味付)	二七、七七一	三〇、〇〇〇
蛤	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
蛸 (味付)	一、二二八	八、五五八
牡蠣	一、二二八	八、五五八
蝶貝	一、五〇〇	一、五七五〇〇
赤貝	一、五〇〇	一、四四〇〇〇
海苔	一、五〇〇	一、五〇〇〇〇
魚介ベースト	一、三〇〇	九〇、〇〇〇
鮭製油漬	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
其他魚貝類	一〇、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇
鳳梨	一、一八、六六六	八、六七、二二二
桃	一〇、〇〇〇	四、〇〇〇
シヤム	一〇、〇〇〇	一、一四〇、〇〇〇
杏	一〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
栗	五、〇〇〇	七、〇〇〇
梨	八、〇〇〇	七、〇〇〇
かりん(まるめる)	三、〇〇〇	一八、〇〇〇

櫻桃	一三、〇〇〇	一〇、〇〇〇
蜜柑	四〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
枇杷	九、五〇〇	八、〇〇〇
其他果實	五五、〇〇〇	五、四七、二二〇
福神漬	九〇、〇〇〇	八、七〇、〇〇〇
アスパラガス	二五、〇〇〇	四三、〇〇〇
ピーナス	一五、〇一一	六、四、五五〇
同六斤(半打入)	一三、四六一	四、四、一一一
同五ガロン罐	八、一〇〇	一、四、〇〇〇
松茸	三六、七三三	五〇、五五九
なめこ	四、五〇〇	一、六、〇〇〇
お多福豆	六、五〇〇	六、〇〇〇
きんとん、煮豆類	四、五〇〇	五、一、七五〇
あづき	三三、〇〇〇	四〇、〇〇〇
筍	七、七、四四四	五、七、九三〇
同六斤(半打入)	一六、〇、七二四	七、七、四三七
同五ガロン罐	九、一、六四九	三、六、五五九
落	二四、〇〇〇	一、一〇、五〇〇
其他蔬菜類	五五、〇〇〇	四、五、七五〇
總計	八、六三、一六六	二、三、三、一、七二七

十年本邦罐詰類輸出統計(單位噸)

品種別	数量(兩)	(割合%)
牛	一、五五一	0.04
豚	二、三三五	0.06
鶏	四、七五七	0.11
煉乳	三〇、四四八	0.08
鮭	一、六六八・八三三	0.04
蟹(タラバ)	三、九六六・七六八	0.01
其他の蟹	四、三三三	0.01
鮭類油漬	三、九一七	0.01
鮭類水煮	六、三三三	0.01
鮭類味付	一〇、九九九	0.03
鮭トマト漬	六、九四五	0.02
鮭油漬	一七、三三三	0.04
魚類水煮	一、六七一	0.00
魚類味付	一、四七四	0.00
魚類水	八、七二二	0.02
帆立	二、四六六	0.00
北寄	二、八四七	0.00
蛤水	三、八四七	0.01
鮎水	三、三三三	0.00
鮎水	三、三三三	0.00
牡蠣水	二、六六六	0.00
牡蠣製油	一、三三三	0.00
牡蠣味付	一、三三三	0.00
貝類味付	一、三三三	0.00
貝類水煮	五、三三三	0.01
其他貝類	八、七二二	0.02
蝦水	一、七〇〇	0.00
魚貝煉製	九、九九九	0.02
魚貝製品	九、九九九	0.02
其他水産物	二、九九九	0.00
福神漬	七、三三七	0.01
其他漬物	二、六〇四	0.00
其他製物品	七、六六六	0.01
松茸製品	八、九八一	0.02
マシニールム	二、四六八	0.00
ビール	三、三三三	0.00
其他蔬菜	二、七六七	0.00
其他	四、六八一	0.01
鳳梨	一、四一五	0.00
蜜柑	三、三三三	0.00
シヤム	三、三三三	0.00
其他果實	一、四三三	0.00
雜	六、九三三	0.01
計	三、八三三・四九九	100.00

原料及原料用製品

除虫菊

蓋し内地増産から相場下落を來たしたがために外ならない。本邦除虫菊の約八割は米國に輸出せらるゝものなる處、本年は前述市價低落事情から、量的には増加しながら、價額では減少せざるを得なかつた。本品海外需要は年々増加傾向に在るところ、殊に本年は内地増産に伴ふ市價低落事情から、需要喚起をなす所尠くかなりし模様にて、前年に比し三割五分以上の増加を見るに至つた。市價推移 本品の主産地は北海道、岡山、廣島、愛媛の一道三縣下であるが、本年夏期の生産が前年に比し五割方の増産となつた結果、相場は未曾有の大崩落を示し、年末には年初の半額以下となつた。

十 年 一、三三三・五五五 六、四〇〇・五五五
 九 年 一、三三三・五五五 六、四〇〇・五五五

全國輸出高 一、三三三・五五五
 内 神 戸 港 一、三三三・五五五

神戸港本年の輸出は前年に比し、數量二萬一千七百擔強の増加ながら、價額では却つて百八萬五千五百圓強の著減であつた。

樟腦

蓋し最近のセルロイド工業發達と、もに世界の樟腦に對する需要増大から、合成樟腦の發達を極度に刺戟すること

十 年 一、三三三・五五五 二、三三三・五五五
 九 年 一、三三三・五五五 二、三三三・五五五

全國輸出高 一、三三三・五五五
 内 阪 神 兩 港 一、三三三・五五五

本品の内地における精製地は神戸なる關係上、内地よりの輸出は神戸港より主として輸出される。仕向先は英領印度、米國を二大輸出市場となし、本邦輸出の過半が此等兩市場に向けられて居る。本年阪神兩港の輸出は前年に比し數量三百六十四擔、價額四十三萬五千圓弱の増加であつたが、これ對印輸出増加を見たからで、對米輸出は米國セルロイド工業の不振と本邦品市價騰貴の關係から前年に比べ多少減ぜざるを得なかつた。尤もこの間競敵合成樟腦の躍進が本邦品の進出を幾分困難ならしめたことは考へられる。

いなり、漸次本邦臺灣産天然樟腦の強敵化しつゝあることゝて、本邦天然樟腦の生産費切下げは目下緊急問題となりつゝある現状である。

十一年八月二十日付日刊工業新聞に依ると、臺灣總督府當局においても、最早天然樟腦にのみ依存し得らるゝ時代にあらざるを悟り、いよ／＼膠松から人造樟腦を製造することに決した由である。

硬化油

十年

全國輸出高

五八、〇五擔 八、五〇八五圓

四〇一、六〇六擔 五、〇四二、三五四圓

内 阪神兩港

三九、七五五 六、二九八六圓

二八〇、四九五 三、八〇七、八〇一

九年

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量十一萬四千擔強、價額二百三十二萬二千圓の激増を見たが、これ仕向先における食料化學の進歩と世界的油脂不足から本邦への買注文殺到し、獨逸、支那、和蘭、埃及、英印、メキシコへの輸出著増したためであつた。

本邦硬化油工業界は近年益々發展を遂げ、年産十萬噸を突破するの勢ひであるが、この内約半ばは輸出に向けられて居る。

硬化油業は其の用途が専ら石鹼、食料品工業にある關係から、一國文化の向上と共に其の需要は益々増加の傾になるものであるが、一面又一般化學工業の發達に伴ひこれが新規の利用部面も擴大多岐化しつゝある現状である。

このため硬化油製造會社の經營方針も亦従來の硬化油一本主義から漸次多邊多角的經營に移り、醫藥、人造バター石鹼、ステ蠟の製造から、最近では化粧用クリーム等の製造迄乗り出すに至つて居るが、この硬化油工業の發展ととも原料魚油の供給難が問題となり、原料の新規獲得が緊切の問題となりつゝある。

即ち朝鮮、北海道の鰯油だけでは原料不足となり、滿洲の大豆油や南極附近の鯨油に着目するに至つて居るが、現在の所採算點に達せざる憾がある様で、斯業發展途上の痛はなんと云つても原料油の獲得にある様である。

因に本年の市價は一般油脂類の値上りと原料魚油の不足から大體に於いて強調を示した。原料魚油の市價推移は次の通りであつた。

北海産二罐入一箱建鰯油大阪沖着値段(平均)	
一月	五・〇圓
二月	六・〇圓
三月	六・五圓
四月	なし
五月	五・六〇
六月	五・六〇
七月	五・五
八月	六・五〇
九月	六・五〇
十月	六・五
十一月	六・九〇
十二月	七・〇〇

植物油

十年

全國輸出高

一、二六九、〇六擔 三、六六六、六九圓

五〇〇、七七擔 二、〇三三、五八圓

内 阪神兩港

八五、七九 三、六九、九七

三九、三五 七、〇五四、四一〇

九年

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量五十三萬二千五百擔強、價額約一千四百五十六萬六千圓の著増を見たが、これ茶種油其他食用油の對米輸出増加並に乾燥性油の内地増産に因る輸出伸張からであつた。

米國は最近二ケ年に亘る大旱害から牧草の不足となり家畜頭數の激減はやがて豚脂牛脂の生産減となつたが、たま／＼棉花栽培調節はこの旱害と相俟ち棉實油の生産減を甚しくし、このため、米國食用油乃至石鹼用油の需要擡頭しかくは本邦よりの輸出を増大せしめたのである。

尙、荏油の輸出増加は滿洲産蘇子の生産増加から内地生産著増となり、自然輸出積極策がとられたがためである。

阪神品種別輸出表

品名	十年	九年
亞麻子油	二、三九擔	五、七三擔
荏胡麻子油	二、八二、〇〇	八九、八五
	七、九九、九一	三、五八、八六
		七五



椰子油	一七,五九六	三〇四,五九六	六七〇	一〇,九九九
大豆油	八二六	一九,八三三	一八,五二	二七,三五五
菜子油	三〇三,九九〇	七〇五,八六五	一七〇,二五五	三,四六八八一
棉子油	一九二,四〇九	四,七三三,七二七	六,四七	一〇〇,六五一
其他	四,九九七	一,一七二,〇八五	三,四九五	七,八七〇,六三〇
計	八五二,七六九	三,六九九,九九七	三〇九,二二五	七,〇五四,五〇〇

生産 十年中油類品種別生産高は次の通りであつた。(吉原製油調)

菜種油	六,八五七	三三,二四九千圓
大豆油	四,九七	一五,五〇
荏油	三,三,五〇	一〇,七五
棉實油	三,六三	五,三三
椰子油	一八,五〇	四,四九八
ヒマシ油	七,八四九	三,九一九
胡麻油	七,一〇一	三,七三
亞麻仁油	七,六七四	三,五〇三
カボック油	三,一八〇	一,三三〇
麻實油	三,〇〇四	一,二五五
落花生油	一,二五三	五八五
其他共合計	一八,六九七	七三,六七七

市價推移 十年中大阪市場における代表品たる菜種油月別市價は次の通りである。(單位百斤建)

一月	三〇,〇〇圓
二月	三〇,〇〇圓
三月	三〇,〇〇圓
四月	三〇,〇〇圓

五月	二〇,一五	六月	一九,〇〇	七月	一八,一〇	八月	一八,四五
九月	一九,九〇	十月	二五,〇〇	十一月	二五,〇〇	十二月	二六,三五

生糸

十年	五五,二五七	三六,七〇三,二七四圓
九年	一四,七五三	八二,一五,九九四

全國輸出高 五五,二五七 三六,七〇三,二七四圓
 内 神戸港 一四,七五三 八二,一五,九九四
 神戸港本年の輸出は前年に比し數量一千三百擔強の減少ながら、價額は却つて二千百十萬八千圓餘の増加であつた。本邦の供給減と米國の好景氣が糸價の昂騰を齎したからである。米國の財界好調は本品糸價を昂騰に導いたのみならず實質的に本邦よりの對米輸出を相當増進せしめた。(この點神戸港の夫とは逆であつた)。

即ち本邦本年の輸出は前年に比し一億餘圓の著増となり、異常なる發展を見せたのであるが、この原因は單なる糸價の昂騰外に本邦輸出の八四%を占むる對米向輸出が量的にも相當著しき増加を見たこと並に其他英國、英領印度、瑞西へも増加したことに在る。

生糸市價の昂騰から人絹の跳梁跋扈が想像せらるゝ米國への本年の輸出が數量的に對前年比較で相當の増加を來たしたのはシルクギルドの絹物需要促進運動の効果、消費大衆の絹物に對する認識が高められたこと及絹織物増産年度に遭遇したためからで、英國向の増加は同國の財界好轉と消費宣傳による需要熱擡頭からであつたと見らる。

反之對伊、加奈陀向本年の輸出は其の絶對量は僅少なから、前年に比し可成り著減を見るに至つたが、これ伊國は世界絹業國の一つとして、自國蠶糸業に對し種々の助成金を與へ其の振興を圖れること、加奈陀の極端なる高關稅政策をとれるためである。

因に本品は米國を除く其他諸國への販路開拓に努力せる跡著しきも、依然輸出の絶對多數が米國に向けられ居る關

係から、本邦蠶糸界の不安は尙嚴として残されて居る。
 需給事情に就て日本中央蠶糸會の推定に依ると本年中の生産六十五萬俵、本邦消費十五萬俵、殘餘が海外消費となり、内四十七萬六千俵弱が米國に向けられた。
市價推移 那是製糸會社調査に係る左記横濱市場における現物生糸相場に依ると本年は前年に比し平均で三三%方の昂騰であつた。

横濱市場に於ける現物生糸相場 (白十四) 百斤建、單位圓

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
十年	六四	六七	五九	六七	六四	五九	六三	六三	八三	九三	九二	八四	七六
九年	六三	六四	五七	五六	五三	四九	四四	四六	四五	五〇	五〇	五九	五七

米國生糸需給 米國絹業協會調に依る米國本年の需給状況を見ると本年の輸入四十八萬六千五百五十擔、同消費高四十九萬七千四百四十三擔で、前年に比べ夫々五萬五千二百九十四擔、三萬五千四百三十七擔の増加であつた。
 尙米國輸入生糸の大部分を占むる本邦糸本年の對前年増加率は九%強にして米國本年の増加率たる一二%強に及ばないが、こは支那、伊太利糸の如き外國糸の米國輸入が旺盛だつたことを語るもので、この原因は夫々當該國政府が自國蠶糸保護の見地から輸出奨励に補助金下附等の積極策採用をなせるがためと云はれて居る。

米國の生糸需給 (單位擔)

年	年初在荷	輸入	消費
九年	六、六六	四三、八四	四六、七六
十年	六、三三	四六、一五〇	四九、七二

人造絹糸

年	全國輸出高	内阪神兩港	十年	九年
	三三〇、三三擔	三、八五、五四圓	一七、六五擔	三、三九、五五圓
	三三、七四	三、九五、三三	一六、七一	三、三三、一〇〇

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量四萬六千擔強の増加ながら、價額は糸價安から却つて九十六萬七千圓強の減少を來たした。
 輸出數量の増加は本邦本年人絹工業の異常なる膨脹の一反映であり、價格の低落亦こゝに基因したと見るべきである。

即ち本年の輸出増大は其の主因を本邦増産に因る輸出の積極化に求め得るものであるが、他面本邦斯業最近の發達に依る價格安と品質の向上による海外の需要喚起も考へられる。
 本年本品の主仕向地別輸出情況を見ると第一市場たる英印をはじめ、支那、メキシコ、濠洲、其他向輸出量は何れも前年に比し尠なからぬ増加を示し、關東州向が僅かに減少したに過ぎない有様であつたが、これ全く前述の理由からであつた。尙支那向が著増したのは、銀價昂騰による購買力の増加も與つて力あつた様である。

この結果本邦人絹糸の主要消費國たる英領印度、支那の兩市場は從來永く市場の獨占者たる觀あつた伊太利、英、獨の諸國品の完全に驅逐を見るに至り、其の消費の大部分は本邦品にて占められることゝなつた由傳へられて居る。
需給事情 人絹聯合會加盟會社並にアウトサイダーを含めての十年中の生産は約二億二千四百萬封度で、この中三千餘萬封度が原糸の儘輸出、織物としての輸出七千萬封度、殘餘の約一千四百萬封度が滯貨として残り、差引一億一千餘萬封度が國內消費に充てられた由である。

而してこの内外需要高の顛倒(財界觀測十一、二、一に依る。從來は輸出五五―五八%見當に對し内需四二―四五%であつた)こそ本邦斯業の將來否現在の暗影となり居るもので、過剩生産の叫ばる所である。
市價推移 帝人百二十デニール百封度大阪市場に於ける月別市價は次の通りである。

最	最	最	最	最	最	最	最
低	高	低	高	低	高	低	高
一月	九〇・〇〇	二月	八二・五〇	三月	七四・〇〇	四月	六三・〇〇
五月	六三・〇〇	六月	六四・五〇	七月	八〇・〇〇	八月	七〇・〇〇
九月	六六・〇〇	十月	六三・五〇	十一月	五七・二五	十二月	六〇・〇〇
最	五八・五〇	最	六〇・〇〇	最	六三・五〇	最	七二・五〇
最	五四・〇〇	最	五五・〇〇	最	六〇・五〇	最	六七・五〇
最	五八・五〇	最	六〇・〇〇	最	六三・五〇	最	七二・五〇

(日本レイヨン株式会社調)

綿糸

全國輸出高	内阪神兩港
二九、七五九擔	三、八七五擔
二五、六九〇	三、〇七二擔
一九、五五擔	三、四八四、五五擔
一五、四四	三、四四七、七七

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量七萬七千擔強、價額九百六十五萬三千圓強の著増であつたが、これ主として英領印度、蘭領東印度への輸出増加に因るものである。最近の傾向として、本品の輸出は海外市場における綿布の輸入防遏政策に伴ひ、原料品としての立場から、比較的フリーな地位におかれ、印度、支那、埃及等の紡績發達から逐年増加を見つゝあるものである。本年本邦全體の對印輸出は十三萬四千六百擔で、前年に比し八四%の激増、蘭印への輸出は三萬九千五百擔で、前年の三倍に急増する活況であつたが、これ何れも同地における織布業發展からの原糸需要増加に因るものであつた。この外香港、シヤム、比律賓、埃及に對する輸出量は前年に對し二倍乃至十倍に激増、關東州、支那への輸出亦前年より稍増加を見たのであつた。

生産 紡績聯合會實行にかゝる本年中の操短歩合は前年の夫と全く對蹠傾向をなし、月を重ねることに擴大された

結果、綿糸生産高は上半期に多く、下半期に減少すると云ふ有様で、本年中出來高合計三百五十六萬八百三十二担半一ヶ月平均二十九萬六千七百三十六担を示し、前年の二十八萬九千三百七十担に比し多少の増加を示したとは云へ増率に比し、生産は低かつた。

綿糸の實需以上に設備の増大を見たがためである。

市價推移

大日本紡績聯合會調、十年中大阪三品取引所
左撚二十番手當月限平均相場(圓)

十年	一月	二月	三月	四月
一月	三三・八四	三二・四二圓	三二・七七〇圓	一六・九三
五月	三二・七五	三〇・九四	三〇・四四	一九・八五
九月	一九・六七	三〇・〇四	三二・五三	二〇・五三

毛糸

全國輸出高	内阪神兩港
三、八六擔	九、六八、二〇圓
三、八〇	八、六四、〇七
四、三七擔	三、二四、六二圓
六、五七	一〇、四四、〇四七

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量二千七百擔強、價額約百七十七萬圓の減少を示したが、これ海外諸國の輸入防遏策に阻まれた結果である。本邦の羊毛工業は金輸出再禁止來、低爲替、低賃銀、更に生産技術の向上發展から大飛躍を遂げ、羊毛製品の輸入を殆ど防遏して自給の域から更に進んで輸出に轉換せるものである。只本年は原毛關係から、原料高の製品安のため、相當上半期は困難なる業態であつた由である。本品の主なる輸出先は英領印度を第一とし、支那、滿州國、アルゼンチン其他であり、これら市場において邦品は漸次外國品を壓しつゝある模様である。

輸入	四〇三・二	三三三・九	三一九・五
日鐵より他へ供給の未製品	一六九・五	一六一・一	一九四・八
全供給高	三、九三三・三	三、七八三・二	四、一八三・〇
輸出	二六七・六	四〇〇・四	四五〇・八
差引全需要高	三、九五三・三	三、三六・八	三、七三三・二

以上の如く供給過剰の問題に迄進んだ本邦業界はために永年の懸案である自給自足の機に達すと共に、多年の輸入をよく防遏し、反對に最近は輸出の躍進から出超に轉ずるに至つて居る。

眞 鍮

全國輸出高	二二七、四一擔	八、五〇二、九九圓	二〇六、三三四擔	七、八六六、五七圓
内阪神兩港	一八四、〇〇天	七、一七一、九四〇	一六九、七二四	六、三〇〇、八八
品種別輸出額				
條及竿	二四、四四擔	七三三、三四圓	二三、〇三五擔	六六六、五九圓
筒及管	三三、二三	六六六、七五	一九、八六九	六〇〇、九三
板	五、五六	二七〇、五六	—	—
全國	三六九〇	一九、六三	—	—
全國輸出高	一六四、一九	六、〇三〇、八九	一五四、五九	五、九八八、七六

十年

九年

阪神	一四四、三三	五、八〇四、九三〇	一三三、七一九	五、〇三三、七三
全國	三三、二六四	八六一、二七九	三三、七〇八	八八四、〇八
阪神	二二、五九三	四七九、三六七	一三、六七一	五〇三、九六
其他	一、四七〇	四、四七九	六、六〇三	三五五、九三
全國	三六九	一九、三三五	三、四四五	二〇五、二七〇

阪神兩港本年の輸出は前年に比し、數量一萬四千擔強、價額七十九萬一千圓餘の増加を示したが、これは主仕向先である英領印度向輸出増増せるがためである。

本品の主仕向先は英領印度を筆頭として支那、香港、滿洲國の諸國であるが、この内香港向輸出の微減を除いては本年の輸出何れも前年より増加、殊に英印への増加は特に著しかつたが、これ爲替關係からと思はれる。

本品中輸出最も多きは板で、主として英印に向けられ、日用什器、儀式用具の製造に供せられるのであるが、この板の輸出は實に總輸出の八〇%に及んで居る。

因に昭和七年以來滿洲國の建設工作の進展と低爲替の潮流に乘じ、銅、眞鍮など半成品の輸出は逐年著増を見るに至つて居るが、國內資源の貧弱な本邦として、國內消費漸く増大を見んとする今日、この傾向は相當一部で憂慮される由である。

因に本年眞鍮及青銅の本邦輸入は約二百五十萬圓に上つた。

銅

全國輸出高	二六、五八擔	二、三三七、五二六圓	二二〇、三六〇擔	八、四七〇、四九圓
-------	--------	------------	----------	-----------

十年

九年

内阪神兩港
品種別内譯

塊及錠	九萬、八九八	四〇六、八〇七	六、五〇一	二、五四四、八八
全 國	一、五三三擔	三九、八九九圓	一八、七五擔	五三、〇〇五
阪 神	五、一五九	一七、七〇八	六、〇〇〇	二〇九、五五五
全 國	三、四七六	一、一〇八、一三三	二、六、八九三	一、一四五、九七九
阪 神	三、〇〇六	九四四、二〇三	三、四五一	九四、九三
全 國	三、四、三三	八、八七、〇四四	一、〇、六四	四、六〇九、一三三
阪 神	三、〇、四三	三、五〇、八八八	三、五六一	一、〇三、八〇五
全 國	興、〇三	一、八七、四四一	五、六三二	二、〇八、八九三
阪 神	八、三三	四九、三三六	八、二四九	三九七、五五
其 他				

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量三萬三千擔強、價額約百五十四萬圓の増加であつたが、これ全く銅線の輸出が關東州、支那、英領印度に著増したがため、其他加工半製品の輸出は一部の増加を除くと、何れも前年より萎縮を見た。

この輸出減退の主因は本品全輸出の過半を占める支那市場向輸出が財界の混亂と共に伴ふ日支爲替の動搖から下半期著しく不振を呈したのと支那に次ぐ主要市場たる英領印度向輸出亦相當の衰微を來たしたがためと看られて居る。内地需給 本年の輸出は前述の通り銅線の活況を除いては概して不振であり、加之農村不振其他關係から建築界方面の需要不振に拘らず、世界的軍擴時代再來による軍需的需要の増大から本品の需要著増を來たした。本年の需要高十三萬四千噸に達し、前年より更に一八%の増加を見るに至つたがこの過半は米國よりの輸入に俟つ

た。

即ち本品本年の輸出入關係を見ると輸出は製品を合して一千二百五十一萬圓強に對し、輸入は三千七百九十六圓となり、差引二千五百四十五萬圓が内地産銅不足を補つたこととなつて居る。

製帽用眞田

十 年

九 年

全國輸出高	一五、〇〇千束	四、六四、七〇圓	二五、三九千束	八、二五、一〇圓
内阪神兩港	八、九五	二、七九、二三	二、六三	四、三七八三

品種別輸出額	十 年	九 年		
麥 稈 製	三、三五千束	一、三三、九九圓	四、八七千束	一、五九、〇七八圓
全 國	三、三五	一、一〇、九表	四、八七〇	一、五九、一三三
阪 神	四、〇七	六、七、五七〇	五、四六	九〇、八〇六
全 國	四、〇七	六、七、五七〇	五、四六	九〇、八〇六
阪 神	四、〇七	六、七、五七〇	五、四六	九〇、八〇六
全 國	八、二五一	二、四八、三四八	一、七七、九七	六、三九五、八五四
阪 神	五、〇九八	一、四七、〇七八	七、一八三	二、五〇五、二六
全 國	三、〇一七	八、四、〇三三	一、三三	四、三、三三
阪 神	九	三、七、〇三三	九	三、七、〇三三
其 他				

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量三百七十七萬七千束、價額百四十五萬八千圓餘の激減であつたが、之本品の

約八〇%を占める麻製真田の對米輸出の著減をはじめ其他經木製、麥稈製其他の輸出が本邦品防遏運動の結果夫々減少を見るに至つたがためである。

品種別に観ると輸出額最も多きは麻製真田で、婦人用帽子材料として米國へ輸出の約七〇%其他英、佛、獨、濠洲三〇%足らずを輸出され居るものであるが、本年これが對米輸出は前表の如く著減を見しのみならず其他主要仕向先も獨乙を除き何れも一様前年より減少すると云ふ不振さであつた。

麥稈製真田の輸出は麻製に次ぎ輸出多きものであるが、最近本品の輸出は逐年減少を辿つて居る。主仕向先は佛國米國、玳馬等であるが、本品輸出の將來は期待出来ない。

經木製の主輸出先は獨乙唯一であつて、本品輸出の約八六%を占めて居るが、本品は麥稈製よりも却つて需要の増加が考へられ、將來性ありとされて居る。其他製真田の主仕向先亦米、英、佛、濠洲の各國であるが、金額から云つて今の處大したものではない。

要之本邦輸出真田の生命は麻製にあり、其の死活は米國の需要狀況如何に在るもので、其だけ麻製真田の主要用途である婦人帽子の流行に就ての研究を怠らず國內業者の結束と品質の向上に努力することにより業者の利益は確保し行き得るものと考へらる。

全製品

絹織物

全國輸出高	七、四四、三六圓	七、四八七、八八圓
内阪神兩港	四、六七、三六圓	四、九四、〇〇圓
阪神兩港本年の輸出は前年に比し三百二十七萬一千圓強の減少であつた。		

蓋し原料高に依る市價値上りと東南洋及中南米諸國或は英帝プロツクにおける輸入防遏乃至求價的貿易工作のため其の進展を阻止されたがためである。

又他面近代の寵兒たる人絹の發達は常に本品發展の障害となれるもので、本品最大の輸出地たる英領印度向本年の輸出も亦實に彼地關稅が稍高められた理由から我が人絹製品に壓倒さるゝ所となり、前年に比し一〇%餘の萎縮を見るに至つた。

只滿洲國、關東州、香港並歐米への輸出は經濟界の好轉事情と本邦輸出、製造兩當業者の努力の結果僅少ながら前年より増加することが出来た。

生産 商工省調に依る昭和十年中の絹織物生産高概算は三億四千九百二十五萬三千圓餘にして前年に比し八百十五萬二千圓餘の増加であつた。

本邦絹織物生産高

廣 幅 物	一五、二七、一五米	一四、八七、〇八圓	二〇、八四、五五米	二〇、六六、八九圓
小 幅 物	五、六〇、三四反	三、四、六八、二三	五、五八、五八反	三、〇、九四七、〇八
特 殊 物	—	七、六三、七三	—	七、三九、八三
十 年	—	一三、一四、一七	—	一三、六七、三三

市價推移

輸出羽二重(福井産六匁三六吋二碼)月央相場次の通りである。(圓建)(那是製糸調)	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
	・三三	・三三	・三三	・三五	・三〇	・三五	・三五	・三〇	・三〇	・四〇	・四〇	・四〇

外國市場における各種の排邦品策の激烈化せるため、強敵ランカシヤの策動が最もあつて力あるものである。而して本年の輸出が實質的には尙對前年比較で、多少の増加を來たしながら、價額の之に伴はなかつたのは高級品の減少と安賣が強ひられた結果と観るべきであらう。

即ち本年輸出數量品種別割合は本邦全體として、生地三四・七%、晒一八・八%、加工四六・五%となり、對前年比較で増加したのは生地綿布の二一・六%、晒の二一・六%増に過ぎず、輸出の主力をなす、加工に至つては逆に二・〇%の減退となつて居る。

これは本邦綿布の輸出伸展力の停止を語るに止らず、更に進んで高級品の輸出戦線異常あるを意味するものだけに本品輸出の將來が頗るグルーミーなることを表示するものである。

この由つて來たる所以は外國市場における高率關稅、輸入制限に求め得るとは云へ、其の根源はランカシヤ綿業策動に依る英帝プロツク内外における邦品排撃からであらう。

この結果は新市場で比較的發展を見たる本年の輸出も、其の生命とする英領印度、蘭領東印度、關東州、支那、滿洲國、埃及等舊市場への輸出は英領印度を除いては何れも不振を見るの已むなきに至つたのである。

綿工聯調査によると邦品差別待遇國に對する十年の輸出は殆ど増加がなく、増加したのは無差別待遇の地域のみで海外市場の通商障礙工作影響の甚大なるを報じて居るが、而も本邦十年輸出市場の七〇%はこの差別待遇國に屬して居たのは心すべきことであらう。

毛織物

十年

全國輸出高

三、四〇、八三圓

内阪神兩港

二七、八五、七五

九年

三、九八、七〇圓

三、五八、三〇

阪神兩港本年の輸出は前年に比し六百二十八萬七千圓強の増加を見たが、これ中南米及アフリカ等の新市場開拓並

に滿洲、支那への輸出順調に負ふもので、英領印度、蘭領印度、埃及等の舊市場向輸出はこれら地方の執拗なる本邦品排撃から軒並減少を見るに至つた。

因に本年の輸出品種別内容を見ると、モスリンの減少を除くと他品は一齊に増加、厚地羅紗の如き本格的な増加であつた。

本邦毛織工業の發達は遂に其の内需を充すに止らず、進んで輸出に迄發展しつゝある現状とて、原糸、織物の輸入は逐年減少を來たすを常とし來たつた處本年はこれが輸入合計八百六十八萬四千圓で前年に比べ百七十八萬一千圓を増加するといふ奇觀を示した。

この原因に就き日本羊毛工業會の説明を借りると毛糸に在つては高級毛メリヤス用の需要が多かつたこと、又毛織物は嗜好の變化から變り厚地羅紗の手當が多かつたためであるものゝ如く、何れにしても一部特種消費層の慾望充足用としての輸入増加としか考へられない。

メリヤス製品

十年

全國輸出高

一、九、六三、五四打

内阪神兩港

一、八、六四、五六

九年

一、八、〇七、三六打

一、七、四四、五九

こゝにメリヤス製品とは綿メリヤスシャツ、メリヤス靴下、メリヤス手袋、メリヤス申又類の總稱であるが、本年阪神兩港これが輸出は、前年に比し數量百十九萬打強、價額九十六萬七千圓の増加を見せ、前年に引續き好調を示したが、これ對米國、比律賓向輸出激増を見たがためであつた。

即ち對比律賓向輸出増加は農産物價高による一般大衆の購買力増加と日本比律賓メリヤス輸出組合による輸出統制宜しきを得たためであり、又米國向増加の因は本邦毛編手袋の紹介が意外の好評で、これに對する需要擡頭した事と獨乙のユダヤ人壓迫が反つて歐洲品主として獨乙品のポイコットとなり、日本品の進出をスムーズならしめたがため

に在つたものゝ様である。

尙英領印度並埃及向輸出は相當の著減を見たが、これ前者は前年輸入のストックが相當あつたのと最近の斯業生産増加が原因したものゝ如く、後者七月の條約廢止、九月の四割爲替補償稅課稅等が主因であつた様である。

市價推移 メリヤス製品は見本取引が主であるため、其の相場推移を知ることが甚だ困難で、通り物では其の使用材料の市價昇降に従ひ、高低を示すとは云へ、目方如何により異なるから數字的に表示することは困難であるが、通り物大體の相場により其の大勢を見ることとする。

本年の大阪における英國向三百番肌衣の相場を示すと次の通りであつた。(圓建)

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三・九	三・六	三・三	三・三	四・九	三・八	四・三	三・四	三・四	三・七	三・九	三・七

(大阪輸出英大小工業組合調)

綿ブランケット

十年

九年

全國輸出高

一〇四、〇四擔

七、四三、八四圓

内 阪神兩港

八、三六

六、二八、五六

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量一萬九千二百八十九擔、價額約百六十九萬圓の激増を見たが、これ本品の主要仕向先たる英領印度、暹羅、香港、滿洲國、其他へ輸出状況を呈したがためであつた。

而してこの原因は主として本邦圓安に因る彼地輸入商の思惑買に在つたものゝ如くで、本品主要消費國たる印度、シヤムも本秋來の殆ど不順に近き暖氣のため、本品の賣行頗る悪く、輸入商の手持在庫品は夥しき量に上つたと云はれて居る。

尙海外主要消費國における本品輸入概況を見るに南洋方面は蘭印の輸入制限見越から四、五月(五月十八日實施)思

惑買多大を極め、シヤムは六月より九月頃迄注文殺到せるも爾後賣行不良から漸減となつた。印度方面は三月頃より引合ありたるも、西部機業地の發達から其の發展力は殆ど停止に近づけるものゝ如くである。

中南米方面亦求償貿易實施で發展停止のかたちである。

因に本品は綿糸紡績及水車紡績の二方法により生産せられ、前者は其の品質、染色、起毛技術に於いて優越し、所謂高級品として海外市場で好評を博し居るもの、大阪を其の主産地とし、輸出は殆どは本品の占むる所である。尙家内工業的生産品である後者も其の安價さが買はれ、印度、支那での需要侮り難きものある由である。

ラグラツグ

十年

九年

全國輸出高

九一七、四〇方碼

四、四二、五三圓

内 阪神兩港

九一七、一三

四、四二、〇四九

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量三百八萬六千六百方碼強、價額百九十九萬七千四百圓の増加であつたが、これ本品の唯一最大仕向市場である米國向本年の輸出が、同地本年の財界好轉並にNRA瓦解によるラグラツグの特別稅免除から著増したものである。

因に本品の輸出は其の殆どが米國向であつて、一昨年頃迄對米輸出は爲替安もあり、著増し來たつたのであるが、同國産業復興法の實施來、同法第三條五項の輸入制限條項により一碼五仙乃至二十三仙、平均十五仙の特別稅課稅のため、進出殆ど困難の状態にあつたのであるが、米國大審院のN.R.A.無効判決により六月十九日よりこの特別稅もいよゝ廢止せらるゝことゝなつたので、本邦品は平均十五仙方安價となり、こゝに米國品との競争可能となり、かくは増加を見るに至つたものである。米國を除いては濠洲、カナダ向で十數萬圓輸出される程度で其他市場は極めて少量の輸出を見居るに過ぎない。

綿 タオル

十年

九年

全國輸出高 三、四一、六七打 六、四七、〇七圓
内 阪神兩港 三、二四、八四四 六、三〇、八七三

三、五〇、三三打 七、三三、五五圓
三、四八、二七〇 七、〇三、六五二

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量十四萬三千四百二十六打、價額七十一萬二千圓強の減少を見たが、これ主要仕向地たる英領印度、蘭領印度、濠洲、埃及、海峽殖民地への輸出が關稅の引上、輸入割當等の貿易障壁工作並に本年の市價高に原因して伸び悩みたることに基因するものと觀られて居る。

尙前述五大市場を除いて何れも増加、殊に關東州、シヤム、香港、南阿聯邦への輸出は相當の増加を來たした。需給 日本タオル工業組合聯合會調に依ると十年中生産高は一千九百二十一萬三千六百五十九打、四十億四千八百九十五萬二千六百五十二匁であつた。

因に本邦の需要高は一千七百萬圓である。海外主要消費國における本邦品需要の分野を見ると蘭印、ビルマ、暹羅、滿洲國、海峽殖民地の諸國は消費の過半を本邦品に、又濠洲、埃及、英領印度、新西蘭、セイロン、近東諸國、南阿聯邦は消費の半ば近くを本邦品で占むるに至つて居る有様で、中南米諸國、米國、アフリカ諸國に對する本邦品消費の分野も漸次増加しつゝあるといはる。

市價推移 十年中大阪月別市價
後晒タオル浴巾(標準) 每百匁當り。

一月	二月	三月	四月	五月	六月
空錢	空錢	空錢	空錢	空錢	空錢
七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
空	空	空	空	空	空

帽 子

十年

九年

全國輸出高 三、二九、〇八打 一、六二、六四圓
内 阪神兩港 三、〇〇、一三三 一、五、六二九

三、七五、〇二打 一、七、六三圓
三、五九、四八四 一、七、一八九

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量十三萬打強の増加ながら、價額は却つて約百五十八萬圓の激減であつた。蓋し數量の増加したのはフェルト帽並「其他帽子」の輸出が爲替安其他の關係から輸出旺盛を見たがため、にも拘らず總額で對前年相當額の減少を見たのは主として本邦本品輸出の王者である模造パナマ帽の輸出著減からであつた。模造パナマ帽は本品本邦輸出の王座を占め、其の輸出額斷然他を壓して第一位を占め、主として米國に向けられ居るが、最近の輸出は仕向地における國產保護熱旺盛から逐年減少を見つゝある。

東京を主産地とし大阪、静岡、兵庫で製造せられるが、輸出品は殆ど阪神經由である。フェルト帽 模造パナマ帽に次ぐ重要輸出帽子として、フェルト帽最近の海外輸出は其の技術の向上と價格安から實に目覺しきものがあり、東南洋其他市場に邦品の聲價を高めつゝあるが、本年は伊エ紛争による伊太利の供給減も加はり、輸出意外の好調を呈した。

主産地は大阪、兵庫、静岡、東京である。尙本品の主仕向先たる滿洲國、英印、アメリカ、南洋における斯業の發展から原料材たる帽體の輸出亦伊太利の供給減のため、著増を見せた。

麥稈帽子 東京、大阪を主産地とする本品の需要は近時模造、眞正兩パナマの壓迫から内外共に不振、殊に輸出に至りては逐年減少の傾向に在る。

布帛製帽 亦對前年比較で多少の減を見たが、これ海外諸國の壓迫からと見らる。
其他帽子 本年の輸出は前年に比し相當の増加を來たしたが、これセロファン製、毛糸製、經木製其他雜帽の増

加に因るもので、主として歐米向である。

品種別輸出高

品種	九 年		十 年	
	輸出高	前年比	輸出高	前年比
布 帛 製	七〇、九三打	一、八八千圓	七四、四七打	一、四〇九千圓
フルト製	三三、四四五	一、六〇〇	六五、六六	一、二五三
麥 稈 製	六四、〇七六	四、一四四	一、〇〇三、八六六	五、四四九
模造バナマ製	六三、三三〇	三、九六九	九七九、六五五	五、二六〇
其 他	三三、三七七	三六	六、四四〇	一八三
全 國	一、四三三、三三六	九、二〇八	九、六七九	一、五八
阪 神	一、四二七、九三八	九、二三五	九、五七九	六、四三三
全 國	八四九、三六九	二、四〇〇	一、三三九、四九	六、三九四
阪 神	七三六、二一五	二、二四一	一、〇〇〇、四四五	二、七九〇

鈕 釦

品種	十 年		九 年	
	輸出高	前年比	輸出高	前年比
全 國	一〇、一四一、五三〇	九、六四八、〇四九圓	九、三六、〇〇五	
内 阪 神 兩 港	九、七五〇、四四五			
貝 製	一八、七三三、九五哥	六、六八八、六九圓	一九、九七七、四八哥	六、六八五、六七一圓
其 他	三、四六一、四八六	二、九三三、三七八		

阪神兩港本年の輸出は前年に比し三十七萬四千圓強の増加であつたが、之骨製其他各種鈕釦の輸出増加に因るもの

で、本品輸出の主體をなす貝製鈕釦は海外諸市場の排撃から却つて幾分の減少を見ざるを得なかつた。

本年の輸出を市場別に見ると主要市場たる英國、英領印度をはじめ、支那、佛、獨、カナダ、アルゼンチン向輸出は何れも前年より減少を見るに至り、如何に海外諸國の通商障壁が高められつゝあるたかを語つて居る。

尙最近の傾向として貝製鈕釦一本に進むことの漸く困難となつた結果、主力が其他雜鈕釦に向けられつゝある。

ゴ ム 靴

最近の海外諸國から目の仇として重税を課せられつゝ、然も相當の發展を見つゝあるのが、こゝに記るすゴム靴である。

これを總ゴム靴と布靴（ゴム底キャンパス靴又は運動靴）に區別して最近の輸出狀況を見るとキャンパス靴が年々増加して居るに拘らず、總ゴム靴は逐年減少を見ると云ふ不振さである。

海外諸國の本邦品壓迫のためと共に比較的單價の高い總ゴム長靴が輸出用として漁勞用、鑛山用、或は特殊用途へと販路が狭められ又南洋、アフリカ方面への總ゴム靴輸出が漸次長靴より短靴に移りつゝあるがためと思はる。

總 ゴ ム 靴

品種	十 年		九 年	
	輸出高	前年比	輸出高	前年比
全 國	四六、五三〇打	二、六九九、三三圓	五七、七九打	三、三三三、五八四圓
内 阪 神 兩 港	四九、八八一	二、四三三、〇七〇	五六、二六二	三、一八九、九四一

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量十一萬二千打強、價額七十六萬七千圓弱の減少であつたが、これ上述の理由並に海外市場における製造工場勃興に基因するものと見られて居る。

主要仕向先は滿洲國（含關東州）、英印、支那、蘭印等であるが、本年これら地方への輸出は何れも不振であつた。布靴（キャンパス靴又は運動靴）

本品の輸出は本邦としては極めて最近のことに屬し、當初其の品質歐米品に比し遜色甚しき處から、進出を危まれ

たのであつたが、技術の向上と廉價良質を武器とし、爾來逐年發展を遂げ、本年阪神兩港の輸出は數量二百十四萬打強、價額一千百三十萬圓強を見るに至つたが、これ亦海外諸國の壓迫下にある。主任向先は滿洲國(含關東州)、英領印度、蘭領印度、支那等であるが、本年の輸出何れも前年より多少の増加を來たした。

尙歐米への本品輸出は其の徹底的關稅障壁のため打撃を受け逐年減少を見つゝある現状である。

紙類

品名	十一年		九年	
	數量	價額	數量	價額
全國輸出高	一、四九八、八三擔	三、〇八四、五七圓	一、二九三、三九擔	二、〇、六五、五三圓
内阪神兩港	八四、五八	一、四、三三、四四	七三、三三	一、一、八五、三八
阪神兩港の紙類輸出は全國總輸出の約五六%に當り、前年に比し數量十萬八千擔餘、價額百三十七萬八千圓の増加であつた。				
蓋し滿洲國最近の發展に依る本品の需要増加と對支向輸出が日支關係好轉と北支政權成立に依る奧地向輸出増加著しかつたこと其他英米、英印、蘭印への轉出増加を見たこと等が原因をなして居る。				
品種輸出額(千圓)				
印刷用紙	八、五八	七、六七五	七、六七五	七、六七五
煙草用紙	三、六五	二、一五九	二、一五九	二、一五九
雁皮紙及薄茶紙	一、〇三五	八、三三	八、三三	八、三三
吉野紙及典具帳	五、六六	三、六三	三、六三	三、六三
島ノ子紙	一〇	一、五九四	一、五九四	一、五九四

連史紙 一九 六七
 板紙 二、六四四 一、七一九
 半紙及美濃紙 八八九 九三
 包裝用紙 七〇一 七九
 座紙 九六六 一、一四〇
 其他紙 五、一〇一 三、四七三

需給 前々年、前年の好況のあと受け本年亦活況裡に終始、生産に販賣に、新記録を作ると共に、盛に増設、新式機械の運轉計畫がなされ、久し振りに擴張時代を現出した。
 即ち本年の製紙高は和洋板紙合して二十二億四千百萬封度強となり、前年に比し二億三百萬封度の激増であつた。

品名	製紙聯合會會員		會員外	
	數量	價額	數量	價額
洋紙	一、五九一、四七四	一、七九、六三三	三、三〇	三、三〇
和紙	三、四一〇	三、四九	三、四九	三、四九
板紙(板紙同業會會員)	三、九二、四〇三	四、三三	四、三三	四、三三

化粧石鹼

品名	十一年		九年	
	數量	價額	數量	價額
全國輸出高	五、〇一、七〇打	二、七、八、〇三圓	三、六五、八〇打	二、四、七、九七五圓
内阪神兩港	三、七六、一一七	二、五九、七一一	三、四三、七七	二、〇、四、六〇五圓
阪神兩港本年の輸出は前年に比べ數量三十七萬二千打強、價額二十八萬三千圓餘の増加であつたが、これ本品主要輸出市場の一たる滿洲國、支那其他への輸出が、或は最近文化發展による需要増から、或は北支政權の樹立といふ特				

殊事情から、本邦品の安價良質が買はれ、輸出増進を示したがためである。

尙この間にあつて、同じく重要輸出市場たる蘭領東印度、英領印度向輸出は輸入制限、關稅引上等本品進出阻止策嚴重を極めたがため、相當の不振を示した。

市價 本年は諸原料が概ね昂騰を示した結果内地年末市價は年初に比し大體一〇%高であつた。

燐 寸

全國輸出高	十年	三、三〇九、四九圓	九年	三、九六六、五六圓
内阪神兩港		三、三〇四、七三		三、九四一、二五

阪神兩港本年の輸出は前年に比し十萬一千圓の増加であつた。

これ主仕向地たる香港への輸出が日支關係好轉に因る排日貨運動の緩和と支那幣制改革を見越しての思惑的輸入のため相當活況を見たことに歸因したもので、この間本邦回安も副因的効果となつた様である。

香港に亞ぐ本邦品大市場たる米國向輸出は本年約三〇%方前年より減少するに至つたが、これN.R.A 解消による相場激落の結果本邦の輸出採算點を割るに至つたのと、加之ソ聯邦燐寸の協定を無視したダンピングがあつたためと謂はれて居る。幸ひ對米輸出に關しては本邦に輸出組合あり、自主的統制をなせるため、この被害割合に小さくて済めるものゝ如きも、其他市場に在つてはソ聯、瑞典の脅威あり、圓安による日貨排斥、關稅の引上あるも綜合的統制をなす輸出組合なきため、其の立場は頗る不利の状態に在つた由である。

需給 日本燐寸工業組合調査に係る十年中における生産總額は五十三萬一千七百五十五噸で、本年中を通じ三割の強制減産を續けたがため、需給は均衡を保ち殆ど過不足なかつた。

市價推移 商工省調査に依る大阪燐寸相場は次の通りであつた。

一箱二百打入大阪市中相場

一月	二月	三月	四月	五月	六月
九・三三圓	九・六六圓	九・六六圓	一〇・〇〇圓	一〇・〇〇圓	一〇・〇〇圓
七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一〇・〇〇	一〇・〇〇	九・六六	九・六三	一〇・〇〇	一〇・〇〇

陶 磁 器

全國輸出高	十年	四、一七三、五五圓	九年	四、一八七、四四圓
内阪神兩港		三、二六二、四八		四、一九五、三〇九

本品本邦輸出の殆どは名古屋、四日市港よりなざるゝもの故、阪神兩港よりの輸出は至つて、少額である。

蓋し本邦主産地が愛知、三重、岐阜の三縣下に集中せるがために外ならない。

阪神兩港本年の輸出は前年に比し約百三萬四千圓の減少を來たしたが、之海外市場不振に因ると云ふよりは阪神の地理的關係に負ふ所多きものゝ様である。

何故なら、本品海外輸出の最近は往日の如くならずとは云へ、尙且本年全國の輸出は前年より多少共伸展を見せ居るから。

本年全國の輸出が主仕向國たる米國をはじめ、英印、濠洲、英國、關東州、滿洲國に増加しながら、總額に於いて前年並の數字に止つたのは蘭印の相次げる輸入制限による輸出不振、其他海峽殖民地、歐洲一部諸國、アフリカ、支那への輸出不振からであつた。

海外主要消費國における本品の輸入概況を見るに本品輸出最大市場たる米國における本邦品の輸入は漸次外品を壓し、本年は同國への仕出國中斷然第一位を占むるに至り、其の金額では同市場輸入總額の六〇%に垂んとする景況を示した。

競争國は英國、獨逸、致須國等であるが、米國本年の景氣回復と本邦品の安價優良が本年對米進出の増加を原因したものである。

支那、滿洲、英領印度、蘭印を初め、東洋及び南洋に在つては比律賓の一小部分を除き何れも本邦品が其の需要の過半を占むる状態、其他の部分も英、獨、致須國、及支那品が相争ふ有様である。

前記市場に次ぎ本邦品の重要市場となりつゝある滿洲、カナダ、及び南阿聯邦に於いては近時經濟界の好轉に伴ひ本邦品は益々獨逸及致須國等歐洲大陸品を凌駕し進出目覺しきものがあるが、英國に對し何れも特惠を與へ居る關係上同市場は英品の獨舞臺である。

又歐大陸、アフリカ、中南米は歐大陸品、即ち獨逸、チエコ、佛國、英國品の地盤依然堅きたため本邦品の進出極めて困難である様だ。

市價推移

大日本陶磁器輸出組合聯合會調によると、本年本品主要品の市價は大體年初最も高く、年末に近づくに従ひ漸落を續け居り、尙詳しく云ふと二月最も高く、三月低下、四、五月向後、六月より再び下向に轉じた。

(食器、臺所用品裝飾品)月別噸當り平均價格

一月	八五・六圓	二月	八六・七圓	三月	八三・九圓	四月	八五・〇圓	五月	八五・二圓	六月	八三・六圓
七月	九一・三圓	八月	八六・九圓	九月	八三・〇圓	十月	八四・三圓	十一月	八四・三圓	十二月	八三・三圓
全國輸出高	三、三三、四三圓	十一年	一八、五七、五五圓	九年	一九、四九、三三圓		一五、四九、八三圓				
内阪神兩港											

硝子製品 (人造眞珠及硝子腕環を除く)

本項で硝子製品とは窓硝子、魔法瓶、其他瓶、コップ、食器、ウオッチグラス、珠玉及球、眼鏡、鏡の總稱であつて其他のものは含まれて居ない。

阪神兩港本年の輸出は前年に比し三百八萬七千圓の増加であつたが、主として爲替安と安價なる關係からであつたと思はる。

本品は大阪が全國の主産地をなす關係上、本邦輸出の過半即ち八〇%迄は阪神兩港經由を以て輸出さるゝものである。

本邦の硝子製品輸出は金再禁止來、逐年輸出増加を見つゝあるもので、本年の輸出亦この例に洩れず、前年の好況に引續き相當の發展を見るに至つたこと前表の通りであるが、只板硝子のみは強敵白耳義の平價切下げから、折角の本邦品輸出市場も侵食さるゝ結果となり、多少前年より減ぜざるを得なかつた。

輸出先は爲替安と安價の關係から、世界の各地に亘つて居るが、其の過半は矢張り、東洋の諸市場、其れも英領印度、蘭領印度、支那、比律賓を主仕向先とするものである。

此等市場への輸出狀況を見ると品種として、從來通りの簡單なるカットグラス、灰皿、食器類、繪模様付電燈笠等が主で、概して安價品である。

尙この内英印、蘭印方面への輸出は關稅引上、輸入制限の關係から、最近輸出減を餘儀なくせられて居るが、而も安價なるため、相當の所を維持しつゝある現状である。

支那市場は銀高、日支關係の好轉から、本年の輸出相當の増加を示したが、當市場向高級品は、獨、チエコ品の壟斷する處であり、而も美術的高級品は歐洲品が可成り安價で、精巧なものを提供し居るため、本邦品としては中以下の製品に目標を置くべきであると云はる。

阪神品種別輸出額

硝子瓶	一三、四四、三九打	五、六九、四六圓	二、六六、八八打	三、九四、六二五圓
	十一年		九年	

コ	六、四八、八七	三、五九、〇九	五、〇五、八五	三、一八、四二
ツ	—	九、八八、〇二	—	八、四三、八二
ア	—	一八、五五、四五	—	一五、四九、八四
計	—	—	—	—

以上の如き本邦品最近の急激なる輸出發展の結果はさらぬだに神經質な各國に強刺戟となり、其のため各國の本邦品防遏工作は日々激化する有様で、幾分にもこの鋭鋒を避くる意味に於いて、全國的單一の日本硝子工業組合が組織せらるゝことゝなつた。

他方輸入は國內斯業の發展から、特殊品に止り居るも、其れも近年は逐年減じつゝある。

絶縁電線

全國輸出高	三九、〇九九擔	二、三六、二六圓	一四、二六擔	七、三三、〇五圓
内阪神兩港	八、〇九五	四、一五、四九七	五、〇一三	二、五四、四五五

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量三萬擔、價額百六十一萬三千圓弱の著増を示し、前年に引續き活況を呈した。滿洲國建設用材としての需要依然多かつたのと日支關係好轉が主因であらう。

主仕向先は滿洲國含(關東州)支那、ロシア、英領印度等で何れも前年より増加、殊に關東州を含んだ滿洲國の増加は著しかつた。

關東州を基點とする北支向輸出が本年は冀察政權の樹立といふ特殊事情から急増をなしたからであらう。

本邦内地における本品九年の生産高は商工省調に據ると約四千三百萬圓で、前年より三百萬圓の増加であり、六年以來本品の生産は逐年増加を見つゝある。

主産地は東京、大阪、神奈川、兵庫、茨城、福岡の諸府縣であるが、生産の過半は東京、大阪の二府で占められて居る。

珉瑯鐵器

全國輸出高	三〇九、三三擔	九、四九、四七圓	二五七、八六擔	七、九九、七九圓
内阪神兩港	二六、二七	八、〇七、三三	二九、三三	六、六四、〇七

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量四萬六千擔強、價額百三十萬八千圓の著増を示し、全國輸出の八七%強を占めた。

本年の輸出が、かく好調を呈したのは印度、比律賓、特にアフリカ諸國への輸出が著増したがためで、反之關東州蘭領東印度、海峽殖民地への輸出は前年の行過ぎに依る消化難もあり、加之蘭印は輸入制限を續行、滿洲亦製造工場

の出現といふ不利の條件相重疊せる結果これら地方への輸出は何れも不振であつた。アフリカへの本年輸出は特に活況を呈したが、この原因としては大阪商船の直通航路が開かれたこと、反ナチス商人が獨逸商品ポイコットの意味で意識的に本邦品買進みに邁進すること並に本邦品の市價と品質の關係が歐洲品より有利なることを漸く認識するに至つたこと等が考へらるゝもので、他面内外當業者の努力もあづかつて力あつたゝめであらう。

需給事情 本邦における珉瑯鐵器工業は西邦及び東京の二珉瑯鐵器工業組合に依り、日本珉瑯鐵器工業組合聯合會が組織され、之が統制の任に當り、西邦は輸出向及内地大衆向を、東京は内地向高級品を主とし生産、本年の生産は約一千四百萬圓程度で、内外需要に生産は終始追はるゝ状態であつたと云はるゝが、内地工業組合の統制から免れ居る朝鮮産との軋轢漸く甚しく、採算悪化は遂に業界を混亂に陥れんとした處から、内鮮協定が主として内地側から叫ばれ、これが解決を次年初につけることになつた。

市價推移 主要製品阪神市價月別推移は次の通りであつた。

三〇種無地洗面器(一打建單位錢)

十年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
九年	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五

セルロイド及同製品

セルロイド生地

全國輸出高	三、六七三	三、四六九、五三圓
内阪神兩港	三、八八九	三、四四四、一〇〇

セルロイド製品(特殊品を除く)

全國輸出高	三〇、七二擔	三、三〇五、二四圓
内阪神兩港	二七、九六六	三、〇〇七、三三

全國輸出高	三、〇六六、一〇六
内阪神兩港	二、九五〇、〇五五

阪神兩港本年の輸出を前年に比べると、生地は數量で約五千擔、價額で四十一萬五千圓の増加を見たが、製品では其の増加僅かに二萬圓足らずで、然も全國的には却つて前年より多少の減少さへ來たすに至つて居る。

蓋し外國市場におけるセルロイド加工業の發達から、生地に對する需要の増大を生ぜしめた反面、製品の輸入は極力阻止に努めたがためであらう。我がセルロイド工業は樟腦其他セルロイド製造原料の國內自給の可能、營業者の努力による製造技術上の向上、並に低爲替の好條件から一九三三年以來獨逸、米國を一蹴、世界一の供給國たらんとするに至つて居るもので、本邦工業國策的見地からこの傾向は益々強められ行くものと觀られて居る。最近一ケ年の我が生地生産は再生を合し約一千萬疋となり、この内約五十萬疋が輸出に向けられ居る状態で、歐米諸國における加

學 術 器

工業の發達から本邦品生地の需要は益々増大を約束づけられて居る。

主仕向先は英國、支那、英領印度、カナダ、アルゼンチン、濠洲、メキシコ等である。

セルロイド製品(鈕釦、櫛、髮止、腕輪、傘柄及傘手、玩具等を除いたもの)の輸出は最近漸次進出困難に逢着せること前述の通りで、主仕向先は英國、濠洲、英印、米國等であるが、兩者共に本邦品は今や世界全土に亘つて居る

種別内譯(單位千圓)

全國輸出高	一八、六六三、七〇圓	一九、二二二、八三圓
内阪神兩港	一〇、四四〇、五三	九、九四一、五三
全國	二、一〇三	一、五二〇
阪神	八〇元	六〇元
醫療器	一、七三三	一、三三三
電池	一、一五三	一、〇二二
計量器類	二七二	一〇
顯微鏡	九四六	五六五
理化學器	六九	四一〇
樂器	一、六九三	九三九
ラヂオ	三、七四四	二、二四八
其他電話器	三、七四四	二、二四八
著音器	三、七四四	二、二四八

度量衡器
其他學術器

一九〇九

一九一〇

一九一〇

一九一〇

阪神兩港本年の輸出は前年に比し約四十一萬圓の膨脹を呈し、依然好調を續けたが、又之を品種別に見るも、電話器の輸出稍不振を見たのを除くと、其他各品種の輸出は何れ劣らぬ發展を遂げ、本邦斯業界に盡くす所尠くなかつた様である。

而してこれは内的には本邦斯業界の發展による優良品種の産出を語るものであると共に、外的には本邦品の廉價良質が漸く國際的承認を勝ち得たことを證明するものに外ならないのである。

本品の主要仕向國は滿洲、支那、英印、蘭印等主として東南洋の諸國であつたが、現在ではこの東南洋の一區域に局限せらるゝことなく遠く、アフリカ、南北アメリカ、大洋洲其他世界の各地域に亘つて居り、米國、濠洲亦本邦品の主仕向先となるに至つた。

本年本邦品の輸出好調も實にこの世界的市場擴大に原因する所多きもので、就中對米輸出好轉が相當重因となつて居た。

米國の財界好轉が本邦品買ひに走らしめる一原因をなしたと共に本邦品の世界的承認がこの結果をもたらしたもので、日支關係好轉、日滿ブロック關係による對支、對滿輸出の好調も與つて力あつた。

自轉車及同部分品（ゴムタイヤを除く）

十年

九年

全國輸出高

一七、四三六、四六圓

一八、九〇四、二五七圓

内 阪神兩港

一四、五三七、九四七

一五、六〇一、七三三

阪神兩港本年の輸出は前年に比し百萬圓餘の減少を來たしたが、これ主輸出先たる蘭領東印度の輸入制限、其他所謂英ブロックの輸入統制の影響と見るべきと共に輸出が漸く飽和點に達したことを換言すると開拓し得べき市場が大體

開拓し盡されたことに歸因せるものゝ様である。

本品の主要仕向先は蘭印を筆頭に滿洲國、支那、英印、海峽殖民地等であるが、この内本年輸出増加を見たのは滿洲國、支那位で其他向けは新市場向の一部を除いては何れも多少の減少を見せ、殊に主仕向先たる蘭印向輸出は同國本年一月二十一日實施の自轉車乃至部分品の輸入特許制のため前年に比し約六分の一減を見るに至つた。

本年の輸出停頓に對し一部では本邦品の競敵獨逸のダンピングを問題とした様であるが、獨逸品の進出は本邦品の主要市場たる東南洋をはなれ、主として近東、アフリカ方面であつた様であるから、本年輸出停頓の直接的原因は矢張り前述の如きものと見るべきであらう。

生産 我國の自轉車工業は地域的に可成り集中されて居るもので、全國の主産地としては東京、大阪、愛知、兵庫が代表的のもので、この四府縣で以て全國生産の大體九割を占むるものであるが、商工省工場統計に依る九年の生産高は自轉車二百五十四萬二千三百七十六圓、同部分品及附屬品三千四百四十六萬二千二百二十五圓計三千七百萬四千圓強で、この内大阪一千三百十五萬二千圓、東京一千八十三萬五千圓、愛知五百八十九萬五千圓、兵庫三百一十一萬圓となつて居る。

尤も商工省調は職工常時使用五人以上の工場のみを集計であるので、實際の生産高は前述數字を遙かに上るものと見られて居る。

我國の自轉車工業は其の獨得の分散工業的製造方法の上に、可成り完備した工業組合と輸出組合を有するため、生産、販賣兩面の統制が相當よくとられ居るも、品質的改善につき改むべき點尙多い模様から、これが改善指導のため自轉車工業組合聯合會、輸出組合、卸商組合の三者協同の下に、日本自轉車商工審議會なるものを商工省内に年末設置するに至つた由である。

ゴムタイヤ及インナーチユープ

十一年		九年	
全國輸出高	一三六、八〇〇擔	一四八、四三〇擔	九、九四四、七六圓
内 阪神兩港	一〇二、一九九	六、八四四、三六七	一、二六、七五
種類別内譯			七、三三三、七六
人力車用	七、五七五擔	八、二五八擔	六〇、三三三圓
自轉車用	七、四六七	六、四六二	六六、二九
其他車輛用	八〇、九三擔	九、六六擔	五、六九八、六八圓
全 國	一、八七九	四、九二九	五、四四九、五七一
内 阪 神	一、八七九	四、九二九	五、四四九、五七一
全 國	四、八五擔	四、八五擔	三、六五五、八九七圓
内 阪 神	一、七六三	一、九四九	一、二九、九三

阪神兩港本年の輸出は前年に比し數量一萬五千擔強、價額五十二萬八千圓の減少を示したが、これ主仕向先たる蘭印、支那、英印、滿洲國への輸出が漸く其の飽和状態に達せると關稅其他の關係から相當不振を續けたことに歸因せる様である。

人力車用タイヤは其の殆ど（七〇%強）が支那向輸出で他市場向は僅少であるが近時海外市場における自轉車、自動車の發達のため、従前の如き需要はなく、寧ろ今後は漸減するのではないかと見らる。

只支那の如き國土大にして、交通機關の不備なる地にあつては、今後も相當需要増を望み得るもので、日支外交の好轉如何に依つては尙發展の餘地が残され居る様である。

自轉車タイヤは其の殆ど五〇%が蘭印向であり、其他支那、海峽殖民地、英印、滿洲國を主要輸出市場とするも、

最近これら市場への輸出は大體飽和點に達したものの、如く特に蘭印の輸入制限から伸展が停止さるゝに至つて居る。其他車輛用としては自動車用が大部分で、滿洲國、蘭印、英領印度、支那、海峽殖民地を主輸出市場となして居る尙これは近來本邦生産の増加に伴ひ、輸入から輸出に轉じたもので、自動車の本場米國にさへ僅かながら輸出を見るに至つたことは注目すべきである。

ゴムタイヤ及チューブ本邦生産額（商工省工場統計表に據る）

飛行機自動車	一九、四七、五六一	一五、〇三、七九圓
及自動自轉車用	三、五、八四八	三、九、八二三
自轉車及人力車用	一、八七、八八四	一、五、八、三四
其他	三、九四一、九四八	二、四、二、六六
計	三、四九、三九	二、六、二、一九
	二、九六、四二六	七、四、五〇八
	四〇、五八、〇六一	三、八、六、二三

機 械 類

全國輸出高	三、八六、〇〇圓	五、七、七、三九圓
内 阪神兩港	三、六、三八七	三、四、四、四七五

阪神兩港本年の輸出は前年に比し五百二十二萬九千圓強の増加であつたが、之主として滿洲國建設景氣の尙持續を見たのと日支關係好轉に因る對支輸出の増加に基因するものである。

本品の主要仕向先は滿洲國、支那、英領印度、アジア露西亞等主として東南洋の地域に限らるゝも、最近は僅少な

からブラジル、濠洲其他新市場に進出を見るに至り、我國重工業方面の急速なる發達を語つて居る。

本年本邦全體の輸出を品種別に見ると、鐵道機關車（一千三百七十七萬七千圓）で、本品輸出のトップをなし、紡績機械（八百九十七萬七千圓）、電氣機械（八百四萬二千圓）、織布機（三百五十六萬九千圓）、金屬及木工機械（百九十四萬一千圓）、內燃機關、百九十一萬圓）、汽罐（百九十九萬圓）、ポンプ（百六十二萬三千圓）、起重機（百十二萬二千圓）、印刷機（百十萬五千圓）、縫衣機（三十六萬四千圓）の順序で、其他機械類の輸出額は一千九百五十二萬三千圓に上り、本邦機械類輸出の三割一分に相當して居る。

本邦生産、最近三、四年の短期間にわが機械工業は驚異的飛躍發展をなしつつあるが、これは軍需工業の繁忙、時局乃至輸出關係工業の殷盛（對内的原因）並に建設途上にある滿洲國との特殊關係、低爲替と低賃銀を巧に利用せる輸出振興（對外的原因）などに負ふ所多きもので、このため、現在では國産品で間に合はぬものは殆どなしといふ状態で、機關車、艦船、蒸汽機關、ディゼル機關、電氣機關、工作機械、化學工業機械、紡織機械、鑛山機械其他各種の分野に亘り、優秀なる製品を廉價に供給し得るに至つて居る。

商工省調査九年中の機械器具生産額は十一億五千九百萬圓餘にして、前年より二億七千萬圓餘の増加となつて居る

ランプ及同部分品

全國輸出高	一九二七年、四七〇圓	一九二九年	一五、六六六、二六〇圓
内 阪 神 兩 港	七、四八四、〇八一	一九二九年	六、四二五、九三三

阪神兩港本年の輸出は前年に比し約百六萬八千圓の増加を來たした。

本品の過半は電球であるが、近時各國の高率關稅障壁、輸入割當制設置のため、電球の輸出は昭和七年を其の黄金時代として爾來漸減の傾向を辿れるものである。

即ち本年の輸出増亦電球を除いたランプ其他の輸出が多少好調を示したために外ならない。

本邦電球の主要仕向先は米國、歐洲、アジアの諸地域であつて、地理的に有利な條件にあるアジアへの輸出が其の割に發展しないのは、現在の輸出電球が裝飾用多き點と、主要市場たる支那、蘭印向が高關稅政策、輸入制限採用のため、活動の餘地極限され居るがためである。

尙滿洲國は現在奥地方面に於いて今もロシア電球と支那産電球を使用し居るも、滿洲國の電力統制から漸次本邦産電球が進出しつゝある様である。

其他新市場開拓の結果、最近では少數ながら、シヤム、アデン、シリヤ、パレスタイン、イラク方面に進出を見るに至り、又中南米、濠洲方面にも本邦品の安價さが買はれ、相當の進展を見るに至つて居る。

本邦輸出電球の二大顧客は前述の如く、英米の兩國であるが、この内英國は電球輸入割當制を以て本邦品進出の阻止を圖るあり、米國GE社との電球特許權問題から本品の將來樂觀し得ない立場にある。

蓋し本邦業者の無統制が今日の窮境に導いたものと云はれ、業界の統制が切に叫ばるゝ所以である。今日本邦電球業の統制状況を見るに、七月日本電球工業組合聯合會は内地向電球の統制として東西電球株式會社を設立、販賣の統制に進出、其後更に東京電氣のマツダと販賣協定を進めたが、東京電球工業組合に屬する有力アウトサイダーの依然たる存在のため、其の實空しき感がある。

刷 子

全國輸出高	三四五、七二五圓	一九二九年	四〇四、八〇〇圓
内 阪 神 兩 港	三三九、九六四	一九二九年	三三三、七九九圓
全國輸出高	二、〇二五、六六〇打	一九二九年	四〇〇、六八四
内 阪 神 兩 港	二、一四八、四六八	一九二九年	三、〇六六、五五三
其 他	一、七三七、〇九二	一九二九年	一、九〇九、〇一一
		一九二九年	一、九二八、〇五五
		一九二九年	一、九三九、〇〇〇

阪神兩港本年刷子類の輸出は其の額四百九十九萬九千圓強に達し、前年に比べ減少する事約十八萬二千圓であつた。

本品の輸出がかく稍々不振を示したのは主要仕向先たる英米への輸出が、別記事情に因り完成品としてよりは「ハ
ンドル」「精毛」を別にした半成品としての輸出増加に轉換しつゝあるがために外ならない。
而して英米兩國への輸出がかゝる變移をなした理由としては、半成品としての輸出が完成品の夫に比し（イ）包装の
關係上運賃安なること、（ロ）仕向地における關稅が三〇%安なること、（ハ）植毛機械の發明から、植毛に特殊技術を
有する邦人の器用さを要しなくなつたこと等を挙げ得るもので、この結果今や英米向完成品輸出は小口物が多く、大
口物はすべて半成品として輸出せる有様で、本品輸出の妙味は全く失はれつゝある様であるが、然も前記理由による
完成品輸出難は只に英米に限らず、其他諸國にも現はれないとは限らないだけにこれが對策に就ては相當考慮する要
があらう。

玩具

全國輸出高 三、八五三、一〇四圓
内 阪神兩港 二、一四三、七六三

九 年 三〇、三六五、五三圓
一、〇八、一三五

阪神兩港本年の輸出は前年に引續き活況を呈し、價額五萬五千圓の激増を示したが、これ第一輸出市場である米國
向輸出が、同地財界の好轉を移して相當活況を見たることに主因するもので、其他主任仕向先において本年輸出増を見
たものに英國、濠洲があり減少したのに英領印度、和蘭等があつた。

尙本年の輸出に於いて注目せらるゝ事實は、從來比較的看過され勝ちであつた群小新市場への増進で、これ業者努
力の致す所であつたと共に、本品最近における製作技術の卓越化と價格安のためであらうと考へらる。
本年本邦全體の輸出を種類別に見ると金屬製依然第一位を占め、絶對多額を見たが、これ品質の漸く高級化し來た
つた、めと見られる。
セルロイド製の輸出亦頗る好況を呈し、前年の第三位から、本年は第二位に進むに至り、其他陶磁器製、木製、紙

製布帛製に至る迄、何れも尠なからぬ増加を來たした中に、ゴム製のみは前年より相當の減少を見るに至つたが、之
海外諸國の輸入防遏策嚴を極めた結果に外ならない。

米國昨年の玩具輸入狀況
本年一月から十一月末に至る十一ヶ月間の米國玩具貿易狀況につき、在シカゴ帝國商工省通信員報告によると、輸
出百九十九萬六千弗に對し、輸入二百四十三萬四千五百一十一弗で、輸入は前年同期に比べ、四・五%の増加、而もこ
の輸入の七五%（百八十五萬一千三百八十四弗）はメイドインジャパンの玩具で占められ、第二位の獨逸はぐつと落ち
て四十六萬八千六百二十九弗であつた。
日本からの輸入玩具は人形が二十七萬八千四百七十弗、ゴム製品が二十二萬九千四百四弗、其他百三十四萬三千八百
十弗であつた由である。

本邦品種別玩具輸

品名	十 年	九 年
セルロイド製	六、〇六四、八四圓	三、七八、三三圓
布帛製	二、〇八四、六六五	一、七三三、七五三
金屬製	七、二八、一五二	七、八〇三、一五三
陶磁器製	三、三〇七、九四三	一、〇三三、三八九
ゴム製	四、一九五、一七一	六、四〇六、二六三
木製	四、三三八、〇五七	三、五〇六、〇四七
紙製	二、七五三、八七〇	一、八六六、四八一
其他	三、二八三、四七一	四、二七〇、二三三
計	三、八五三、一〇四	三〇、三六五、五三三

花 蕙

全國輸出高	十年	三、四四、三六圓	九年	一、八六九、九七圓
内阪神兩港		二、七六、六七		一、八四六、六七
連製	十年	三六、五三卷	九年	三七、七九卷
全		二七、五八		二六、九三
阪神	十年	二、六九、六八圓	九年	二、〇、三三〇
全		九、八七、五三枚		六、二〇、五四枚
阪神		九、五五、三三		五、九二、九三
單製		二、五八、六九		一、六六、五九圓
全		三、三六、二八圓		一、六七、三三
阪神		二、五八、六九		一、六七、三三

阪神兩港本年の輸出は前年に比し九十三萬六千圓の増加を見たが、これアフリカ、米國をはじめとして其他市場向輸出が爲替安の波に乗り、活潑を呈したが爲である。

本品の主仕向先はアフリカ、英領印度、蘭領印度、米國等であり、本邦よりの輸出は殆ど全部神戸港からなされて居る。

花菱検査所の所在せる關係からであるが、主産地は岡山、福岡、香川の諸縣で、殊に岡山縣が大半を占めて居る。本年の輸出品種別は前表の如く、單製(小物)花菱が大部分で、連製(長物)花菱は未だ金額的に大したものでない。因に本品は産地業者間の極端な競争から、濫賣に陥り、業界の健全なる發展を阻害する處甚だ多かつたのであるが最近に至り主産地たる岡山、福岡兩縣業者間に協約なり、強固なる機關により、之が統制に邁進することになつた由である。

b 輸入品概況

飲食料品

牛肉

全國輸入高	十年	一、三三、三四擔	九年	三三、六五擔
内阪神兩港		一、五七、七〇		一、九三、七〇
		五、三三、一九		六、二八、八五

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量三萬六千擔、價額八十九萬四千圓の減少を來たした。

之は本邦輸入牛肉の過半を占める青島牛肉が年初來の銀高(尤も十一月幣制改革で銀は暴落したが)及諸掛費用高の爲割高となり減少を見たものである。

主要仕入國は例年の如く支那が第一位にあり、輸入總額の六五%、即ち四十萬二千六百圓であつた。他は濠洲(五萬一千五百圓)、關東州(五萬一千三百圓)、加奈陀(一萬七千三百圓)、滿洲國(一萬六千七百圓)等である。

青島牛肉輸出情況 年初來銀高の爲輸出不振を極め、牛照料其他課金並に運賃の引下等を企てたが具體化せず、他内地輸入税の關係から山東牛が大連に密輸され、關東州牛として内地へ輸出を見、又濟南牛との競争に於て屠殺機關たる濟南冷蔵公司及青島宰畜公司との間に抗争起り、更に又青島牛肉輸出同業組合内に於ける競争の結果協定値段(百匁十三錢五厘)を破るものあり、全く混亂状態となつた。斯くして上半期の對日輸出は一一、五九四頭を算するのみで前年同期に比し五、六九四頭の減少であつた。然るに十一月に入り支那幣制改革により銀爲替低落し、内地牛肉より安値となつた爲、輸出は急増したが年計に於ては二五、五六九頭で前年の三四、〇九七頭に比し八、五二八頭の激減となつた。

市價推移 神戸市卸賣物價(並骨付、十貫建)單位圓

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

内地物	四・二〇	四・四三	四・四三	四・五七	四・三三	四・三三	四・三三	四・三〇	四・二〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇
青島物	三・五〇	三・〇〇	三・五五	三・五〇	三・五五	三・五五	三・五五	三・五〇	三・五〇	三・五〇	三・五〇	三・五〇	三・五〇	三・五〇

小 麥

十年 九年

全國輸入高	七、四七、三〇〇擔	四、一九、二〇〇圓	八、一五、〇二擔	四、七四、五〇圓
内阪神兩港	一、〇三、一七〇	七、三三、一三〇	一、四九、七六六	七、三〇、五九三

阪神兩港本年の輸入を前年に比べると數量約四十七萬六千擔、價額八萬八千圓の減少であつた。然し之を全國に就いて見れば數量では七十三萬八千擔の減、價額約二百四十五萬圓の増加であつて、單價騰貴を物語つてゐる。

需給狀況 本邦内地小麥生産は農林省の小麥増産計畫が昭和七年以來着々と進捗し、其の收穫高も七年の約六百五十萬石から十年には九百六十六萬石に達し、製粉、醸造等内地需要に封しては自給自足の状態となり所期の目的を達してゐる。

然るに本邦製粉業は近來愈活況を呈し、本年の生産高は四千九百七十二萬袋に上り、前年に比し三百六十三萬袋の増加を示し、之の輸出は一千三百七萬袋を算し、輸入小麥はこの輸出麥粉方面の原料に向けられてゐる。之が内地小麥増産に拘らず尙小麥の輸入を増加せしめてゐる所以である。

主要仕入國は濠州(三千九十三萬五千圓)加奈陀(六百二十五萬七千圓)亞爾然丁(二百五十七萬四千圓)で、加奈陀よりの輸入は對加通商擁護法發動により前年に比し百八十六萬二千圓を減少し、之を補ふものとして亞爾然丁小麥が前年の六十二萬圓から一躍四倍し二百五十七萬四千圓に達した。濠州も八百九十萬圓餘の増加を見た。又米國小麥昨年の輸入は米麥滯貨一掃を目的としダンピングが行はれ、九百八十六萬九千圓に達したが、本年は二十八萬三千圓となり、常態に歸つた。

市價推移 大阪市卸賣相場(百斤建)

十年一月	六・五三	二月	七・五五	三月	七・五五	四月	七・五五	五月	六・六三	六月	六・三三
七月	六・五三	八月	七・〇〇	九月	八・二〇	十月	八・三三	十一月	八・三三	十二月	八・三三
十年平均	七・三三	九年平均	六・四〇	八年平均	六・六六						

大 豆

十年 九年

全國輸入高	八、七三、七三擔	三、七六、三三圓	九、一八、三三擔	四、〇三、八〇圓
内阪神兩港	一、六三、〇六〇	一、〇五、四四五	一、八七、六六三	八、八五、四三七

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量十九萬四千七百擔減少、價格二百二十萬圓の増加であつた。全國についても數量減の價額増となつてをり滿洲大豆相場恢復を物語つてゐる。

本品の輸入は其の九九%を滿洲國が占めてゐる現狀で、輸入大豆の約半分は味噌、醬油、豆腐等食用に供せられ、他の半分は搾油用とされ粕は肥料とされてゐる。

滿洲大豆狀況 滿洲は世界唯一の大豆供給地であり滿洲國輸出總額の約三三%は大豆によつて占められ、歐洲諸國殊に獨逸、英國並に日本、支那を主要市場としてゐるが獨逸では國際收支上昨年滿洲大豆輸入禁止を企て成功しなかつたが昨年に於ても輸入は著減した。又英國も輸入を阻止しつゝあり、更に米國大豆の歐洲進出もあり滿洲の大豆單一栽培に不安を來たし北滿に小麥、南滿に棉花を栽培せしめんとする所謂「北麥南棉」政策が唱へられてゐる。

滿洲國大豆主要國別輸出額

日 本	十 年												九 年											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
八、五七〇千擔	一、一七五	二、六四九	一、〇九〇	四、〇四八	四、九六六	三、三六九	三、三六九	一、六八八	二、三三九	四、〇三九	三、二九八千擔	三、二九八千擔	八、五五五	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇	二、六六〇
支 那	二、六四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五	八、五五五
蘇 聯	一、〇九〇	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九	三、〇四九
英 國	四、〇四八	一、八二五	一、八二五	一、八二五	一、八二五	一、八二五	一、八二五	一、八二五	一、八二五	一、八二五	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六	二、四六六
獨 逸	四、九六六	三、三六九	三、三六九	三、三六九	三、三六九	三、三六九	三、三六九	三、三六九	三、三六九	三、三六九	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四	三、一七四
埃 及	三、三六九	一、六八八	一、六八八	一、六八八	一、六八八	一、六八八	一、六八八	一、六八八	一、六八八	一、六八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八	八、八八八
其 他 共 計	三、三三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九	四、〇三九

滿洲大豆の市價變動は銀建に關聯して著しいものがある、尤も本年十月下旬大連市場受渡不能問題は銀相場の關係のみではなく、收穫が約半月遅れた事、新京哈爾濱間鐵道ゲージ變更のための貨車繰不圓滑、奥地金融業者の疲弊による買出遅れ、奥地降雨による出廻遅れ等が絡み合ひ、品不足を來たした結果で、一ヶ月間に四割もの暴騰（現物百斤四圓三十錢が五圓九〇錢に暴騰）となつた爲である。又降雨多量の爲搾油量の少い不良品所謂「水豆」が全産額の約半に達すると問題になつてゐる。

大連大豆現物相場（百斤、銀圓建）

昭 和 十 年	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
最 高	五・〇七	五・〇七	四・八九	五・〇二	四・九五	四・五八	四・三	四・三九	四・四〇	五・六	五・九	六・二七
最 低	四・六	四・八九	四・四八	四・七四	四・三	三・三	三・三	三・九	四・三	四・三	五・〇八	五・四九
平 均	四・八〇	五・五	四・七	四・四	四・六	四・五	四・三	四・三	四・三	四・七	五・五	五・八

昭和十年

昭和九年

全國輸入高 三、三三三、八四二擔 三、三三三、八四二擔 一、七三三、八六擔 九、六六、六〇圓
 内 阪 神 兩 港 一、〇八四、六九 五、八五、四三
 阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量三十七萬一千五百擔強、價格百八十九萬三千五百圓強の増加であつた。全國について見るも三百萬圓の増加を來たしたが、之は支那向精糖の輸出増加に拘らず臺灣糖の減産豫想があつた爲、爪哇糖の輸入増加を見たに依るものである。
 本邦本年砂糖輸入額の九七%までは蘭印が之を占め他は玖馬の十萬圓が主たるものである。
 兩國に於ける本年生産高及輸出高は次の通りである。

爪 玖 馬	生 産 高												輸 出 高											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
爪 哇	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	二、五七、三五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	
玖 馬	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	五、三三、五五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	一、〇七、七五噸	

需 給 狀 况 (昭和十年)
 生 産 高 一、九、五九、四七擔
 輸 入 高 二、六五、〇〇
 輸 出 高 四、六九、一六六
 消 費 高 一、七、七七、九七九

市 價 推 移 (十年大阪分蜜中双毎月平均相場)
 一月 一七・七二
 二月 一六・八四
 三月 一六・〇七
 四月 一五・三
 五月 一五・八四
 六月 一六・〇一
 七月 一六・三
 八月 一六・三四
 九月 一六・五
 十月 一七・五五
 十一月 一七・九
 十二月 一七・三

昭和九年末の端境人氣を受け年初は手堅かつたが、四月には新糖倉出し、ギルダ貨切下懸念はづれの反動等で低落した。其後強氣一點の買集めで相場は昂騰した。全年を通じて一般消費増大から手持不足の強人氣となり、相場は強調に推移した。

原料品及原料用製品

木材

全国輸入高	十一年	四九七五、二六圓	九一年	四〇、一八三、〇五圓
内阪神兩港		三六、二八、〇七		三二、一九、七〇

阪神兩港本年の輸入は前年に比し、三百九十八萬圓の増加を示した。

全国に於ても九百五十九萬圓を増加したが、之は政府が本邦バルブ原木の保続供給策として樺太材の移入、(從來千萬石前後)を半額以下に制限した爲、價額割安の米材、南洋材の輸入増加が主要原因であり、又本邦ベニヤ板工業の躍進による原料輸入、對加通商擁護法發動による、米材の思惑輸入等も擧げ得る。

材種別輸入に就いて見れば其の大部分は「パイン、ファア、シダー」等の針葉樹が過半数を占め、次表に見る如く、七四・六%を占めてゐる。第二位の南洋材は前者の1/4にも達せぬが次第に増加傾向にある。

材種別輸入高(昭和十年)

パイン、ファア、シダー、ヘムロック及スプルス等針葉樹	一、三五四、三三(立方米)	三七、三六、五六圓(七四・六%)
南洋材	四〇、一五〇	九、〇八、九八(二八・三)
チーク	七、七九四	一、四七〇、一六(二・三)
綿黒檀	一〇一、九三(百斤)	六、六、〇六(一・三)
其他ノ黒檀紫檀等	九五、九七	三、一、三九(〇・六)
ドロノキ及ハコヤナギ	一四六、四四	四、〇、〇六(〇・六)
桐	八、二八五	八三、一四(二・三)
其他		八、六、〇三(一・七)

計

主要仕入國は米國(二千八百二十三萬圓)、加奈陀(八百二十六萬圓)、比律賓(五百十萬圓)、英領ボルネオ(二百五十四萬圓) 蘭印(二百二十二萬圓)、暹羅(百六十二萬圓)である。

市價推移 米松大角材 大阪卸賣昭和十年月別相場(一立方尺建)(大阪商工会議所調)

一月	二月	三月	四月	五月	六月
九六・〇	九五・〇	九三・五	九三・〇	九二・〇	九三・五
七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
九六・〇	九六・〇	九七・〇	九六・〇	九六・〇	九六・〇

採油用原料

全国輸入高

十一年 五、七四、九三擔 四三、〇七、七〇六圓

九一年 三、九五、六九擔 二五、三五、四四圓

内阪神兩港

三、八六、二元 二六、八四、九〇

二、六七、八八 二五、五四、三九

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量百二十三萬四千擔、價額一千百三十萬三千圓の激増であつた。之は全く本邦製油業の發達による需要増加のためであつて、植物油輸出の如きは米國向激増により未曾有の額に達し、昨年の一萬擔に比し、實に三倍弱の躍進を見せてゐる。

主要仕入國は滿洲國(一千八百七十一萬圓)、支那(一千七百六十三萬圓)、蘭印(三百六十九萬圓)、亞爾然丁(百六十五圓)等である。

滿洲よりの輸入は昨年の一、千四十五萬圓から一千八百七十一萬圓に激増した、之は滿洲蘇子、棉子の生産増加に伴ふ輸入増によるもので、蘇子は一部大連にて消費する以外全部日本に輸入し、之を油として米國に輸出する。棉子輸

入増加は滿洲國棉花栽培獎勵による生産増によるものである。

支那よりの輸入増は棉子、菜子の増加による。

亞爾然丁よりの輸入は昨年の十八萬圓から一躍百六十五萬圓に激増した。之は對亞片貿易調整上、對亞輸出組合の輸入補償制度が設けられ、之により亞麻仁の輸入が増加した爲である。

品種別輸入高 (十年) (全國)

胡麻子	三六四、二七擔	四、五四、八三圓	大麻子	二五二、〇九擔	一、六〇、一〇三圓
荏胡麻子	一、〇七〇、四九五	二、三三、八三三	蓖麻子	三、四三、五五	三、三六、一〇六
菜子	一、〇九三、〇二〇	八、七九、一五三	棉子	一、六五五、〇三三	六、一八、〇八四
芥子	一七、九四七	二、七、六八七	コブラ	二、五九、二三八	三、三三、七一九
亞麻子	三六、一九五	三、四四、四六四	其他	二八、八四四	一、四七、三九三

市價推移 大阪沖渡 代表品百斤建 (單位圓) (吉原製油株式会社調)

茶種	荏胡麻	棉實	ヒマシ	茶種	荏胡麻	棉實	ヒマシ
(支那産)	(支那産)	(支那産)	(滿洲産)	(支那産)	(支那産)	(支那産)	(滿洲産)
一月	八・〇〇	一一・四〇	四・三〇	七月	七・三五	九・八〇	三・四〇
二月	九・二〇	三・八〇	四・六〇	八月	七・六五	九・〇〇	三・四〇
三月	九・七〇	三・〇〇	四・八〇	九月	七・九〇	八・八〇	三・七〇
四月	八・四〇	二・〇九	四・三〇	十月	九・四〇	二・〇〇	五・〇〇
五月	八・三〇	二・三〇	四・五	十一月	九・五〇	九・四〇	四・八〇
六月	七・八〇	二・〇八	三・八〇	十二月	九・三〇	九・〇〇	四・四〇

牛皮及水牛皮

十年

九年

全國輸入高
内阪神兩港

四六、〇三擔
三七、二五八

三六、三七擔
二七、二六一

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量三萬四千四百擔餘、價額百六十九萬九千圓弱の激増を見た。之は勿論本邦に於ける靴、鞆其他皮革製品の需要増並に製革業の發展の外、軍需用としての消費増加によるものである。

主要仕入國は米國(六百十四萬九千圓)、支那(四百五十八萬九千圓)、濠洲(二百十八萬三千圓)、ウルグアイ(百七十萬四千圓)等であり、支那原皮は牛蛇其他虫害により品質悪く厚物に適合せず、豐量、良質の米國沿岸州物に壓迫されつゝある。更に本年年初には銀高の影響により米國物百斤六十圓見當に對し、青島牛皮は七十一圓の高値となり、當時は輸出皆無の状態を呈した。又濠洲、ウルグアイの輸入が前年に比し倍増した事は注意を要する。

〔需給狀況〕 前年の狀況に就いて見れば國內需要の七〇%を輸入に仰いでゐる現狀で、國策上から見ると自給は重要問題であり朝鮮、滿洲牛の振興、豚皮、鯨皮での代用研究が進められてゐる。

本邦牛皮需給 (單位千枚) (國勢グラフによる)

昭和九年
十年

生産	三三六	輸入	一一、二五	移入	一四	計	一、五九五
			一、二六				

革類

十年

九年

全國輸入高
内阪神兩港

一、四三、三三斤
一、三三、八五九

一、四三、三三斤
一、三三、七五五

本年阪神兩港の輸入を前年に比すれば七萬七千斤、二十八萬八千圓の増加であつた。

本品の輸入は本邦製革業の進展と共に漸次減少傾向にあり、唯一部特殊高級品類の輸入に止つてゐたのであるが昭和八年以來革製品の需要増加により再び輸入増加傾向にある。

品種別輸入高(全國)

品種	十年		九年	
	輸入高	單位	輸入高	單位
牛馬及羊革	1,004,840尺	4,831,366圓	1,311,540尺	4,703,759圓
塗リタルモノ	6,475	41,997	6,406	35,743
染又ハ着色ノモノ	221,771	1,933,940	158,835	1,688,888
靴底革	38,887	62,153	26,623	54,569
其他ノ牛馬革	39,014	53,503	40,730	55,885
ローラーレザー	110,110	17,814	111,011	33,539
其他ノ羊革	1,077,951	2,633,700	1,099,675	2,856,125
其他ノ革類	177,494	140,775	311,361	260,047

主要仕入國は印度(二百五十一萬八千圓)が總額の五一%を占め第一位にあり、他は獨逸(九十五萬九千圓)、米國(九十五萬八千圓)、英國(十九萬一千圓)等の順位にある。

生ゴム

品種	九年		十年	
	輸入高	單位	輸入高	單位
全國輸入高	9,469,333擔	5,366,055圓	11,970,533擔	5,377,923圓
内 阪神兩港	5,467,670	3,137,877	7,551,551	3,333,361

阪神兩港本年の輸入を前年に比べると數量約二十萬一千擔、價額八百八萬四千圓の激減であつた。ゴム製品、殊にゴム靴の輸出は近年各國の關稅障壁により著しく減退し、總額に於ても昭和八年を境として減少傾向にあり生ゴムの輸入もこの情勢に従つてゐる。

主要仕入國は海峽殖民地(二千四百十二萬圓)が約半額を占め他は蘭印(一千百六十六萬圓)佛印(百七十七萬圓)英印(十八萬圓)等が之に次いでゐる。

國際ゴム限産協定は昨年四月生産の九五%を占める次記各國がロンドンに會商し、決定せられた、其の標準生産割當は次表の如くである。(單位千トン)

國名	九年	十年	十一年	十二年	十三年
英領馬來	504	538	599	599	603
蘭領印度	353	400	500	500	500
錫蘭	77.5	79	81	81	83.5
英領印度	68.5	79	123.5	123.5	131
ピルマ	51.5	8	8.5	9	9.5
北ボルネオ	22	13	14	15.5	16.5
サラワク	24	26	26	32.5	33
シヤム	15	40	40	40	40
合計	9,469	11,285	12,554	13,965	14,353

之に依つて供給を調節し、變動の激しかったゴム價を維持せんとするものであつて一般から好感を以て迎へられてゐる。

市價推移 一、二月は米國高を入れて昨年末來の四一錢に保合つたが三、四、五月はギルダ貨不安、米國インフレ反動、白國平價切下等により三七、八錢に低落、六月に入り米國筋の買付、英國の在荷減少等にて四〇錢によりたるも七、八、九月は蘭印の生産制限統制不安、米國消費減見込により再落し、三七錢八厘となる十、十一、十二月は伊エ戰爭見越、世界ゴム限産率擴張、蘭印剩餘ターボン二萬噸の蘭印政府買上、ソ聯買出動によるロンドン在荷の減少等にて四二錢三、四厘と上昇し越年す。

神戸市生ゴム卸賣相場 (F、A、Q一封度建)

一月	四〇	二月	四〇	三月	三六	四月	三七	五月	三六	六月	四〇
七月	三六	八月	三六	九月	三〇	十月	三〇	十一月	三〇	十二月	四〇

棉 花

十年

九年

全國輸入高 三、二六五、七三擔 七四、六、四〇圓
 内阪神兩港 一〇、六一、六三九 六四、六五、一〇〇
 一三、五五八、五五擔 三三、四四八、六六圓
 二、九三、六六九 六五、〇六、七七五

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量百十七萬二千擔、價格二千四十一萬四千圓弱の減少であつた。之は主として綿布輸出不振に伴ふ紡績操短率四%擴張並に綿布採算低下と米棉政策不安による原棉買付躊躇に依るものである。

本年棉花輸入額七億一千四百萬圓は本邦輸入總額の二九%に相當し、例年の如く輸出の第一位綿布に相對し輸入の第一位にある。

其の主要輸入國は米國(三億七千二百萬圓)印度(二億五千九百萬圓)埃及(四千三百萬圓)支那(二千萬圓)である。米棉 九年に比し二千九百萬圓の減少で、之は前年の凶作及米國政府の米棉價格鈞上策(減反政策)による割高及び政府の賣止、其他人爲策の爲買付が圓滑に行はれなかつた事によるものである。

印棉 九年に比し數量に於ては約一割減であつたが、米棉高に伴ふ單價の昂騰により六百六十萬圓の増加を見た。而して日印協定による棉花百五十萬俵對綿布四億碼の交換第二年度實績は棉花百七十二萬一千俵の輸入に對し、綿布輸出は四億七千萬碼で初年度よりの持越及再輸出量を加へた割當量四億八千九百萬碼に對する積残り一千九百萬碼を生じた。之は日本にとり不利な結果である事は明である。

埃及棉 十年の輸入額は九年に比し三百二十二萬圓の増であつたが、數量に於ては却つて二・三%の減少を見た。之は九年度に於ては米棉との値額が異常に縮少し、埃棉短纖維物從來の用途たる瓦斯糸原料以外に米棉毛筋物の代用

として使用され、記録的數量、五十五萬擔に達したものが十年に入り、兩者の値額略常態に復し、短纖維物の買付量稍減少し、高級品の入荷多かりしに因る。
 支那棉 十年の輸入額は前年に比し五百萬圓の増加を見た、之は昨年の銀騰貴による支那棉輸入激減に對し、十年十月以降上海對日爲替の急落により支那綿輸入が引合ふ様になり、又北支に於ける米棉種増殖と相俟ち、例年支那棉は紡績原料以外のものが過半数を占めるのであるが、内地紡績が端境期に於ける米棉代用として多量に買付けた事によるものである。

需 給 状 况 (昭和十年)

前年ヨリノ持越	四、〇〇九千擔	紡績消費	二、七四九千擔
輸 入 高	一三、二八四	再 輸 出	四六
移 入 高	三五	一 般 消 費	六〇〇
計	一六、五八	計	一三、七四
		差引年末在荷	二、七六

市價推移 昭和十年大阪月末相場

米棉(ストリング)	印棉(アコラ)	米棉	印棉	米棉	印棉
一月	六六・七五	二月	六六・七五	三月	六〇・五〇
四月	六四・二五	五月	六三・七五	六月	六三・五〇
七月	六三・五〇	八月	五五・七五	九月	五八・〇〇
十月	六三・五〇	十一月	六五・〇〇	十二月	六三・〇〇

麻 類

全國輸入高 十年 一、七四〇、〇六擔 二四、六八、一八圓
 内 阪神兩港 一、三三、八三三 一六、四九、四六六
 阪神兩港本年の輸入は前年に比し、數量約十五萬六千擔價格百七十四萬九千圓の増加を見たが、是は對蘇マニラロ
 一〇輸出七千噸に達し、又其の他麻工業の發展に伴ひ其原料としてマニラ麻、サイザル麻の買付著増せることに因る
 品種別輸入高 (全國)

品名	十年		九年	
	擔	圓	擔	圓
亞麻及苧麻	五、二七擔	一五〇、六七〇圓	二、三五九擔	二〇八、二五九圓
ラ	一七、三七	五、九六、六六	二五、一三四	九、〇六、六〇〇
大 麻	四、八〇七	五五二、一五三	三、一〇七	五五五、三三〇
黄 麻	三、九七五	五、三二、四三九	三、〇三五	四、五九、一三三
マニラヘンブ	一、五七、九〇五	一、三八、五七、五六	九三、三〇四	一〇、〇二九、五八〇

亞麻、苧麻 各種軍用被服、天幕、帆布、飛行機翼布、貨車覆、ホース等用途廣く且國防上にも重要原料であるに
 も拘らず、其の需要の大部分を支那に仰いでをり、本年輸入は對支爲替の變動甚だしかりし爲幾分の減少を見た。本
 邦では昭和五年以降苧麻栽培獎勵金が交附され、増殖に努め、十年の作付反別二千町歩、産額八千擔となつたが需要
 額の二〇萬擔に比し未だ問題とならぬ。
 大麻 古來我國に於て單に麻と云はれたものであり、蚊帳、繩索の原料として用ひられ、輸入品は支那産を主とす
 る。
 黄麻 主として印度より輸入し、綾物袋、所謂ガンニーバック或は棉花、綿糸布包装用のベシアンクロス等に用
 ひられ、其他地氈、帆布、紐、紙の原料とせられる。
 マニラ麻 本邦麻類輸入額の約半額以上に達してをり、製綱には不可欠のものである。

市價推移 神戸相場 (俵建)

品名	一月	十月	十二月	一月	二月	三月	四月	七月
マニラ麻	六八・五〇	八八・〇〇	五五・〇〇	三〇圓	三〇圓	三〇圓	三〇圓	三〇圓
Y ₃ J ₂	一七・五〇	四〇・〇〇	三三・〇〇	八月	九月	十月	十一月	十二月
J ₁	三三・〇〇	五二・〇〇	七五・〇〇	二七圓	二六圓	三三圓	三三圓	三三圓
ダバオ J ₁								

苧 麻 (擔建)

品名	一月	二月	三月	四月	七月
亞麻	三〇圓	三〇圓	三〇圓	三〇圓	三〇圓
大麻	三〇圓	三〇圓	三〇圓	三〇圓	三〇圓
黄麻	三〇圓	三〇圓	三〇圓	三〇圓	三〇圓

全國輸入高 十年 一、八四〇、九〇擔 一九一、七六、八七圓
 内 阪神兩港 六二五、五二七 一〇、九一、七三三
 阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量約十一萬擔の増加であつたに拘らず、價格は却つて四百五十四萬三千圓の減
 少であつた。阪神兩港の本品輸入額は全國の三六%に相當し、他は横濱の四千七十一萬圓を主とする。
 全國輸入高は九年に比し數量に於て四十六萬八千擔、價格五百三十萬圓の増加を見たが之は我國羊毛工業發達によ
 る既設會社の増設或は綿紡會社筋の羊毛界進出が原毛需要の増大を來だした爲である。
 本邦羊毛十年輸入額一億九千七百七十六萬圓中其の九九・六%に當る一億八千二百萬圓は濠洲に之を仰ぎ、他は新西
 蘭(四百萬圓)南阿聯邦(百八十七萬圓)及南米で我國原料政策上分散買付が主張されてゐる。
 濠毛 價格の割安、本邦羊毛工業多年の使ひ慣れ等有利な條件を有する濠毛は本邦羊毛工業の進展に伴ふ原毛需要
 増加を滿たす爲上記の如く十年輸入量は從來の記録を破り、六十三萬五千俵に達し、九年に比し約六萬五千俵の増加
 を見た。
 同國の十年中羊毛輸出は三百九萬三千俵で英、日、白、佛、獨、伊、米等に仕向けられ、前年に比し英、日、白、

米には輸出増加を見たが他の國への輸出は輸入制限乃至バーター採用により著減を來たした。
新西蘭毛 今年度羊毛競市出品高は十三萬四千俵の著減を示し、日本筋は英、佛筋に壓され、前年の買付總量三萬八千俵に比し、十年度買付量は僅に二萬俵に減少した。

同國十年中羊毛生産概數は五十一萬六千俵、輸出概數は四十四萬二千俵、主要仕向國は英、佛、白、獨、日で總輸出量の約四割は英國向である。

南阿聯邦毛 日本側の著しい出超關係にある日阿貿易調整と本邦羊毛國策上、九年度には第一回共同買付組織により約二萬俵を買付けたが、本年は約七千俵に過ぎなかつた。この買付激減の原因としては南阿羊毛の割高（濠毛との値鞘一俵に付約六十圓）及び買付時期を失し買進み不能を來たした事を挙げ得る。

南阿羊毛十年中輸出は約七十八萬俵で主要仕向國は英、獨、佛、伊、白、日であり、貿易政策上の影響を受けた獨、佛、伊向は増加し、日、米向は減少した。

アルゼンチン羊毛 獨逸、アルゼンチン間バーター制により獨逸は本年度に六萬俵買付の義務を負ひ、本年頭初より獨逸筋の成行的買付の爲二割以上の高値を以て蓋開し全期を通じて相場は割高となり、濠洲羊毛に執着心を持つ本邦羊毛工業者からは發注絶無の状態であつたが、日本アルゼンチン輸出組合の助成金交附により一千五百俵の輸入を見た。然し之は前年の一萬二千俵に比し、約半に激減したものである。

市價推移 昭和十年神戸羊毛相場月平均（洗上一封度建）

細手メリノ	一月	二月	三月	四月	五月	六月
太手メリノ	一、八五錢	一、八五錢	一、八三錢	一、九〇錢	二、〇五錢	二、三三錢
カムバツク	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、九一	二、〇六
細手メリノ	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
太手メリノ	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、八四	一、八四
細手メリノ	二、三三	二、三三	二、四九	二、五三	二、五七	二、五七
太手メリノ	一、〇九	一、〇九	二、一四	二、一九	二、一九	二、三三

カムバツク

燐 礦 石

全國輸入高 三、六八、〇〇〇擔 三、〇九、六九圓
 内 阪神兩港 五、五三、二六 八、五三、四四六
 阪神兩港本年の輸入は昨年比し數量約七十九萬二千擔の増加を示し價額も亦百九十一萬六千圓の増加を見た。之は過燐酸石灰の需要増によるものである。
 過燐酸肥料製造に不可欠の本品は國産としては僅に年額六萬噸内外を南洋群島のアンガウル島とラサ島から産するに止まり需要の大部分は輸入に俟つてゐる。
 主要仕入國は埃及（六百十五萬圓）米國（四百五十二萬圓）ギルバート及エリス島（三百六十九萬圓）ソサイエティ諸島（二百二十八萬圓）海峽殖民地（百五十萬圓）等である。

硫 安

全國輸入高 三、九六、六六擔 三、〇六、三五圓
 内 阪神兩港 二、三三、九九 二、三三、九九
 阪神兩港本年の輸入は前年に比し九十四萬八千擔弱、五百二十九萬六千餘圓の激増を見た。之は國産品の激増に拘らず、大豆粕方面への侵入、其他需要の増大から供給不足に陥り、滿洲國、獨逸等から輸入増加せるためである。
 主要仕入國は獨逸（二千三百九十八萬五千圓）が六〇%を占め第一位にあり、第二位の滿洲國は前年の二十九萬三千

四から一躍五百八十三萬七千圓に増加したが之は滿洲化學會社の生産開始によるものである。其他は關東州(三十九萬五千圓)英國(三十萬圓)米國(二十八萬五千圓)である。

需給狀況 本邦窒素工業は大正十二年頃から興り近年急激に發展を見、昨今では獨逸に次ぐ生産高を示すに至つた。依つて輸入は減少すべき筈であるが消費が旺盛である爲依然輸入を續けてゐる。

生	六三、三六九	八三、七〇五	六、三〇千圓
輸入	三九、五九	二〇、九〇一	一三、八七
輸出	五、九六	一、四四	一三
内地需要	一、九四、八〇三	一〇三、八六五	六二、一八三

(生産ニ商工省調査、輸出入ニ外國貿易月表)

即ち本年生産高は九十六萬噸、輸入は二十四萬噸を示してゐる。然るに各硫安會社では多角經營を行ひ、其の生産するアンモニアを單に硫安製造にのみ向けず、アンモニア水、硝酸等有利な方面に消費し硫安製造の全能力を發揮してをらぬ現状にあり、自給自足の域に達するには尙三、四年を要するものと思はれる。

市價推移 大阪市卸賣相場 米國物十貫建 單位圓

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
三・六〇	三・五	三・九〇	四・〇五	四・〇五	四・三五	三・九八	四・〇五
九月	十月	十一月	十二月	十年平均	九年平均	八年平均	
四・四〇	四・三	四・三	四・三	四・一六	三・六	三・五	

油 槽

十 年

九 年

全國輸入高	九、六〇三、一八〇擔	三、六七八、三三五圓	二、一三三、八七擔	四、〇五三、〇〇圓
内阪神兩港	二、九四三、八九五	一、二七四、九四四	四、〇八、一八五	一、三〇七、九一八

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量百七萬五千擔、價額百三十三萬圓の減少であつた。之は大豆粕の輸入減少によるもので其他油粕に於ては却つて増加を見てゐる。

主要仕入國 滿洲(二千三百九十六萬五千圓)關東州(七百二十七萬四千圓)支那(六百九萬七千圓)等である。

品種別輸入高 (全國)

豆 粕	七、一九、六六擔	三〇、二九三、七二圓	一〇、七七一、三三擔	三四、四〇九、八八圓
棉 子 粕	一、〇〇三、三九五	四、四九九、一三〇	一、四〇三、六二九	四、六七三、三三五
菜 子 粕	五九六、八五	一、六八、九三三	五八七、四二九	一、八六八、〇三七
其 他	六三、八七四	一、九七、二九一	三、五、六三七	一、二一、九三三

即ち滿洲よりの豆粕が大部分を占めてをり、本年の輸入減少は滿洲大豆相場の昂騰により硫安其他肥料に壓迫された結果である。棉子粕は全部支那より輸入し、菜子粕も大部分を支那に求め、他は英印、蘭印である。

市價推移 大阪市卸賣相場

昭和十年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	九年平均
大豆油粕(一枚四十六斤)	一・八四	二・〇四	二・〇四	二・三	一・八四	一・六	一・七三	一・八	二・〇六	二・〇八	二・〇八	一・六六	一・五二
菜種油粕(百斤)	五・五	五・五	五・四	五・二〇	四・九〇	四・六	四・四八	四・六	四・六	四・六	四・六	四・五	四・九

苛性曹達(粗製)曹達灰及天然曹達

十年

九年

全國輸入高
 内阪神兩港
 九七〇、七七七擔 五、四九二、一七四圓
 七九四、四五五 四、八〇三、三二〇

大阪、四五四擔 四、五五、七三三圓
 四七、三三〇 二、八〇、九三五

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量三十四萬七千擔、價額一百九十四萬一千圓の激増であつた。
 全國輸入額は五百五十萬圓弱、主として英國(二百四十七萬圓)ケニヤ・ウガンダ・タンガニカ(百二十萬八千圓)より輸入される。十年の輸入増加は英國I、C、I社のダンピング的安賣に刺戟されたもの、如くである。即ちアルカリ界に於て世界最大の販賣網を有する英國イムベリアル・ケミカル・インダストリー會社の日本販賣會社プラナモンド社が我國曹達工業の急激な發展による海外進出を牽制せんとし、我國曹達業者との間に輸出協定を結ぶ準備としてダンピング的安賣の舉に出た。之により英品は内地製品に比し割安となり、一時的に輸入増を見たものである。

品種別輸入高

昭和十年

昭和九年

苛性曹達(粗製)	三三、三四擔	二、九三、四〇圓	一六、四八擔	一、五三、八六圓
曹達灰	二六、七九八	一、五四、三五	二七、七〇	一、三〇、八三
天然曹達灰	三五、九三一	一、一〇、一五	三〇、三八	一、四九、〇八
天然曹達	七三	四、六四	三、八九	二六、九三

苛性曹達	十年 三三、三九九	九年 一六、四八八	十年 一九、三三七	九年 一六、二九二
生	二七、四六	二二、三三	三〇、五二	一五、四〇
輸	一九、九六	九、九八	三六、三三	三七、二九
入	二五、七九	一六、〇八	二〇、〇四	一七、〇八
消				

需給狀況

苛性曹達は石鹼製造、パルプ、人絹の製造原料、石油の精製等に使用され、曹達灰は硝子製造、石鹼、陶器、各種ナトリウム塩の製造等の原料となり近來本邦此等工業の躍進に伴ひ曹達工業生産高は増加著しく前表の如く大體自給自足の域に達した。

市價推移 (内地市場値)

苛性曹達(百斤建)	一月—四月	五月—七月	一月—三月	四月—六月	一月—四月	五月—十二月
曹達重灰(百斤建)	一六、五〇	一六、〇〇	八、〇〇	八、六〇	六、七七	六、五〇
曹達輕灰(七〇斤建)	一五、〇〇	一四、八〇	八、五〇	八、四〇	六、五〇	六、五〇

漆

十年

九年

全國輸入高
 内阪神兩港
 三、七四擔 二、九四、五三圓
 二、二四 二、七六、〇六

大阪、三五四擔 二、九八、五〇九圓
 二七、二六 二、八五、五七

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量一千八百七十五擔の増加、價額約十二萬五千圓強の減少を見た。
 全國に就いて見れば三萬擔を突破し未曾有の輸入量を示したが、價額に於ては前年より若干減少を見、昭和二年の二萬三千擔、四百九十九萬圓に比すれば單價の下落其の著しいものがある。

仕入國 支那(百七十八萬七千圓)及び佛印(百十三萬七千圓)で、佛印物の廉價及品質の改良で支那品は次第に壓迫されつゝある。支那産は主として漢口、宜昌を集散地とし全生産高の約半量を日本に輸出し、他は支那内地の消費に向けられる。佛印産は主に本邦向として生産され、従つて其の相場は日本の影響を受ける事が大で、二、三、三年間に約半値となり、生産者は減産を企圖してゐる由。

因に本年漆器の生産額は商工省工務局調によると一千七百九十六萬圓餘である。又漆器輸出は近年漸増傾向にあり七年百十九萬圓、八年二百三十七萬圓、九年二百五十七萬圓と増加し、十年には幾分減少を見たが尙二百五十一萬圓をを見た。

合成染料

全國輸入額		内阪神兩港	
十年	二〇九四、八九九斤	九、三三、五七圓	一、八五九、四七斤
九年	二、〇三〇、四八五	九、三三四、三三九	一、四四四、九〇八
十年	九、三三、五七圓	七、三三四、三三九	七、三三四、三三九
九年	九、三三、五七圓	七、三三四、三三九	七、三三四、三三九

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量五十九萬六千斤、價額百八十萬九千圓の増加であつた。
本邦染料工業は染織工業の躍進と共に近年著しき發展を見て居るものゝ高級品は今尙輸入に仰ぐ有様で、其の額亦漸増傾向にある。

主要仕入國は獨逸(五百七十一萬六千圓)が過半を占め、他は瑞西(百七十九萬圓)米國(百三十九萬圓)等である。
品種別輸入高 直接染料が二四%を占め第一位にあり、以下酸性染料、建築染料の各々二〇%、媒染々料の一九%等が之に次いでゐる。

品名	數量(噸)	價額(千圓)
人造藍	九四、三三斤	一、六八、〇二圓
鹽基性	一八、〇六七	八、八七、七三
直接性	五、四、六六一	三、三三、三三
酸性	四七、八六六	一、九元、四六
媒染及酸性媒染	四八、三四五	一、三三、〇二
其他	一、三三、〇二	一、三三、〇二

供給狀況 本年内地生産高は一萬八千五百噸と推定され、この内八千八百噸は輸出に向けられたが唯高級品の生産に不足する爲一千二百噸餘の輸入を見たが、數量の割に價額大で今後高級品國産が肝要とされてゐる。

數量(噸)

價額(千圓)

年	生産	輸入	輸出	差引需要	生産	輸入	輸出	差引需要
十年	一八、五〇〇	一、二、三六	八、八八三	一〇、八七四	九、三三八	七、三〇四	—	—
九年	一七、一六	一、一〇五	六、四二〇	二、七九八	九、一四七	四、三三八	—	—
八年	一五、九七三	九七三	六、一六	一〇、八元	八、〇六〇	二、八五	—	—
七年	一四、一〇九	一、九七五	四、五三	二、五五三	一〇、二二〇	一、五三三	—	—
六年	九、七四四	一、九八八	二、〇一一	九、七三	八、五〇二	五〇九	—	—

市價推移 大阪市卸賣相場 (單位圓)

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
黑色硫化染料(百斤)	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇
人造藍(樟百十二封度入)	二元二・〇二	共八五	二八・八五	二八・五	二八・七〇	二八・七〇	二八・七〇	二八・七〇
九月	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇
十月	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇
十一月	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇
十二月	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇
十年平均	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇
九年平均	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇
八年平均	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇

綿織糸 (特殊綿糸共)

品名	十年	九年
全國輸入高	五、三六、三六斤	五、三三、四〇圓
内阪神兩港	五、三六、三六	四、八四、五一
十年	一七、三三、二八〇斤	一四、八六、〇九六圓
九年	一三、七五、七四九	一三、二五、一八四

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量八百五十二萬六千斤、價額六百四十萬四千圓の激減であつた。之は全く支那及關東州よりの輸入減少によるものであり、英國を主とする特殊綿糸の如きは却つて幾分の増加を示した。

即ち全國昨年支那よりの輸入六百三十八萬圓は本年は銀高其他の關係から昨年の四分の一、百三十萬圓に激減を見、關東州よりの輸入も昨年の五百五十七萬圓から二百十三萬圓に半減した。

品種別主要國別輸入額

品種	關東州		支那		英國		其他共計	
	十年	九年	十年	九年	十年	九年	十年	九年
英式番手二十四以下	一、七四七、六九圓	四、四六四圓	一、八一九、四六圓	一、八一九、四六圓	一、八一九、四六圓	一、八一九、四六圓	一、八一九、四六圓	一、八一九、四六圓
〃 四十二	二、八〇六、五二二	三、五五〇、〇六五	六、三三三、一七一	六、三三三、一七一	一、八三三、二五八	一、八三三、二五八	一、八三三、二五八	一、八三三、二五八
〃 六十	三、五七六、三三	六、四九四	一、八三三、二五八	一、八三三、二五八	五、〇三三、二五八	五、〇三三、二五八	五、〇三三、二五八	五、〇三三、二五八
〃 八十	二、三〇五、七九	二、七〇七、六三三	二、七〇七、六三三	二、七〇七、六三三	八、四三〇	八、四三〇	八、四三〇	八、四三〇
〃 其他	九、九	八、四三〇	九、〇七八	九、〇七八	一、六九二、二七	一、六九二、二七	一、六九二、二七	一、六九二、二七
特殊總織糸	九、九	三、五五〇、〇六五	三、五五〇、〇六五	三、五五〇、〇六五	三、五五〇、〇六五	三、五五〇、〇六五	三、五五〇、〇六五	三、五五〇、〇六五
計	九、九	一、三〇八、九九	一、三〇八、九九	一、三〇八、九九	一、三〇八、九九	一、三〇八、九九	一、三〇八、九九	一、三〇八、九九

全國輸入高
 十年 四、五九七、九七擔 五、一〇一、二八圓
 九年 三、八四六、六六擔 四、二五五、七五圓

内 製紙用 二、四三〇、六六 三、一七二、五二
 内 人絹用 二、二九一、二六 三、〇五九、〇〇
 内 阪神兩港 二、七二一、二六 三、八四三、六五

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量三十六萬七千二百九十擔、價額六百二十萬五千圓の増加であつた。全國について見るも數量七十五萬五千擔、價額一千八十四萬圓の激増を來たした。之は我國製紙並に人絹業近年の異常な發展に對し國産バルブの増産も追ひ付けず、輸入の増加を齎したものである。

人絹、洋紙生産高累年表 (單位百萬封度)

品名	十年	九年	八年	七年	六年
人絹糸生産高	三〇	一六	〇	〇	〇
洋紙生産高	一、七九	一、五九	一、四四	一、三二	一、三二

(人絹聯合會調)
 (製紙聯合會調)

即ち人絹糸生産は前年に比し四五%増、六年に較ぶれば實に四倍餘に達してゐる。洋紙生産は前年に比し八%の増加であつた。

需給狀況 製紙用は大體自給の域に達したが、人絹用は未だ需要の大部分を輸入に依頼してゐる。即ち、製紙用にあつては十年使用バルブは七十四萬四千噸、之に應ずる國內生産は六十九萬噸、輸入は十四萬四千噸で國産バルブは總供給高の八三%を占めてゐる。

人絹用バルブ十年の需要高は十一萬六千噸、之に對する供給高は十四萬六千噸、其の内國産は未だ三萬噸に過ぎず輸入は十二萬七千噸に達し、總供給高の八六%に上つてゐる。

生産 本邦バルブ原木の使用は昭和九年に於て七百九十一萬六千石で其の大部分は樺太材(七七%三)であり、其他北海道材(二四%一)朝鮮材(四%)を使用してゐる。而して使用量の九五%八までは王子製紙の占むる所であつた。人絹バルブの國産化は次第に實現化されつゝある。即ち、玉子製紙が十年六月末に樺太野田泊居工場の年産約四萬噸能力を完成し、日本人絹バルブ工業は十一年上半期末までに年産三萬噸の能力を完成する豫定である。又滿洲方面での企業も有望と見られてゐる。

尙バルブ原料としての木材は早晚枯渴を憂慮され、代用又は混用として稻藁、甘蔗搾粕、竹、蘆、高粱莖、菓莖等が研究されてゐる。

主要仕入國 米國(二千二百八十一萬圓) 諸威(一千三百二十萬圓) 瑞典(七百七十三萬圓) 加奈陀(五百九十九萬圓) を主とする。十年七月には對加通商擁護法が發動され一時カナダよりの輸入が杜絶した爲九年に比しカナダのみは減少したが他の上記諸國からの輸入は増加著しいものがあつた。

市價推移 商工省調、東京卸賣製紙用バルブ月平均相場は一封度に付一月乃至四月は八錢、五月以降は七錢であつた。

礦油

全國輸入高
内 阪神兩港

十年
二、三三六、一四九、六六〇
二、〇三三、二四八

九年
九、四三二、二〇三、六六二
一、三七一、九六七

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量六千三百四十二萬八千ガロン、價額八百九十九萬六千圓餘の激増を見た。之は各種工業發達に伴ふ燃料並機械油の需要増、石油業法による貯油義務の發生及び自動車増加に伴ふガソリン消費増加等によるものである。

種類別輸入高

揮發油
全 國
阪 神

十年
一、五七八、四五五、ガロン
二、七〇、〇九〇

九年
一、四五四、三〇八、ガロン
一、三八、五五五

燈油
全 國
阪 神

十年
三、三六、八六五
三、三、七七七

九年
三、三、八六六
一、三、三、五九九

(比重〇、八七六ニマデ)

機械油
全 國
阪 神

十年
三、三、四四五
二、三、五八八

九年
八、五、四八、八四九
四、一、九、二、六〇〇

(比重〇、九二一八マデ其他)

原油及重油
全 國
阪 神

十年
九、八七、七七一
一、五八、八六三

九年
一、〇六、八五九
一、八、〇、五三三

主要仕入國は原油重油は米國(八千三百三十三萬六千圓)が總輸入額の七五%を占め、他は蘭印(一千八百八十六萬四千圓) 英領ボルネオ(五百四十六萬五千圓) 滿洲國(百三十一萬圓) を主とする、其他の礦油でも蘭印、米國を主とする。

昨年松方露油の輸入安賣を繞つて石油界大波瀾の後を受け、七月石油業法の實施を見、本年に入つては之に伴ふ常時六ヶ月分貯油義務に關して外油側の猛反對が起り、尙年末には貯油義務負擔輕減を理由としてガソリン値上問題(内地石油會社側ガロン當り三錢五厘値上提唱に對し、商工省は二錢五厘値上を許可し、四十六錢と裁定した)が起り、消費者の猛烈な反對運動が惹起された等多事な一年であつた。

需給狀況 本邦本年原油生産高は九千三百萬ガロン、輸入は約十倍の九億一千八百萬ガロンに達してをり、大部分をライジングサン及びスタングードの英米系二大石油會社に占められてをり、産業並に國防上の見地から昨年石油業法の實施を見、又準國産として輸入原油の國內精製獎勵をなしつつある。

而して本邦石油自給問題としては試掘獎勵金、各種鑛業稅の減免乃至は原油關稅の引上等による内地生産の増加を圖り、又北樺太の利權獲得等による供給増加が企圖せられる一方石炭液化が滿鐵、海軍の協力の下に次第に實現、工業化に進みつつある。然し産業上、國防上重大な意義を有する石油自給の問題は前途多難を思はせるものがある。

市價推移 大阪市卸賣相場 一箱(二罐入) 建

重油は四月の二圓六〇錢を除き他は二圓五〇錢保合十年平均二圓五〇錢、九年平均二圓五〇錢

燈油は年中を通じ五圓一〇錢を保合ふ、九年平均五圓一八錢
揮發油は一月五圓五〇錢、二月乃至十月五圓九〇錢、十一月、二月六圓二〇錢と昂騰し問題を惹起した、十年平均五圓九二錢、九年平均五圓四三錢

石炭

十年

九年

高國輸入高

三、九四八、八四英噸 四、九七〇、三三〇圓
一、五〇〇、九〇八 一、五〇八、五五七

三、九六六、五六英噸 四、七、一九、七元圓
一、三三三、〇八八 一、四〇三、四九六

内阪神兩港
阪神兩港本年の輸入は二萬九千噸、百八萬五千圓の激増を見た。之は本邦製鐵、軍需工業並に一般工業の旺盛及電氣事業の活況による需要増加による外、値上りによるものである。

主要仕入國は滿洲國(三千九十九萬六千圓)が總輸入額の六七%を占め、其他は佛領印度支那(九百七十九萬三千圓)支那(七百六十一萬圓)を主とする。

滿洲よりの輸入は撫順炭を主とし、佛印炭は鴻基無煙炭を主とし、朝鮮無煙炭と競争状態にあり、支那炭は開平及淄川産のもので骸炭原料として我製鐵事業にとり重要視されてゐる。

需給狀況 我國は大正十二年までは石炭輸出超過國であつたが、工業の發達に従ひ産出高は漸増せるに拘らず需要増加に追ひ付けず、輸入を増しつゝある。次表に見る如く、本年の産出高四千三百十六萬噸に對し輸入高は四百六十九萬噸である。

本邦全土石炭需給狀況 (單位千噸) (朝日經濟年史ヨリ)

生 産 高	十年	九年	八年	七年	六年
輸 入 高	四、一六三	四〇、一〇〇	三六、一五三	三二、一九〇	三〇、九八三
	四、六六九	四、〇九七	四、〇〇八	三、二六九	三、一五九

輸 出 高	一、一三八	一、二六八	一、七六六	一、五三三	一、八五五
差引國內需要高	四、六六三	三、六六八	三、八五四	三、七六六	三、二九六

尙石炭鑛業聯合會調査による十年中内地需供給狀況は次表の如し(單位千噸)

内地生産	三六、〇〇〇	輸 出	一、〇一九
輸 入	四、〇四八	移 出	七四六
移 入	一、一六三	小 計	一、七四五
移 出	四三、一一一	差引需要	四、四四六

本邦に於ける石炭の主要用途使用割合は昭和石炭會社調査によると昭和十年度に於て重工業が第一位にあり總消費高三千八百萬噸の一七・一%に相當し、次位は化學工業の一・一%、以下鐵道一〇・四%、船舶一〇・二%、窯業九・四%、染色業九・四%、電力八・一%、食料品工業五・六%、瓦斯コークス五・四%、官廳二・四%、其他一〇・九%等となつてゐる。

次に石炭企業の統制は完全に行はれ、生産方面は石炭鑛業聯合會があり、販賣方面は昭和石炭會社の設立を見、自主統制は確立された。之等自主統制強化による炭價昂上等の弊害發生對策として昨年五月石炭業は重要産業に指定され法的にも統制される事となつた。

市價推移 大阪市卸賣相場、九州炭一廻建(單位圓)

一月	二月	三月	四月	五月	五月	六月	七月
一七・一〇	一七・一〇	一七・一〇	一六・九三	一六・九三	一六・八〇	一六・八〇	一六・八〇
八月	九月	十月	十一月	十二月	十年平均	九年平均	八年平均
一六・七〇	一六・七〇	一六・七〇	一七・〇五	一七・一五	一六・九三	一六・一四	一四・〇八

穀

全國輸入高	三、三四、五五擔	七、四八七、五七圓	三、〇一九八、三三擔	八、八八四、七五圓
内阪神兩港	一、三四五、二四	四、四三三、六一	一、五三三、三三	四、五二〇、八〇八

阪神兩港本年の輸入は前年に比し、數量二十萬擔、價額五萬八千圓の微減を見た。而して全國に就いて見るも百三十九萬圓餘の減少であつた。之は本年製粉業の盛況に伴ふ内地穀生産の増加、並に總輸入の九四%を占める支那の爲替高(尤も年末には幣制改革で低落したが)等によると見られる。

因に麩は麥類製粉の副産物で、小麥の皮部麩素層及び胚が粗粉状となり、之に多少の澱粉が混じたものであり、蛋白質に富み灰分を含み消化よく、家畜、家禽の重要な濃厚飼料である。

市價推移 大阪市卸賣相場(百斤建)

十月一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
三・二五	三・八七	三・八二	三・〇五	三・三〇	二・九九	三・〇〇	三・二
九月	十月	十一月	十二月	十年平均	九年平均	八年平均	
三・四〇	三・四九	三・三三	三・二九	三・三五	三・六	二・五	

貝殼

全國輸入高	二〇七、九先擔	三、四八、〇三圓	一九一、七九擔	四、二二、六三圓
内阪神兩港	一、三、九先擔	三、三三、三一	一、八、八五	四、〇三、二六

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量四千八百六十七擔、價額七十萬圓の減少であつた。而して全國に就いて見れば前年に比し、數量増の價額減となつてをり、下級品輸入傾向が大である。

鈕釦類本年の生産高は商工省工務局調によれば前年に比し一二三三萬六千圓減の一千百十三萬圓で其内大阪府が七六%を占め第一位にあり、其他は兵庫、奈良、和歌山の近畿各縣である。従つて其の主要原料たる貝殼の輸入も阪神兩港が九八%を占めてゐる。而して貝鈕釦界は近年あまり振はず輸出に於ても下級品増加の爲數量増加の割に價額上らず、本年の如きも一千九百五萬哥、六百四十七萬圓で前年の一千九百九十七萬哥、六百六十八萬圓に比し減少を見てをり、半成品輸出を廢し、完成品として輸出する事が叫ばれてゐる。

主要仕入國は濠洲(百三十三萬二千圓)が三九%を占め第一位にあり以下支那(九十八萬三千圓)海峽殖民地(三十九萬五千圓)蘭印(三十一萬二千圓)比律賓(二十三萬六千圓)等の順位である。

鈕釦用貝殼は高瀬貝、廣瀬貝、ドブ貝、サヰエ貝、南甲貝、鮑貝、蝶貝、眞珠貝、夜光貝、烏貝等であつて、高瀬貝は主として濠洲の木曜島及太平洋上ソロモン島、ニューカレドニア島等から輸入される。廣瀬貝は臺灣、沖繩産を主とし高瀬貝の薄物代用として用ひられる。ドブ貝は主として支那から輸入され値段も高瀬貝の十分の一度である

鐵

全國輸入高	五、七九、五八擔	一〇七、二五九、三八圓	四、四九九、九六擔	一七、五五、一九七圓
内阪神兩港	一三、〇三、二〇	八、九七、七九	一九、三三、五九	八、〇二、六、七〇

阪神兩港本年の輸入は前年に比し三百四十一萬擔、六百七十萬五千圓の増加を見た。本邦製鋼業、機械工業、土木建築業並に軍需工業の旺盛及鐵製品の輸出増加は必然的に本品の輸入を増加せしめつゝある。

主要品種別について見れば屑及故鐵が第一位にあり、總數の四〇%を占め、他は銑鐵の一九%、鐵板の一一%等を主とする。

十年

九年

銑鐵	二六、三、九〇擔	四、一九、六三圓	〇、三九、六五擔	六、五八、四一圓
其他塊鐵	三、七九、五七	一八、九六、一四	一、四九〇、四二七	八、二七、六六九
鐵板	一、七六、六四	二四、六三、七九	二、六五、六四	三、五三、三三
鐵帶及箍	九六、五三	七、〇八、九八	一、二六、六四	九、六九、八四
筒及管	二八三、八四	四、四四、四七	二、四六、四三	四、四三、八三
特殊鋼	一六七、九三	八、四九、一五	一、七、九七	六、三三、〇三
屑及故鐵	二八、〇〇、五五	八、三三、九六	三、五九、八〇	六、五〇、二八

主要仕入國は米國(八千八百九十九萬圓)が第一位にあり、屑鐵を主とし、昨年比し二千七百七萬圓の増加であつた。次位は滿洲國(二千八百八十一萬圓)で専ら銑鐵を輸入してゐるのであるが、滿洲國內に製鋼業興り、日本向は昨年比し幾分減少を見た、他は獨逸(一千八百七十五萬圓)印度(一千七百五十八萬圓)白耳義(一千六百九十萬圓)英國(一千七百七十三萬圓)等である。

本邦製鐵業は國策上の見地から九年二月には製鐵合同が實現し、鋼材の生産は増加し、鋼材のみについて見る時は自給自足の域に達してゐる。然し原料鑛石は大部分を支那、海峽殖民地から輸入し、又製鋼原料としての屑鐵は主として米國から、又國產銑鐵の不足を補ふものとして滿洲、印度、ロシア、濠洲方面から輸入してゐる。

銅(塊及錠)

十年

九年

全國輸入高	一、〇八、六九擔	三、四四、〇三圓	七、五、六六擔	二、六一七、二〇八圓
内阪神兩港	五〇、三三	一六、五七、八〇	四〇三、三三	一三、五六、〇七九

阪神兩港本年の輸入高は前年に比し、九萬八千二百四十六擔、二百九十九萬一千八百圓の増加を見た。全國に於て

も同じく三十萬擔、一千萬圓餘の増加である。

斯くの如き輸入増加の原因は國內軍需工業の活況、北鐵買収による物資支拂として露國向電線類の輸出増、滿洲國向銅線の輸出増、印度向銅、眞鍮、圓銀類の輸出増、並に南洋方面への銅製品輸出増等に依る原料銅の需要が急増したに拘らず、内地主要銅山は漸く老境に達し、この需要の増大に應じ得ず、米銅の輸入増加を來たしたのである。

主要仕入國 米國が九八%を占め、三千五百八十五萬圓弱に達し、前年に比し九百七十一萬圓餘の増加である。現在我國主要産銅業者が組織する水曜會に於ては鑛石の輸入を行はず、精銅として輸入しつゝある。世界精銅集散地は倫敦或は紐育市場であり、本邦としては紐育市場よりの輸入を有利とし、前記の如く其の大部分を米國に求めてゐる。

需給狀況 (單位=噸) 銅眞鍮研究會調査

昭和十年	生産高	輸入高	年初在庫高	供給高	輸出高	年末在庫高	差引需要高
九年	六、九、四〇	三、三、六一	二、七、七三	一、三、七、四二	六、九、四〇	三、一、九九	三、四、一七
八年	六、六、九〇	四、六、九一	二、八、七三	一、二、六、五三	一、〇、九〇	三、七、七三	二、三、四六
	六、九、一〇	三、三、六一	三、〇、五三	一、五、〇九	一、五、三	二、八、七三	八、一、五二

我國は嘗ては世界有数の産銅國であり、輸出國であつたが歐洲大戰以來外國新銅鑛の發見、新式精鍊法等で外國銅に壓迫され、輸入國に轉じて以來廿年餘産出は年々減少しつゝあつたが昨年は需要増加に刺戟され幾分増加し六萬九千噸を産出し、輸入額も未曾有の六萬五千噸、従つて國內消費高に於ても十三萬四千噸の新記録を示した。

市價推移 大阪水曜會電銅相場(百斤建) 單位圓

昭和十年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	通計
最高	七〇・〇〇	六八・五五	七四・〇〇	七五・五五	七九・〇〇	七五・五五	七五・〇〇	八〇・七五	八〇・七五	八〇・〇〇	八〇・七五	八〇・七五	八〇・七五
最低	六六・〇〇	六五・五五	六六・五五	六五・五五	六九・〇〇	六九・〇〇	六九・〇〇	六九・〇〇	六九・〇〇	六九・〇〇	六九・〇〇	六九・〇〇	六九・〇〇
平均	六八・三三	六七・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三	七二・三三

アルミニウム (塊、錠、粒)

全国輸入高	一六三、九三擔	一四、三三、三九圓	八九、〇六擔	七、四三、〇二九圓
内阪神兩港	三五、六六二	二、七六、一九五	五五、三三〇	四、七四、四八五

阪神兩港本年の輸入は前年に比し、七萬擔、六百三十九萬圓餘の激増で、數量、價額共略二倍半に躍増した事となる。之は軍需、其他方面の消費量の著増の外、國産アルミ保護の爲輸入關稅引上氣運濃厚なりしを以て見越輸入が相當に上り、斯くの如き多量の輸入を見たものである。

主要仕入國は加奈陀(六百三萬圓)諾威(三百萬圓)瑞西(二百五十六萬圓)である。需給狀況について見れば本年度總需要高は一萬三千噸と推定され、之に對する本邦生産高は三千噸見當なる爲、多量の輸入を見たが、本邦アルミニウム工業はこゝ二、三年間に急速な發達を遂げ、早くも供給過剰が懸念されてゐる。即ち、

日本電氣工業株式會社―朝鮮聲山明礬石を原料とし、年産六千噸、近く倍額に能力を擴張する豫定である。資本金二千五百萬圓。
 日滿アルミニウム株式會社―輸入ボーキサイト並礬土頁岩を原料とし十年六月より製造開始、生産能力年千五百噸十一年中に五千噸に擴張の豫定、資本金五百萬圓。
 日本アルミニウム株式會社―原料は蘭印ピンタン島ボーキサイト、臺灣日月潭電力により年産六千噸、十一年末より本格的操業の豫定、資本金一千萬圓。
 住友アルミニウム精錬會社―朝鮮玉理山の明礬石を原料とし、十一年より製造を始め、年産千五百噸であるが七千噸まで擴張の豫定、資本金一千萬圓。
 尙本邦アルミニウム供給は前記塊錠粒の輸入の外屑及故のアルミニウムを米國、英印等より輸入し、之を再生

し、本邦独自の發達を見たのであつたが原礬の研究成功により、屑及故の輸入は減少傾向にある。

市價推移 大阪市卸賣相場 一疋建 (單位圓)

昭和十年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
一・六〇	一・六〇	一・五五	一・五五	一・六〇	一・五五	一・五五	一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・五五

鉛 (塊及錠)

十年 九年

全国輸入高	一、五三、四三擔	二〇、三三、〇四圓	一、五七、二九擔	一七、九三、〇九圓
内阪神兩港	八六、八八〇	二、五七、四七七	九六、五二四	一〇、八七、四九三

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量八萬八千擔減、價格六十九萬五千五百圓餘増であつた。全國に就いて見ても數量減の價格増となつてをり、單價の騰貴を物語つてゐる。

主要仕入國は加奈陀(六百九十三萬圓)米國(四百八十二萬圓)英領印度(四百六十三萬圓)等で前年に比し、加、米は減少し、英印は増加を見た。

需給狀況 本邦鉛生産は總需要額の一割にも達してゐないが近時需要激増に従ひ幾分増加傾向にある。

昭和十年	九年	八年	七年
生 産	七、一五九噸	七、〇九九噸	六、八五五噸
輸 入	九、三〇八	九、五二四	六、七二五噸
輸 出	一、四一七	二、〇二一	七、六八
差 引 需 要	九七、〇六六	一〇〇、〇七一	七三、三九二

市價推移 大阪市卸賣相場 百疋建 (單位圓)

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
一九・三七	一九・〇八	二〇・〇元	二一・三三	二四・四七	二五・三三	二六・三三	二六・二九	二九・二七	三二・九二	三二・九二	三〇・〇五	二五・七六

亞鉛 (塊、錠及粒)

十年

九年

全國輸入高

五、〇五五 八、〇三三、五三〇

四、九五五 七、三三、六五〇

内 阪 神 兩 港

四、五九五 六、六八、四九五

三、四三〇 五、〇三、七八〇

阪神兩港本年の輸入は前年に比し、八萬擔、九十七萬四千六百圓餘の増加であつた。之は本邦工業進展に伴ふ鍍金ペイント用原料の需要増加等によるものと見られる。

主要仕入國は加奈陀(二百八十一萬三千圓)、濠洲(三百七十二萬九千圓)、米國(百八十四萬八千圓)等で前年に比し、米、濠は増加し、加は減少を見た。其の原因として米國物は割安の爲、濠洲品は運賃關係にて歐洲へ輸出するより有利な爲日本向販賣に努力したものと如くである。加奈陀よりの減少はオタワ會議の結果主としてロンドンに向けられた爲本邦への輸出減少を來たしたものである。

生 産

★三、三〇〇

三、一〇〇

三、五七〇

三、七〇〇

三、四七〇

輸 入

四、八四三

三、〇三八

三、三三三

二、六七一

二、四三三

需 要

七、一四三

四、三三三

三、一八三

五、六一五

五、〇〇〇

亞鉛錠輸入

四、二九三

一、三〇九

三、八二二

三、五四四

二、四九〇

★ハ推定

市價推移 大阪市に於ける相場 百斤建 (單位圓)

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
二九・九四	二九・三五	二九・三三	三〇・五〇	三〇・五九	三〇・五九	三〇・五九	三〇・五九	三〇・五九	三〇・五九	三〇・五九	三〇・五九

錫 (塊及錠)

十年

九年

全國輸入高

七、〇八八斤 一五、五八一、三六圓

六、五七三斤 一五、三六、〇四圓

内 阪 神 兩 港

三、三三三 五、二〇三、七六八

三、四三三 五、〇三〇、七七七

阪神兩港本年の輸入は前年に比し數量一千八百八十一擔、價額三十九萬九千七百圓餘の減少を示した。然し全國に於ては三千擔、二十六萬圓餘の増加であつた。軍需工業の活況、鋳力板製造工業の躍進により國內錫生産高の激増にも拘らず輸入増を來たしたものである。

主要仕入國は海峽殖民地(九百八十九萬圓) 中華民國(三百十九萬圓) 香港(二百三十九萬圓)等である。前年に比し海峽殖民地よりの輸入は七十一萬圓の減少を見たが之は國內高品位錫の生産著増に依るものであり、之に反し香港、支那よりの輸入は夫々百十一萬圓、四十六萬圓の増加を示した、之は低品位錫に對する需要の旺盛と米國鋳力屑輸出禁止に基く國內再生錫の生産減に因るもの如くである。

錫の主要生産國は英領馬來、ポリビヤ、蘭印、暹羅、ニゼリヤ等で國際錫限産協定による限産に加ふるに消費増加の爲在荷は急減し、活況を呈した。

需給狀況 次表の如く、生産輸入を合した全需要量は六千三百担、之に對する國內産額は年々増加しつつあるも本年は二千五十九担で全需要の約1/3を満すに過ぎぬ。

國內生産高	二、〇五九、六九九	一、八八一、三三三
輸 入 高	四、二五三、〇八〇	四、〇〇四、三三〇
計	六、三一、七四九	五、八三、六六三

市價推移 水曜會建値平均 (百斤建)

一五六

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三九圓	三五圓	三八圓	三九圓	三六圓	三二圓	三〇圓	二五圓	三九圓	三六圓	三六圓	三五圓

全製 品

毛織 物

全國輸入高	十一年	六、七三、一九圓	九一年	五、一九、七〇圓
内阪神兩港		三、六五、七六		二、九四、六三

阪神兩港本年の輸入は前年に比し七十三萬一千圓の増加を見た。本品の輸入は内地毛織業の發達に伴ひ年々減少しつゝあつたが本年は内地需要増加及輸出増加等から幾分の増加を見たものである。

本邦毛織物工業の發達は本邦産業中でも殊に目覺ましく、大戦中の毛織物出超を除いては例年莫大な入超を續け大正十三年の輸入の如きは實に六千六百四十四萬圓に達してゐたのであるが、本邦毛織工業の進展と共に輸入は漸減を續け爲替低落により更に減少し昨年は五百十九萬圓に過ぎなかつた。之に對し輸出は昭和七年の四百四十八萬圓から八年には一躍三倍の千二百三十七圓となり、更に九年の輸出は二千九百八十五萬圓、又十年には三千二百四十萬圓と實に著しい増加振を示し、完全に毛織物出超國となり歐米先進國に著しい脅威を與へてゐる。

種類別輸入高 (全國)

天鵞絨及ブラツシユ	十一年	六、八四、方碼	九一年	四、二六、方碼
毛		八三、〇二五		五〇、八七五
毛織製		三、五二、五九		二、四三、八六三
				一〇、三七圓

毛 綿 製 三、三二、八六〇 毛織製 一〇、三七圓
 毛絹及毛綿絹製 五、一一三、〇三三 10M、010 二、五八、七九

主要仕入國は英國(六千五百三十六萬圓)が九六%を占め首位にあり、他は獨逸(十三萬圓)佛蘭西(四萬九千圓)等である。

市價推移 大阪市卸賣相場 羅紗(六五〇番メルトン)、一碼建
 一月二圓一五錢、二月乃至九月二圓一〇錢に保合ひ、九月二圓〇八錢に微落、十月二圓十錢と回復し、十一月二圓三〇錢、十二月二圓四〇錢と騰貴し、十年平均では二圓一四錢となる。
 尙九年平均は二圓二八錢、八年平均二圓一二錢であつた。

紙 類

全國輸入高	十一年	一五、七四、三六圓	九一年	三、七九、二九圓
内阪神兩港		五、一七、三三		四、四四、三〇

阪神兩港本年の輸入は前年に比し、六十九萬七千圓の増加を見た。全國に於ても百萬圓餘の増加を見たが、之は主として新聞用紙の需要増加によるものである。即ち加奈陀産下級印刷紙が格安なる爲輸入引合を見たもので、對加通商擁護法發動に際しても本品は除外され、尙又加奈陀に於ては過剰生産處分のダンピング傾向があつた爲愈々輸入増加を來たしたものである。

主要品種類輸入額 全國紙類輸入一千五百七十四萬圓中半額以上の八百二十一萬圓は新聞、雜誌用の印刷用紙で他は模造羊皮紙、寫眞用、包装用である。

品名	十年	九年
印刷料紙	八、三三〇	五、六五七
筆記用紙	四九	四六五
圖書用紙	三〇二	三〇二
包装、燐寸用紙	一、六六五	二、五九三
紙	五五	八七
板紙	一五八	一〇二
模造日本紙及チツシユペーパー	四〇二	五八二
模造羊皮紙	二、〇五	三〇六
寫真用紙	一、六六	一、六五七
寫真用紙	一、六六	三、三九

主要輸入國は加奈陀(七百三十四萬圓)が半を占め、印刷料紙及包装用紙を主とする。他は獨逸(三百六十一萬圓)で模造羊皮紙及ペライタペーパーを主とし、瑞典(百八十二萬圓)は包装用紙、英國(百十二萬圓)は印刷及筆記用紙を主とする。

需給狀況は次表の如く略自給自足の域に達してゐる。

年	本邦洋紙需給 (單位百萬封度)		輸出	年末在庫	需要計
	生産	輸入			
十	一、七三〇	一、六七	一五〇	一一	一、五八
九	一、五九二	一、九	一八四七	一〇一	一、六〇五
八	一、四四四	一、四	一、七〇三	一〇五	一、四八二

寫真用フィルム

品名	十年	九年
全國輸入高	六三、五八斤	五八、九〇、六八圓
内阪神兩港	三三、〇九八	三三、六六、一三圓
		五八、六三斤
		四、七六、六六圓

種類別(全國)	感光性		活動寫真用	
	計	其ノ他	計	其ノ他
感光性	四〇、七五、九四圓	三、三六、九七圓	七三、五九	五九、〇九
活動寫真用	一、〇六、五三	一、〇六、五三	四、〇八、四三	三、九〇、〇七
其ノ他	三、九三	一、六	八六、三七	八六、三七
計	一、〇六、五三	一、〇六、五三	八六、五五	八六、五五

阪神兩港本年の輸入は前年に比し、二萬八千六百斤餘、五十二萬三千圓餘の増加であつた。前表に見る如く輸入フィルムの八割は映畫用フィルムによつて占められ年々増加の傾向にある。之は云ふまでもなく我國映畫界の發達による生フィルム需要増加によるものである。國産品も次第に擡頭し、普通寫眞の如きは創業日尙淺きに拘らず、外國品驅逐の勢にあり、唯前記映畫用生フィルムは之を多く米國、獨逸、白耳義、加奈陀等に需めてゐる。

本邦に於ける寫真フィルム生産は政府の補助を得て昭和三、四年頃から實現し以來堅實に發展しつゝある。即ち其の生産額は昭和四年三十九萬四千圓、五年四十五萬八千圓、六年七十一萬五千圓、七年九十五萬六千圓、八年に至り百萬圓を突破し百四十萬八千圓に躍進し、更に九年には一躍二百七十一萬九千圓に達した。然し國産品は内地需要の約半を滿すに過ぎず、今後特に映畫用フィルム生産について尙一層の研究が肝要とされてゐる。

機械及同部分品

品名	十年	九年
全國輸入高	一〇五、〇〇八、一七圓	九〇、〇三三、五五圓

内阪神兩港

興、七、五、七、五

興、四、九、〇、五

阪神兩港本年の輸入は前年に比し四百二十八萬七千圓餘の増加であつた。
 本邦機械類の輸入は大正九年に一億圓を突破し、大正十三年には一億二千八百五十二萬圓の最高記録を印し以來一
 上一下しつゝあつたが近年は又増加傾向にある。之は軍需並に輸出品工業の活況に伴ふ各工場の設備充實、擴張及び
 新設による機械類需要増によるものである。
 主要品種輸入高に就いて見れば金屬工及木工機械が最も多く、内燃機が之に次ぎ其他縫衣機、汽罐類等を主とする
 又雜種機械及同部分品の輸入が近來漸増傾向にある事は本邦一般機械製造工業の發展により輸入は漸次特殊機械へ向
 ひつゝある事を物語るものゝ如くである。

種類別輸入額 (部分品を含む)

種類	十年	九年	十年	九年
汽罐類	六、〇九、八三圓	四、〇〇、八〇圓	紡績用機械	四、六三、八六圓
内燃機	一五、五八、六八	一〇、七七、八八	金屬工、木工機	一八、二九、九九
發電機	二、五七、三三	一、三三、六四	メリヤス機	一、六四、〇五
縫衣機	六、二五、五六	五、六三、六四	カードクロージング	三、八八、八八
水壓機	一、四〇、六八	五、四、五四	製紙用フェルト	一、二五、〇一
氣體壓縮機	一、〇五、〇三	一、七二、八六	其他	四、六九、六九

主要仕入國は米國(三千八百九十萬圓)が總輸入額の三七%を占め第一位にあり、獨逸(二千九百八十八萬圓)英國
 (二千八百八十六萬圓)瑞典(五百九十五萬圓)等が之に次いでゐる。

自動車及同部分品

全國輸入高

三、五九、三三圓

三、三〇、三三圓

内阪神兩港

二、一一、七〇

二、三二、四九

阪神兩港本年の輸入は前年に比し、百九萬九千圓餘の減少であつたが、全國に就いて見れば二十八圓七千圓の増加
 を示してゐる。

本品の輸入は昭和四年の三千四百萬圓を頂上にして圓價下落等の爲漸減し、八年には千三百萬圓に減少したが昨九
 年に至り、軍需並に一般工業の好況を反映し、一躍三千二百萬圓に達した。

尙關稅關係から其の九〇%は部分品でフォード、シヴォレー等各社の日本組立工場に於て完成車とせられてゐるの
 は周知の如くである。

主要仕入國は自動車の國アメリカ(三千百二十五萬圓)が九六%を占め依然第一位にあり、其他は英國(四十萬六千
 萬圓)獨逸(二十七萬圓)である。

需給狀況 本邦自動車年需要臺數は自然増加が一萬五千臺、老廢車補充一萬臺、其他非常時、或は好景氣等を考慮
 に入れて合計三萬臺見當と見られ、之に對する國産は昭和八年漸く一萬臺に達し、九年十年と自動車工業殊に小型及
 トラックの製造發達し十年には五千臺と推定されてゐるが自給は尙前途遑速を思はせるものがある。

本邦自動車數 (單位輛)

昭和	乗用車	貨物車	特殊車	合計
六年	六五、九七	三、九六	二、三三	九〇、〇五
七年	六六、九六	三、五九	二、五八	一〇三、一五
八年	六六、三三	三、一七	二、四六	一〇六、八三
九年	六六、三三	四、三三	二、七三	一三二、三九
十年	八二、七五	四、八三	三、九四	一三〇、五二

本邦自動車數は上表の如く着實な増加振を見せてをり、自動車製造事業法の制定により愈々確保されるのであるが
 我國産業、國防上の自動車需要限度は四十萬臺と目され、昭和二十年にはこの數に達する豫定とされてゐる。

大阪港輸出入品國別年計明細表目次 (昭和十年中)

	輸出之部	輸入之部
第一類 植物及動物	一	一五
第二類 穀粉、澱粉及種子	二	一五
第三類 飲食物及煙草	二	一五
第四類 皮毛、骨角、齒牙甲殼類及同製品	三	一六
第五類 油脂蠟及同製品	三	一六
第六類 藥材、化學藥、製藥其他ノ調合品及爆發藥	四	一六
第七類 染料顏料、塗料及填充料類	六	一七
第八類 絲纜繩索及同材料	三	一七
第九類 布帛及同製品	三	一七
第十類 衣類及同附屬品	六	一七
第十一類 紙、パルプ及紙製品	六	一七
第十二類 礦物及同製品	六	一七
第十三類 陶磁器及硝子類	六	一七
第十四類 鍍及金屬	九	一七
第十五類 金屬製品	一〇	一七
第十六類 時計、學術器、銃砲、船車及機械類	一五	一七
第十七類 雜品	一七	一七

大阪輸出—③ 飲食物及煙草

印	海	フ	香	支	關	滿	計	マ	細	蘭
10	12	2	14	3	1	1	1	1	3	1
2,700	3,300	300	3,800	600	100	100	100	100	9,000	600

瀛	墨	合	土	伊	英	蘭	比	印	海	フ	香	支	關	滿	計	ケ	土	英	蘭	ボ	比
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

香	支	關	滿	計	黄	モ	ケ	埃	墨	土	白	ボ	比	印	海	フ	香	支	關	滿	計
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

香	支	關	滿	計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

大阪輸出—④ 飲食物及煙草

香	支	關	滿	計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

伊	蘭	ボ	比	印	海	フ	香	支	關	滿	計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

香	支	關	滿	計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

香	支	關	滿	計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

大阪輸出 ③ 飲食物及煙草

海	運	フ	香	南	支	關	滿	同	計	濠	モ	ケ	伯	墨	合	伊	獨	英	蘭	ポ	比	シ	印	海	フ
三〇、七三	八、六〇	一、八、七九	一、五、八六	一、八、七九	八、七、二四	二、五、五〇	三、三、五五	一、九、九〇	五、三、二四	五、六、四一	三	一	一	一	一	一	一	一	九、七三	四、三	三、八〇	一、〇〇〇	一、四、四七	二、四、二	二、八三
六、七、七五	三、四、七三	二、六、七三	五、四、五〇	五、四、五〇	二、〇、六二	三、三、七七	二、五、四四	一、〇、八七	二、一、〇七	一、五、九三	一、四、九	六	九	三	六	二	二	三、八〇	一、〇〇〇	三、八〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九、九四	九、九四	

同 (柑橘類)

新	合	白	英	蘭	ポ	比	印	海	運	香	中	支	關	滿	同	計	ケ	伯	墨	獨	佛	蘭	ポ	比	印
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	

同 (其他)

滿	同	計	埃	コ	ロ	墨	合	土	白	英	細	蘭	ポ	比	印	海	フ	香	南	支	關	滿	同	計
四、八〇	一、六、九一	四、〇、八六	七、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七
一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一	一、六、九一

邊詰 (鳥獸肉)

計	ニ	力	濠	ケ	墨	加	合	マ	土	和	伊	佛	英	蘭	ポ	比	七	印	海	運	フ	香	南	支	關
三、五、五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三、五、五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

大阪輸出 ③ 飲食物及煙草

滿	同	計	海	香	關	滿	同	計	合	蘭	比	印	海	香	南	支	關	滿	同	計	海	關	滿	大
七、三、八	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七、三、八	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九

同 (調味料)

運	フ	香	南	支	關	滿	同	計	濠	典	伊	蘭	ポ	比	印	海	香	南	支	關	滿	同	計
九、五、三	二、一、五	四、五	五、五、五	一、五、八	三、八、〇	五、五、七	一、九、〇	七、六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九、五、三	二、一、五	四、五	五、五、五	一、五、八	三、八、〇	五、五、七	一、九、〇	七、六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

同 (其他)

比	七	印	海	フ	香	南	支	關	滿	同	計	濠	ケ	伯	墨	典	芬	波	英	蘭	ポ	比	印	海
五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

同 (燒酎)

計	秘	墨	伊	佛	蘭	ポ	比	印	海	運	フ	香	南	支	關	滿	同	計	濠	墨	伊	蘭	ポ
九、六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九、六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

